

大学院医学系研究科 看護学専攻  
博士前期課程（修士課程）

---

# 講義概要

---



滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

# 目次

【授業科目及び単位数表】 .....	7
--------------------	---

## 【講義概要】

### 共通科目

全領域	看護学研究方法論Ⅰ .....	9
	看護学研究方法論Ⅱ .....	13
	看護学研究方法論Ⅲ .....	17
	看護学研究方法論Ⅳ .....	20
	看護学研究方法論Ⅴ .....	24
	外国語文献レビュー .....	26
	看護理論 .....	30
	看護倫理 .....	34
	看護管理学 .....	38
	コンサルテーション論 .....	43
	看護教育学 .....	48
	看護政策論 .....	52
	臨床解剖生理学 .....	57
	臨床薬理学 .....	60
	臨床診断学 .....	63
	看護学課題実習 .....	67
特定行為	疾病予防学 .....	70
	フィジカルアセスメント .....	72
	疾病・臨床病態概論 .....	75
	臨床推論Ⅰ .....	77
	臨床推論Ⅱ .....	79
	特定行為実践論 .....	81
	特定行為実践演習 .....	83
	診療看護実践論 .....	85

## コース科目 研究コース

### 生涯発達看護実践科学部門

ウイメンズヘルス看護学領域	ウイメンズヘルス看護学特論 .....	88
	ウイメンズヘルス看護学演習 .....	92
	周産期看護学演習 .....	98

チャイルドヘルス看護学領域	チャイルドヘルス看護学特論 .....	103
	チャイルドヘルス看護学演習 A.....	107
	小児看護学演習 B.....	110

NCD 看護学領域	NCD 看護学特論 .....	113
	NCD 看護学演習 A.....	115
	NCD 看護学演習 B.....	117

フレイルケア看護学領域	フレイルケア看護学特論 .....	119
	フレイルケア看護学演習 A.....	123
	老年看護学演習 B.....	127

看護病態管理学 1 領域	看護病態管理学 1 特論 .....	131
	看護病態管理学 1 演習 A.....	133
	臨床病態管理学演習 B.....	134

看護病態管理学 2 領域	看護病態管理学 2 特論 .....	135
	看護病態管理学 2 演習 A.....	137
	基礎看護学Ⅲ演習 B .....	139

### ケアシステム看護科学部門

基盤医科学領域	基盤医科学特論 .....	141
	基盤医科学演習 A.....	143
	基礎看護学Ⅱ演習 B .....	145

基盤看護学領域	基盤看護学特論 .....	147
	基盤看護学演習 A.....	151
	基礎看護学Ⅰ演習 B.....	156

ヘルスプロモーション看護学領域	ヘルスプロモーション看護学特論..... 161
	ヘルスプロモーション看護学演習 A..... 164
	地域看護学 I 演習 B..... 167
訪問看護学領域	訪問看護学特論..... 170
	訪問看護学演習 A..... 174
	地域看護学 II 演習 B..... 177
精神保健看護学領域	精神保健看護学特論..... 180
	精神保健看護学演習 A..... 184
	精神看護学演習 B..... 187

## コース科目 高度実践コース

### 専門看護師領域

#### 母性 CNS 部門

ウイメンズヘルス学特論..... 191
ウイメンズヘルス看護学演習..... 194
周産期ハイリスク特論..... 200
周産期看護学演習..... 203
母乳看護学..... 208
周産期メンタルヘルス学..... 210
リプロダクティブヘルスと看護..... 213
周産期家族看護学.....(掲載なし)
女性と暴力..... 215
ウイメンズヘルスケア実習..... 217
母性看護実践実習 I.....(掲載なし)
母性看護実践実習 II.....(掲載なし)
周産期看護演習 I.....(掲載なし)

### 特定行為領域

#### 専門科目

呼吸管理学実習 I..... 221
呼吸管理学実習 II..... 224
呼吸管理学実習 III..... 228
循環管理学実習 I..... 231

	循環管理学実習Ⅱ .....	236
	循環管理学実習Ⅲ .....	239
	循環管理学実習Ⅳ .....	240
	外科管理学実習Ⅰ .....	244
	外科管理学実習Ⅱ .....	246
	外科管理学実習Ⅲ .....	248
	外科管理学実習Ⅳ .....	250
	栄養管理学実習Ⅰ .....	251
	栄養管理学実習Ⅱ .....	253
	栄養管理学実習Ⅲ .....	255
	栄養管理学実習Ⅳ .....	257
	栄養管理学実習Ⅴ .....	259
	創傷管理学実習Ⅰ .....	261
	創傷管理学実習Ⅱ .....	263
	感染管理学実習 .....	265
	精神疾患管理学実習 .....	266
	疼痛管理学実習 .....	270
	スキルズラボ演習Ⅰ .....	273
	スキルズラボ演習Ⅱ .....	275
	看護実践演習（特定行為実践） .....	277
<b>特定行為実践部門</b>	特定行為看護特論 .....	283
	特定行為看護演習Ⅰ .....	284
	特定行為看護演習Ⅱ .....	285
<b>周麻酔期看護実践部門</b>	周麻酔期看護特論 .....	286
	周麻酔期看護演習Ⅰ .....	290
	周麻酔期看護演習Ⅱ .....	293
	周麻酔期看護実践Ⅰ .....	296
	周麻酔期看護実践Ⅱ .....	299
	周麻酔期看護実践Ⅲ .....	301

## コース科目 看護管理コース

### 看護管理領域

看護管理実践部門	看護管理特論 .....	303
	看護管理演習 I .....	307
	看護管理演習 II .....	311
	看護実践実習（看護管理実践） .....	315

## 研究科目

研究コース	看護学特別研究 .....	318
高度実践コース	看護実践課題研究（母性 CNS） .....	(掲載なし)
	看護実践課題研究（特定行為実践） .....	321
看護管理コース	看護実践課題研究（看護管理実践） .....	324

令和6年度 授業科目及び単位数表

	研究領域/部門	授業科目	授業形態	研究コース		高度実践コース				看護管理コース		単位数		
				配当年次	必修・選択	専門看護師領域		特定行為領域		看護管理領域				
						配当年次	必修・選択	配当年次	必修・選択	配当年次	必修・選択			
全領域		看護学研究方法論Ⅰ	講義	1前	必修	1~2	必修	1~2前	必修	1前	必修	2		
		看護学研究方法論Ⅱ	講義	1後	選択必修	1~2	—	1~2後	選択	1~2	選択	2		
		看護学研究方法論Ⅲ	講義	1後	—	1~2	—	1~2後	選択	1~2	選択	2		
		看護学研究方法論Ⅳ	講義	1後	必修	1~2	—	1~2後	選択	1後	選択	2		
		看護学研究方法論Ⅴ	演習	1通年	必修	1	—	1通年	選択	1通年	選択	2		
		外国語文献レビュー	講義	1前	選択	1	—	1前	選択	1前	選択	2		
		看護理論	講義	1前	選択	1~2	選択	1~2前	選択	1前	必修	2		
		看護倫理	講義	1前	選択	1~2	選択	1~2前	選択	1~2前	必修	2		
		看護管理学	講義	1後	選択	1~2	選択	1~2後	選択	1後	必修	2		
		コンサルテーション論	講義	1前	選択	1~2	選択	1~2前	選択	1前	必修	2		
		看護教育学	講義	1前	選択	1~2	選択	1~2前	選択	1前	選択	2		
		看護政策論	講義	1前	選択	1~2	選択	1~2前	選択	1前	選択	2		
		臨床解剖生理学	講義	1前	選択	1~2	必修	1~2前	選択	1前	選択	2		
		臨床薬理学	講義	1前	選択	1	必修	1前	選択	1前	選択	2		
		臨床診断学	講義	1前	選択	—	—	1前	選択	1前	選択	2		
		看護学課題実習	実習	1通年	選択	—	—	—	—	—	—	2		
		特定行為		疾病予防学	講義	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	2
				フィジカルアセスメント	講義	1~2	選択	1~2	必修	1~2	選択	1~2	選択	2
				疾病・臨床病態概論	講義	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	2
				臨床推論Ⅰ	講義	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	2
臨床推論Ⅱ	講義			1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	2		
特定行為実践論	講義			1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	2		
特定行為実践演習	演習			1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	1		
診療看護実践論	講義			1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	1~2	選択	2		
研究コース	生涯発達看護実践科学部門	ウイメンズヘルス看護学	ウイメンズヘルス看護学特論	講義	1前	必修・選択	—	—	—	—	—	2		
			ウイメンズヘルス看護学演習	演習	1後	必修	—	—	—	—	—	1		
			周産期看護学演習	演習	2前	必修	—	—	—	—	—	1		
		チャイルドヘルス看護学	チャイルドヘルス看護学特論	講義	1前	必修・選択	—	—	—	—	—	2		
			チャイルドヘルス看護学演習A	演習	1後	必修	—	—	—	—	—	1		
			小児看護学演習B (令和7年度～：チャイルドヘルス看護学演習B)	演習	2前	必修	—	—	—	—	—	1		
		NCD看護学	NCD看護学特論	講義	1前	必修・選択	—	—	—	—	—	2		
			NCD看護学演習A	演習	1後	必修	—	—	—	—	—	1		
			NCD看護学演習B	演習	2前	必修	—	—	—	—	—	1		
		フレイルケア看護学	フレイルケア看護学特論	講義	1前	必修・選択	—	—	—	—	—	2		
			フレイルケア看護学演習A	演習	1後	必修	—	—	—	—	—	1		
			老年看護学演習B (令和7年度～：フレイルケア看護学演習B)	演習	2前	必修	—	—	—	—	—	1		
	看護病態管理学Ⅰ	看護病態管理学Ⅰ特論	講義	1前	必修・選択	—	—	—	—	—	2			
		看護病態管理学Ⅰ演習A	演習	1後	必修	—	—	—	—	—	1			
		臨床病態管理学演習B (令和7年度～：看護病態管理学Ⅰ演習B)	演習	2前	必修	—	—	—	—	—	1			
	看護病態管理学Ⅱ	看護病態管理学Ⅱ特論	講義	1前	必修・選択	—	—	—	—	—	2			
		看護病態管理学Ⅱ演習A	演習	1後	必修	—	—	—	—	—	1			
		基礎看護学Ⅲ演習B (令和7年度～：看護病態管理学Ⅱ演習B)	演習	2前	必修	—	—	—	—	—	1			
	ケアシステム看護科学部門	基盤医科学	基盤医科学特論	講義	1前	必修・選択	—	—	—	—	—	2		
			基盤医科学演習A	演習	1後	必修	—	—	—	—	—	1		
			基礎看護学Ⅱ演習B (令和7年度～：基盤医科学演習B)	演習	2前	必修	—	—	—	—	—	1		
		基盤看護学	基盤看護学特論	講義	1前	必修・選択	—	—	—	—	—	2		
			基盤看護学演習A	演習	1後	必修	—	—	—	—	—	1		
			基礎看護学Ⅰ演習B (令和7年度～：基盤看護学演習B)	演習	2前	必修	—	—	—	—	—	1		
ヘルスプロモーション看護学	ヘルスプロモーション看護学特論	講義	1前	必修・選択	—	—	—	—	—	2				
	ヘルスプロモーション看護学演習A	演習	1後	必修	—	—	—	—	—	1				
	地域看護学Ⅰ演習B (令和7年度～：ヘルスプロモーション看護学演習B)	演習	2前	必修	—	—	—	—	—	1				
訪問看護学	訪問看護学特論	講義	1前	必修・選択	—	—	—	—	—	2				
	訪問看護学演習A	演習	1後	必修	—	—	—	—	—	1				
	地域看護学Ⅱ演習B (令和7年度～：訪問看護学演習B)	演習	2前	必修	—	—	—	—	—	1				
精神保健看護学	精神保健看護学特論	講義	1前	必修・選択	—	—	—	—	—	2				
	精神保健看護学演習A	演習	1後	必修	—	—	—	—	—	1				
	精神看護学演習B (令和7年度～：精神保健看護学演習B)	演習	2前	必修	—	—	—	—	—	1				

令和6年度 授業科目及び単位数表

	研究領域/部門	授業科目	授業形態	研究コース		高度実践コース				看護管理コース		単位数	
				配当年次	必修・選択	専門看護師領域		特定行為領域		看護管理領域			
						配当年次	必修・選択	配当年次	必修・選択	配当年次	必修・選択		
高度実践コース	専門看護師領域	ウイメンズヘルス学特論	講義	—	—	1前	必修	—	—	—	—	2	
		ウイメンズヘルス看護学演習	演習	—	—	1後	必修	—	—	—	—	2	
		周産期ハイリスク特論	講義	—	—	1前	必修	—	—	—	—	2	
		周産期看護学演習	演習	—	—	1後	必修	—	—	—	—	2	
		母乳看護学	講義	—	—	2前	必修	—	—	—	—	1	※令和7年度初開講
		周産期メンタルヘルス学	講義	—	—	1前	必修	—	—	—	—	2	
		リプロダクティブヘルスと看護	演習	—	—	1後	必修	—	—	—	—	1	
		周産期家族看護学	講義	—	—	2前	必修	—	—	—	—	1	※令和7年度初開講
		女性と暴力	演習	—	—	1後	必修	—	—	—	—	1	
		ウイメンズヘルスケア実習	実習	—	—	1後	必修	—	—	—	—	2	
		母性看護実践実習Ⅰ	実習	—	—	2前	必修	—	—	—	—	4	※令和7年度初開講
		母性看護実践実習Ⅱ	実習	—	—	2通年	必修	—	—	—	—	4	※令和7年度初開講
	周産期看護演習Ⅰ	演習	—	—	2	選択	—	—	—	—	2	※令和7年度初開講	
	特定行為領域	専門科目	呼吸管理学実習Ⅰ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	1
			呼吸管理学実習Ⅱ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	4
			呼吸管理学実習Ⅲ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	1
			循環管理学実習Ⅰ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	3
			循環管理学実習Ⅱ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	2
			循環管理学実習Ⅲ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	2
			循環管理学実習Ⅳ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	4
			外科管理学実習Ⅰ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	2
			外科管理学実習Ⅱ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	2
			外科管理学実習Ⅲ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	1
			外科管理学実習Ⅳ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	2
			栄養管理学実習Ⅰ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	2
			栄養管理学実習Ⅱ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	3
			栄養管理学実習Ⅲ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	1
			栄養管理学実習Ⅳ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	2
			栄養管理学実習Ⅴ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	3
			創傷管理学実習Ⅰ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	2
			創傷管理学実習Ⅱ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	1
			感染管理学実習	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	3
精神疾患管理学実習			実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	2	
疼痛管理学実習			実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	2	
スキルズラボ演習Ⅰ			演習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	2	
スキルズラボ演習Ⅱ			演習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	2	
看護実践演習(特定行為実践)			演習	—	—	—	—	1~2	必修	—	—	6	
看護管理コース	特定行為実践	特定行為看護特論	講義	—	—	—	—	1~2	必修	—	—	2	
		特定行為看護演習Ⅰ	演習	—	—	—	—	1~2	必修	—	—	1	
		特定行為看護演習Ⅱ	演習	—	—	—	—	1~2	必修	—	—	1	
	周麻酔期看護実践	周麻酔期看護特論	講義	—	—	—	—	1~2	必修	—	—	2	
		周麻酔期看護演習Ⅰ	演習	—	—	—	—	1~2	必修	—	—	1	
		周麻酔期看護演習Ⅱ	演習	—	—	—	—	1~2	必修	—	—	1	
		周麻酔期看護実践Ⅰ	実習	—	—	—	—	1~2	必修	—	—	3	
		周麻酔期看護実践Ⅱ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	1	
		周麻酔期看護実践Ⅲ	実習	—	—	—	—	1~2	選択	—	—	1	
看護管理領域	看護管理特論	講義	—	—	—	—	—	—	1前	必修	2		
	看護管理演習Ⅰ	演習	—	—	—	—	—	—	1後	必修	1		
	看護管理演習Ⅱ	演習	—	—	—	—	—	—	2前	必修	1		
	看護実践実習(看護管理実践)	実習	—	—	—	—	—	—	1~2	必修	6		

コース	授業科目	授業形態	配当年次	必修・選択	単位数	授業担当教員
研究科目	研究コース 看護学特別研究	特別研究	1年後・2年通年	必修	10	各指導教員
	高度実践コース 看護実践課題研究(母性CNS)	課題研究	2	必修	4	各指導教員
	看護実践課題研究(特定行為実践)	課題研究	1~2	必修	4	各指導教員
	看護管理コース " (看護管理実践)	課題研究	1~2	必修	4	各指導教員

講義コード	5410010	
講義名	看護学研究方法論 I	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座
教授	河村 奈美子	公衆衛生看護学講座
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門		
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻生活の場研究領域家族看護研究部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻生活の場研究領域家族看護研究部門		
<b>学修目標(到達目標)</b>		
(1) 自らのリサーチクエスチョンを探索し、研究テーマに関するキーワードを見出し文献検索できる (2) 文献検索により出された文献を読み、体系的にクリティークができる (3) 研究方法の項目が理解でき、研究デザインの概観が理解できる (4) 研究デザインからデータ収集方法、分析方法の概観が理解できる (5) 具体的な研究の進め方について理解できる (6) 看護研究における倫理の原則、倫理的配慮について理解できる		

## 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

修士論文課題作成の準備段階として、自らの看護研究を遂行するための初歩的知識とスキルを学修することで、看護実践から導き出されたリサーチクエストに気づき、研究の意義を考えられるように学修する。看護学に資する研究であることの位置づけをディスカッションにより深めていく。

具体的な研究の進め方について、研究デザインの概要を理解し、リサーチクエストとデザイン方法の採択の関係が理解できるように具体的内容から教授する。

自らの研究課題に関係する文献を読み、作成した文献レビューをまとめることができるように演習的要素も取り入れる。

修士論文作成の手順と具体的方法が理解でき、論文化のための基礎的教授内容の理解を深めていく。

## 授業計画表

第1回	担当 教員	立岡 弓子
	項目	看護研究の歴史 看護研究とは クリニカルクエスト (看護研究における臨床疑問)
第2回	担当 教員	立岡 弓子
	項目	看護研究の歴史 看護研究とは クリニカルクエスト (看護研究における臨床疑問)
第3回	担当 教員	立岡 弓子
	項目	クリニカルクエストからリサーチクエストへ ・臨床場面からの問題意識と気づき ・看護実践への視点とエビデンスの必要性
第4回	担当 教員	立岡 弓子
	項目	リサーチクエストに基づく研究デザインの考え方 ・研究疑問のフェーズと研究デザイン ・看護研究方法論の概要 質的・量的研究の相違
第5回	担当 教員	河村 奈美子
	項目	リサーチクエストに基づく研究デザインの考え方 ・質的研究の学問的思考とアプローチ ・質的研究方法論の分類とその特徴
第6回	担当 教員	立岡 弓子

	<b>項目</b>	<p>リサーチクエスチョンに基づく研究デザインの考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・量的研究の学問的思考とアプローチ</li> <li>・量的研究方法論の分類とその特徴</li> <li>・トランスレーショナル・リサーチ</li> </ul>
第7回	<b>担当 教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	<p>研究の概念枠組みの設定 研究の意義の考え方について</p> <p>クリニカルクエスチョンからリサーチクエスチョンへの看護の志向性に関するプレゼンテーション</p>
第8回	<b>担当 教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	<p>文献検索方法 その1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文献探索の意義</li> <li>・看護研究における文献の特徴</li> <li>・資料の特徴と学術論文</li> <li>・文献検索データベースの特徴</li> </ul>
第9回	<b>担当 教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	<p>文献検索方法 その2 英語文献データベースの検索とその他のツールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医中誌Web CINAHL PubMed</li> <li>・Scopus, UpToDate, JCR</li> <li>・EndNote basic</li> </ul>
第10回	<b>担当 教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	文献検索の実際と文献クリティーク
第11回	<b>担当 教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	<p>看護研究の具体的方法論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学問的推論方法（帰納的推論と演繹的推論）</li> <li>・研究の概観からみた方法論の選択基準</li> <li>・研究デザイン方法論の理解</li> </ul>
第12回	<b>担当 教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	<p>①質的研究</p> <p>関連探索研究・・・事例研究・ケーススタディ・記述的研究・トライアングュレーション・臨床的個人的研究</p>

		理論研究・・・グラウンデッド・セオリー研究・現象学的研究・ミックスドメソッド研究
第13回	担当 教員	立岡 弓子
	項目	②量的研究 仮説検証研究・・・実験研究・RCT 関連検証研究・関連探索研究・・・観察研究・非実験研究
第14回	担当 教員	立岡 弓子
	項目	研究計画書の書き方・研究の進め方 看護研究の倫理 データ収集方法
第15回	担当 教員	立岡 弓子
	項目	研究成果のまとめ方・全体の構成 論文にまとめる意義 抄録作成 投稿方法

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

参加・討議内容（プレゼン含む）、課題レポート

#### テキスト（教科書等）

黒田裕子著；黒田裕子の看護研究Step by Step 第6版 医学書院 2023年

#### テキストISBN番号

9784260052658

#### 学生へのメッセージ

事前課題については、自身でテキストを読み学修して臨んでください。  
履修後の質問は、積極的に対応しますが、事前にアポイントをお願いします。

講義コード	5410020
講義名	看護学研究方法論Ⅱ
Lecture name	博士前期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河村 奈美子	公衆衛生看護学講座

### 学修目標(到達目標)

医療分野、看護学研究における質的研究の適用と意義について理解し、具体的かつ多様な質的研究方法について理解し、研究実施に向け必要な知識や研究スキルを獲得できる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

以下の内容について講義と演習を通して質的研究実施にむけた能力を養う。

1. 看護研究における質的研究の目的
2. さまざまな質的研究アプローチ
3. 研究目的と適切な方法の選択
4. 研究デザインと信頼性、妥当性
5. データ収集と分析
6. データの記述

各回の授業までに、授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解のうえで疑問をもって授業に備えることが求められる。

### 授業計画表

第1回	担当教員	河村 奈美子
	項目	質的研究とは

	<b>内容</b>	看護研究における質的研究と目的と目指すもの 質的研究の倫理
<b>第2回</b>	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	同上
	<b>内容</b>	理論からテキストへ ・文献利用と理論的立場
<b>第3回</b>	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	同上
	<b>内容</b>	研究デザイン ・質的研究プロセス ・フィールドへのアクセス ・サンプリング
<b>第4回</b>	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	同上
	<b>内容</b>	データ収集と分析 ・半構造化インタビュー ・ナラティブ ・フォーカスグループ
<b>第5回</b>	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	同上
	<b>内容</b>	データの記述
<b>第6回</b>	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	さまざまな質的研究アプローチと分析
	<b>内容</b>	観察とエスノグラフィー ビジュアルデータ
<b>第7回</b>	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	同上
	<b>内容</b>	グラウンデッドセオリー コード化、カテゴリー化
<b>第8回</b>	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	同上

	<b>内容</b>	現象学的アプローチ 解釈学的分析
第9回	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	同上
	<b>内容</b>	観察的アプローチ 会話分析・ディスコース分析
第10回	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	同上
	<b>内容</b>	内容分析、混合研究法
第11回	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	質的研究の実践
	<b>内容</b>	いくつかの質的研究方法について実践しプロセスと結果を発表、ディスカッション
第12回	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	同上
	<b>内容</b>	いくつかの質的研究方法について実践しプロセスと結果を発表、ディスカッション
第13回	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	同上
	<b>内容</b>	いくつかの質的研究方法について実践しプロセスと結果を発表、ディスカッション
第14回	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	同上
	<b>内容</b>	いくつかの質的研究方法について実践しプロセスと結果を発表、ディスカッション
第15回	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	同上
	<b>内容</b>	いくつかの質的研究方法について実践しプロセスと結果を発表、ディスカッション

授業形式・授業形態

演習やディスカッションへの積極的参加を求めます。社会人の受講者も多いことが予測され、日程調整を行い、集中での開講の可能性も想定しています。

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

#### 総括的評価

- プレゼンテーション（50%）
- 討論における発言状況（50%）

#### 形成的評価

講義内容の主要テーマごとのコメント、小レポートや授業内容のアンケートについて、都度のフィードバックを実施する

#### 態度評価

- 授業での発言などから学習意欲を評価する

合計を100%とし、60%以上を合格とする。

### テキスト（教科書等）

- ・ Morse JM & Field PA. (1996) .Nursing Research: The application of qualitative approaches (2ed.).Stanley Thornes;London. (以下の日本語訳版でも良いです)
- ・ ジャニスM、モース&ペギー・アン・フィールド. (2012) .モース&フィールドの看護研究（質的研究を実際に始めるためのガイド）野地有子訳、日本看護協会出版社

### テキストISBN番号

0-7487-3501-1,または978-4-8180-1613-2

### 参考文献等

- ・ Morse JM & Field PA.1996.Nursing Research: The application of qualitative approaches (2ed.).Stanley Thornes;London.
- ・ Morse JM.2016.Qualitative health research:Creating a new discipline.Rpitledge; New York.

看護研究：原理と方法（近藤潤子編）．医学書院

ウヴェ・フリック(2011).新版 質的研究入門(小田博監修)．春秋社

### オフィスアワー(授業相談)

月曜 11:30-12:30 その他メール等で連絡のうえ随時対応します。

namy@belle.shiga-med.ac.jp

### 学生へのメッセージ

積極的に参加してください。

### 授業用E-mail

[namy@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:namy@belle.shiga-med.ac.jp)

講義コード	5410030	
講義名	看護学研究方法論Ⅲ	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	宮松 直美	臨床看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
1.疫学の理論と方法、視点を理解する 2.各研究デザインの特徴を理解する 3.研究課題に適した統計学的手法を選定できる 4.結果の解釈の際に留意すべき点を理解する		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
疫学の基本的な考え方と研究方法および必要な統計手法について学び、エビデンス構築のための看護学研究遂行に必要な知識・技術を身につける。 学部教育における基本的な統計学を修得していることが望まれる。		
<b>授業内容</b>		
健康を評価するための指標およびその定義や測定方法、各自の研究課題を焦点化し仮説生成するための基本的な考え方、仮説の検討のために適した研究デザイン、研究遂行上重要な留意点等について概説する。 研究課題の適切な分析のために必要な、分布の特性の記述、推計・検定の手法および結果の解釈の留意点を演習を通じて教授する。		
<b>授業計画表</b>		
<b>第1回</b>	<b>担当教員</b>	宮松 直美

	内容	オリエンテーション・疫学とは何か
第2回	担当教員	宮松 直美
	内容	疾病頻度の測定
第3回	担当教員	宮松 直美
	内容	スクリーニング検査の評価、疾患の自然経過
第4回	担当教員	宮松 直美
	内容	ランダム化比較試験
第5回	担当教員	宮松 直美
	内容	コホート研究
第6回	担当教員	宮松 直美
	内容	ケースコントロール研究
第7回	担当教員	宮松 直美
	内容	リスクの推定
第8回	担当教員	宮松 直美
	内容	予防効果の推定
第9回	担当教員	宮松 直美
	内容	コホート研究とケースコントロール研究の比較
第10回	担当教員	宮松 直美
	内容	因果推論
第11回	担当教員	宮松 直美
	内容	遺伝要因と環境要因の役割
第12回	担当教員	宮松 直美
	内容	保健医療サービスの評価に対する疫学の応用
第13回	担当教員	宮松 直美
	内容	スクリーニングプログラムの評価に対する疫学の応用
第14回	担当教員	宮松 直美
	内容	解析演習@MMC
第15回	担当教員	宮松 直美
	内容	解析演習@MMC

#### 授業形式・授業形態

担当課題について、大学院生によるプレゼンテーションをもとに質疑および討論を行う。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

プレゼンテーション(50%)、討論への参加態度(50%)により総合的に評価する。

#### テキスト（教科書等）

疫学 医学的研究と実践のサイエンス 訳 木原正博 他 (メディカル・サイエンス・インターナショナル)

(原著 : Epidemiology 4th edition Leon Gordis)

**学生へのメッセージ**

オフィスアワー : 平日12 : 00-13 : 00 (看護学科棟509もしくは516)

※講座で対応

担当箇所についてはテキスト以外の図書や資料に基づいた十分な準備をしてください。

講義コード	5410040
講義名	看護学研究方法論Ⅳ
Lecture name	博士前期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	荻田 美穂子	臨床看護学講座

対象学科／学年

学科	学年
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門～大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門	
大学院医学系研究科研究生～大学院医学系研究科研究生	
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域～大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域	

### 学修目標(到達目標)

1. 文献レビューにおけるEBN (Evidenced-Based Nursing) ・ EBP (Evidenced-Based Practice) の位置付けが理解できる。
2. システムティックレビューのプロセス概要が理解できる。
3. 論文クリティークの意義とその方法が理解できる。
4. 量的研究方法論および質的研究方法論で学んだ既習の知識を活用し、論文をクリティークの手法で読むことができる。クリティーク演習を通じて、論理的思考に基づく課題発見力や問題解決能

力を養う。

5. 自身の関心のある研究課題についてシステマティックレビューを活用し、最新の知見を整理する方法がわかる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

論文の系統的レビューに必要とされる技術(収集・整理・分析・評価方法)の習得と、クリティカル・シンキング能力を磨くことを目的とする。研究デザイン別に論文クリティークを進め、エビデンスレベルや各研究の限界点と強みを理解し、今後の研究の発展について討議する。科目責任者が専門とする量的研究手法を用いた論文クリティークを主に担当し、質的研究手法を用いた論文についてはファシリテーターとして非常勤講師を招いて行う。また、第1-2、15回の講義は、それぞれ科目責任者が専門とする「高齢者、フレイル、要介護」をキーワードとした研究を例に挙げて講義を展開する。第5-14回は、各自割り当てられた教本もしくは文献(英文誌)を講読し、内容の要約やクリティーク内容についてプレゼンテーション・ディスカッションを行う形式で進める。事前の資料準備・疑問点を持って授業に備えることが求められる。

### 授業内容

授業計画表に沿って進める。

### 授業計画表

第1回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	文献レビューの目的と論文クリティークの意義
	教室	看院講
第2回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	システマティックレビューとは
	教室	看院講
第3回	担当教員	荻田 美穂子 附属図書館利用支援係担当者
	項目	系統的な文献検索から文献管理演習
	教室	MMC演
第4回	担当教員	荻田 美穂子 附属図書館利用支援係担当者
	項目	系統的な文献検索から文献管理演習
	教室	MMC演
第5回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	論文クリティークの方法
	教室	看院講
第6回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	論文クリティークの方法
	教室	看院講
第7回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	論文クリティークの方法

	教室	看院講
第8回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	論文クリティークの演習
	教室	看院講
第9回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	論文クリティークの演習
	教室	看院講
第10回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	エビデンスレベル別論文クリティーク（ケーススタディ）
	教室	看院講
第11回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	エビデンスレベル別論文クリティーク（横断研究）
	教室	看院講
第12回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	エビデンスレベル別論文クリティーク（コホート研究・症例対照研究）
	教室	看院講
第13回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	エビデンスレベル別論文クリティーク（介入研究）
	教室	看院講
第14回	担当教員	荻田 美穂子 本田順子（非常勤講師）
	項目	エビデンスレベル別論文クリティーク（質的研究・レビュー研究）
	教室	看院講
第15回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	論文のまとめ方・投稿時のポイント
	教室	看院講

#### 授業形式・授業形態

講義と学生によるプレゼンテーション・討議形式で行う。

各自割り当てられた教本もしくは文献（英文誌）を講読し、内容の要約やクリティーク内容についてプレゼンテーション・ディスカッションを行う。担当箇所は初回講義日にアナウンスする。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

①形成的評価：プレゼンテーション(教本読み20%、文献クリティーク30%)

＜プレゼンテーション基準＞ 1)教本及び論文内容を的確にとらえているか、 2)自分の考えを的確に論理的に表現しているか 3)資料の構成がわかりやすいか

②態度評価：討議への参加状況（50%）により評価する。クリティーク担当箇所以外においても、事前の予習を行い、討議への主体的参加と、課題発見力や問題解決能力に関連した発言を重要

視する。

#### **テキスト（教科書等）**

よくわかる看護研究論文のクリティーク；山川みやえ・牧本清子編著. 日本看護協会出版会  
エビデンスに基づく看護実践のためのシステムティックレビュー；牧本清子編集. 日本看護協会出版会

#### **参考文献等**

随時紹介する。

#### **オフィスアワー(授業相談)**

毎週水曜日の 12:00～13:00。電話、メール等で事前にアポイント を取ること。

#### **学生へのメッセージ**

論文を適切に抽出し、評価できる能力は「臨床でエビデンスを使う」・「研究でエビデンスを作る」過程の両方で必須です。研究コースだけでなく、高度専門職コースの方にもオススメします。学生さんの主体的な参加をお願いします。良い論文に当たるコツや論文を読む面白さを皆さんと共有できればと考えています。

講義コード	5410050
講義名	看護学研究方法論Ⅴ
Lecture name	博士前期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	2
時間	60.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河村 奈美子	公衆衛生看護学講座
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座
教授	笠原 聡子	基礎看護学講座
教授	相見 良成	基礎看護学講座
教授	宮松 直美	臨床看護学講座
教授	桑田 弘美	臨床看護学講座
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座
教授	辻村 真由子	公衆衛生看護学講座
教授	伊藤 美樹子	公衆衛生看護学講座
准教授	玉木 朋子	基礎看護学講座
准教授	山口 亜希子	臨床看護学講座
准教授	荻田 美穂子	臨床看護学講座

#### 学修目標(到達目標)

1. 自らの研究課題を明確にする
2. 研究課題に適した研究方法を選択できる
3. 研究課題と方法に適した分析方法を選択する。
4. 研究計画を適切にプレゼンテーションする

#### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

研究課題に関する文献検討、概念の整理、研究方法を洗練し、研究課題の明確化をはかる。さらに研究目的を達成するための研究方法について研究方法論Ⅰ～Ⅲの学修を踏まえて検討し選択する能力を養う。研究における倫理的問題および倫理審査書類の作成に取り組む。目標達成ができる明確なプレゼンテーション力を修得する。

#### **授業内容**

定期的に進捗状況に関してゼミなどにおいて発表や討論を踏まえて、研究課題及び検討方法を洗練する。

#### **授業計画表**

#### **授業形式・授業形態**

文献紹介、研究課題について討論、学会参加・発表の報告、研究デザイン発表

#### **成績評価方法（成績評価基準を含む）**

総括的評価

プレゼンテーション（50%）

討論における発言状況（50%）

形成的評価

講義内容の主要テーマごとのコメント、小レポートや授業内容のアンケートについて、都度のフィードバックを実施する

態度評価

授業での発言などから学習意欲を評価する

プログレスミーティング等で報告された学会参加及び発表は指導教員の判断により、本科目の単位の一部として評価される。

各授業時まで、検討資料の準備および疑問をもって備えることが求められる。

#### **テキスト（教科書等）**

特になし（指導教員の指示を受けてください）

#### **オフィスアワー(授業相談)**

指導教員の指示を受けてください。

メールなどでの事前連絡により随時対応します。

#### **主担当教員の実務経験**

各指導教員の有する経験による

講義コード	5410180	
講義名	外国語文献レビュー	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
所属名称	ナンバリングコード	
担当教員		
職種	氏名	所属
教授	加藤 穰	医療文化学講座（英語）
<b>学修目標(到達目標)</b>		
修士論文に関する外国語文献を検索し、検索結果を検討し、適切に自身の研究に活用することができる。修士論文に必要な応じて文献を追加できる。自身で独立して文献を検索・検討し、研究に活用できるようになる。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
修士論文の作成に向けて、研究テーマに関連する外国語文献を検索して検討するための基礎知識を習得し、実際に文献を追加できるようにトレーニングする。		
<b>授業内容</b>		
修士論文に関する参考文献・引用文献となる文献の探索・検討を行うことを授業の中心的な内容とする。長期的には自身の研究内容を英語で発表できるための基礎を養成する。 第15回の講義までに自身の研究に関連する文献のポイントを整理してまとめたレポートを準備すること。		
<b>授業計画表</b>		
外国語文献レビュー		
第1回	担当教員	加藤 穰
	項目	ハンドアウト

	<b>内容</b>	論文の機能・構成・作成及び投稿プロセスについて
第2回	<b>担当 教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	ハンドアウト
	<b>内容</b>	主要なデータベースについて概説 研究不正について
第3回	<b>担当 教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	ハンドアウト
	<b>内容</b>	辞書・オンラインリソースについて アブストラクトの実際 実際にアブストラクトを読む
第4回	<b>担当 教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	ハンドアウト
	<b>内容</b>	データベースを使って検索を試す
第5回	<b>担当 教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	ハンドアウト
	<b>内容</b>	データベース検索結果の検討
第6回	<b>担当 教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	担当の受講者が資料を用意する
	<b>内容</b>	英字論文の具体的検討
第7回	<b>担当 教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	担当の受講者が資料を用意する
	<b>内容</b>	英字論文の具体的検討
第8回	<b>担当 教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	担当の受講者が資料を用意する
	<b>内容</b>	英字論文の具体的検討
第9回	<b>担当 教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	担当の受講者が資料を用意する
	<b>内容</b>	英字論文の具体的検討
第10回	<b>担当 教員</b>	加藤 穰

	<b>項目</b>	担当の受講者が資料を用意する
	<b>内容</b>	英字論文の具体的検討
<b>第11回</b>	<b>担当 教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	担当の受講者が資料を用意する
	<b>内容</b>	英字論文の具体的検討
<b>第12回</b>	<b>担当 教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	担当の受講者が資料を用意する
	<b>内容</b>	英字論文の具体的検討
<b>第13回</b>	<b>担当 教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	担当の受講者が資料を用意する
	<b>内容</b>	英字論文の具体的検討
<b>第14回</b>	<b>担当 教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	担当の受講者が資料を用意する
	<b>内容</b>	英字論文の具体的検討
<b>第15回</b>	<b>担当 教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	自身の研究に関する文献のポイントを整理してまとめたレポートを準備すること。体裁等については授業内で指示する。
	<b>内容</b>	まとめ

#### 授業形式・授業形態

授業内では基本的に日本語を用いる。必要に応じて基本的事項を確認できるようにする。WebClass等で配布資料や動画のURL等を参照できるようにする予定。少人数の受講を想定しているため開講時間については調整可。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

授業への貢献、発表 90%  
最終レポート 10%  
(全回出席を前提とし、欠席については減点する)

#### テキスト（教科書等）

必要に応じてハンドアウトを配布する。

#### 参考文献等

授業時に適宜指示する。

#### オフィスアワー(授業相談)

随時（e-mailにてアポイントメントをとること）
<b>学生へのメッセージ</b>
特に授業内での発表の準備には十分な時間をかけることが期待されるが、標準的には授業時間の2倍程度を目安とする。
<b>授業用E-mail</b>
<a href="mailto:yk227@belle.shiga-med.ac.jp">yk227@belle.shiga-med.ac.jp</a>

講義コード	5410060
講義名	看護理論
Lecture name	博士前期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>
-------------	------------------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	笠原 聡子	基礎看護学講座
准教授	玉木 朋子	基礎看護学講座

対象学科／学年

学科	学年
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門	
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻生活の場研究領域家族看護研究部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻生活の場研究領域家族看護研究部門	
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻高度実践コース看護管理領域（看護管理実践）～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻高度実践コース看護管理領域（看護管理実践）	

**学修目標(到達目標)**

1. 看護理論および看護実践に用いられる関連領域の諸理論について説明できる。
2. 看護実践における自らの経験と照らして理論の適用と妥当性を検討できる。
3. 看護研究における理論の適用と妥当性を検討し、意見を述べることができる。

**授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)**

看護実践の基盤となる看護および関連分野の諸理論を理解し、理論を用いて看護現象の説明や、看護実践に適用できる能力の習得を目指す。

各回の授業時までには授業計画に応じて教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解のうえで疑問を持って授業に備えることが求められる。また、各回講義のトピックについて主体的に調べるなど予習・復習することが望まれる。(各回所要時間：1時間程度)

**授業内容**

授業内容は授業計画表に沿って進めるが、受講生の関心領域等により若干変更する場合がある。授業形態は、講義・ディスカッション・受講者のプレゼンとし、原則対面での講義形式(zoom等の遠隔講義も含む)とする。

**授業計画表**

<b>第1回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年04月16日(火)
	<b>時限</b>	5 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護理論の概要：理論を伝える・使う・創る(笠原)
	<b>教室</b>	看3
<b>第2回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年04月16日(火)
	<b>時限</b>	6 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	ナイチンゲール看護論(笠原)
	<b>教室</b>	看3
<b>第3回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年04月23日(火)
	<b>時限</b>	5 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	動機づけ理論①：自己決定理論(笠原)
	<b>教室</b>	看3
<b>第4回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年04月23日(火)
	<b>時限</b>	6 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	動機づけ理論②：モチベーション理論(笠原)
	<b>教室</b>	看3
<b>第5回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年04月30日(火)
	<b>時限</b>	5 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	ストレス理論①：危機理論(笠原)
	<b>教室</b>	看3

第6回	年月日(曜日)	令和 6年04月30日(火)
	時限	6 時限
	担当教員	笠原 聡子
	項目	ストレス理論②：ストレス理論（笠原）
	教室	看 3
第7回	年月日(曜日)	令和 6年05月07日(火)
	時限	5 時限
	担当教員	笠原 聡子
	項目	行動変容理論：計画的行動理論・社会的認知理論・行動変容理論（笠原）
	教室	看 3
第8回	年月日(曜日)	令和 6年05月14日(火)
	時限	5 時限
	担当教員	笠原 聡子 平河 勝美
	項目	ベナー看護論①：理論的背景（平河）
	教室	看 3
第9回	年月日(曜日)	令和 6年05月14日(火)
	時限	6 時限
	担当教員	笠原 聡子 平河 勝美
	項目	ベナー看護論②：クリニカルラダー（平河）
	教室	看 3
第10回	年月日(曜日)	令和 6年05月21日(火)
	時限	5 時限
	担当教員	玉木 朋子
	項目	エンパワーメント理論（玉木）
	教室	看 3
第11回	年月日(曜日)	令和 6年05月21日(火)
	時限	6 時限
	担当教員	玉木 朋子
	項目	アンドラゴジー理論（玉木）
	教室	看 3
第12回	年月日(曜日)	令和 6年05月28日(火)
	時限	5 時限
	担当教員	笠原 聡子

	<b>項目</b>	プレゼンテーション・討議①：これまでの看護実践での理論の活用（笠原） 学生自身がこれまでの看護実践の中で活用してきた理論について資料を作成してプレゼンテーションし、参加者全員で討議する。
	<b>教室</b>	看3
<b>第13回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年05月28日(火)
	<b>時限</b>	6 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	プレゼンテーション・討議②：教育において理論を伝える（笠原） 看護の対象者およびスタッフへの教育場面で活用可能な理論について資料を作成してプレゼンテーションし、参加者全員で討議する。
	<b>教室</b>	看3
<b>第14回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年06月04日(火)
	<b>時限</b>	5 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	プレゼンテーション・討議③：研究において理論を使う（笠原） 学生自身の修士研究において活用可能な理論について資料を作成してプレゼンテーションし、参加者全員で討議する。
	<b>教室</b>	看3
<b>第15回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年06月04日(火)
	<b>時限</b>	6 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	まとめ：看護実践・研究における看護理論の位置付け（笠原）
	<b>教室</b>	看3

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

レポート、プレゼンテーション、ディスカッション

#### テキスト（教科書等）

講義の中で随時紹介する。

#### 学生へのメッセージ

本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の共通科目A（2単位）に相当する。

講義コード	5410070	
講義名	看護倫理	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	笠原 聡子	基礎看護学講座
教授	加藤 穰	医療文化学講座（英語）
教授	大北 全俊	医療文化学講座（哲学・倫理学）
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門		
大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生		
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻高度実践コース看護管理領域（看護管理実践） ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻高度実践コース看護管理領域（看護管理実践）		
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域 ～ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域		
<b>学修目標(到達目標)</b>		

1. 医療倫理の基本的枠組みについて説明できる。
2. 医療における倫理的諸問題について自分の考えを述べるができる。
3. 医療における倫理的諸問題における看護職の責任と役割について述べるができる。
4. 医療における倫理的課題の検討方法を用いて事例分析ができる。
5. 看護研究を行う際の倫理的配慮について説明できる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

保健医療福祉の場で生じる生と死に関する具体的な問題状況において、看護者として、倫理的に判断・行動するために必要な「知識・理解」、「能力・スキル」、「価値・態度」の修得を目指す。授業では、医療倫理について基本的な枠組を確認した上で、生と死に関する具体的なトピックスを取り上げると共に、事例分析を通して医療現場における倫理問題についての理解を深める。具体的には、各回の講義と議論をとおして、倫理課題に関する自らの考えをまとめる。また、研究倫理についても議論する。

各回の講義時までには授業計画に応じて教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解のうえで疑問を持って授業に備えることが求められる。また、各回講義のトピックについて主体的に調べるなど予習・復習することが望まれる。(各回所要時間：1時間)

### 授業内容

授業内容は授業計画表に沿って進めるが、受講生の関心領域等により若干変更する場合があります。授業形態は、講義・ディスカッション・受講者のプレゼンとし、原則対面での講義形式(zoom等の遠隔講義も含む)とする。

### 授業計画表

第1回	年月日(曜日)	令和 6年04月12日(金)
	時限	5 時限
	担当教員	笠原 聡子
	項目	医療倫理の導入：看護倫理とネガティブケイパビリティ (笠原)
	教室	看 3
第2回	年月日(曜日)	令和 6年04月19日(金)
	時限	5 時限
	担当教員	加藤 穰
	項目	英語で読む「ICN 看護師の倫理綱領」 (加藤)
	教室	看 3
第3回	年月日(曜日)	令和 6年04月19日(金)
	時限	6 時限
	担当教員	加藤 穰
	項目	倫理に関する歴史的事例の紹介と検討 (加藤)
	教室	看 3
第4回	年月日(曜日)	令和 6年04月26日(金)
	時限	5 時限
	担当教員	大北 全俊

	<b>項目</b>	医療倫理とは：「倫理」の枠組みについて（大北）
	<b>教室</b>	看3
<b>第5回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和6年04月26日(金)
	<b>時限</b>	6時限
	<b>担当教員</b>	大北 全俊
	<b>項目</b>	看護における倫理的課題①：生殖補助医療（大北）
	<b>教室</b>	看3
<b>第6回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和6年05月10日(金)
	<b>時限</b>	5時限
	<b>担当教員</b>	大北 全俊
	<b>項目</b>	看護における倫理的課題②：人工妊娠中絶と出生前検査（大北）
	<b>教室</b>	看3
<b>第7回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和6年05月10日(金)
	<b>時限</b>	6時限
	<b>担当教員</b>	大北 全俊
	<b>項目</b>	看護における倫理的課題③：遺伝子医療（大北）
	<b>教室</b>	看3
<b>第8回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和6年05月17日(金)
	<b>時限</b>	5時限
	<b>担当教員</b>	大北 全俊
	<b>項目</b>	看護における倫理的課題④：高齢者医療と終末期医療（大北）
	<b>教室</b>	看3
<b>第9回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和6年05月17日(金)
	<b>時限</b>	6時限
	<b>担当教員</b>	大北 全俊
	<b>項目</b>	看護における倫理的課題⑤：安楽死・尊厳死・医師による自殺幫助（大北）
	<b>教室</b>	看3
<b>第10回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和6年05月24日(金)
	<b>時限</b>	5時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護における倫理的課題の検討①：分析方法と倫理調整（笠原）
	<b>教室</b>	看3
<b>第11回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和6年05月24日(金)
	<b>時限</b>	6時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子

	<b>項目</b>	看護における倫理的課題の検討②：事例分析（笠原）
	<b>教室</b>	看3
<b>第12回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和6年05月31日(金)
	<b>時限</b>	5時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	プレゼンテーション・討議①：看護実践におけるジレンマ（笠原）
	<b>教室</b>	看3
<b>第13回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和6年05月31日(金)
	<b>時限</b>	6時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	プレゼンテーション・討議②：看護実践における倫理的課題（笠原）
	<b>教室</b>	看3
<b>第14回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和6年06月07日(金)
	<b>時限</b>	5時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	プレゼンテーション・討議③：看護実践における倫理調整（笠原）
	<b>教室</b>	看3
<b>第15回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和6年06月07日(金)
	<b>時限</b>	6時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護における研究倫理（笠原）
	<b>教室</b>	看3

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

レポート、プレゼンテーション、ディスカッション

#### テキスト（教科書等）

講義の中で随時紹介する。

#### 学生へのメッセージ

本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の共通科目A（2単位）に相当する。

講義コード	5410080
講義名	看護管理学
Lecture name	博士前期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	笠原 聡子	基礎看護学講座

対象学科／学年

学科	学年
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門	
大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生	
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻高度実践コース看護管理領域（看護管理実践） ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻高度実践コース看護管理領域（看護管理実践）	
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域 ～ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域	

**学修目標(到達目標)**

1. 看護管理に関わる基本概念および諸理論について説明できる。
2. 安全で質の高い、効率的・効果的な看護実践の実現に向けた看護管理のあり方について自分の考えを述べることができる。

**授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)**

保健医療福祉の場における看護の役割を確認し、多職種連携を基に医療の質・安全の向上を目指した効率的・効果的な看護サービスを提供していくために必要な組織と看護管理のあり方を探求する。具体的には、各回の講義と議論をとおして、看護管理に関する自らの考えをまとめる。

各回の講義時までには授業計画に応じて教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解のうえで疑問を持って授業に備えることが求められる。また、各回講義のトピックについて主体的に調べるなど予習・復習することが望まれる。(各回所要時間：1時間程度)

**授業内容**

授業内容は授業計画表に沿って進めるが、受講生の関心領域等により若干変更する場合がある。授業形態は、講義・ディスカッション・受講者のプレゼンとし、原則対面での講義形式(zoom等の遠隔講義も含む)とする。

**授業計画表**

<b>第1回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年10月08日(火)
	<b>時限</b>	5 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護管理の導入：看護管理と経営管理（笠原）
	<b>教室</b>	看 4
<b>第2回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年10月11日(金)
	<b>時限</b>	5 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子 田中 伸
	<b>項目</b>	医療経営における財務会計①：医療法人会計基準（田中）
	<b>教室</b>	看 4
<b>第3回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年10月11日(金)
	<b>時限</b>	6 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子 田中 伸
	<b>項目</b>	医療経営における財務会計②：医療財務と経営（田中）
	<b>教室</b>	看 4
<b>第4回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年10月22日(火)
	<b>時限</b>	5 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子 篠田 朝也
	<b>項目</b>	医療経営における管理会計①：管理会計と医療経営（篠田）
	<b>教室</b>	看 4
<b>第5回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年10月22日(火)

	<b>時限</b>	6 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子 篠田 朝也
	<b>項目</b>	医療経営における管理会計②：マネジメント・コントロール（篠田）
	<b>教室</b>	看 4
<b>第6回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年10月22日(火)
	<b>時限</b>	7 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子 篠田 朝也
	<b>項目</b>	医療経営における管理会計③：BSC(バランスト・スコアカード) (篠田)
<b>第7回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年10月29日(火)
	<b>時限</b>	5 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護と組織①：医療・保健・福祉の場における看護と組織論（笠原）
<b>第8回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年10月29日(火)
	<b>時限</b>	6 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護と組織②：組織の意思決定理論とリーダーシップ論（笠原）
<b>第9回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年11月05日(火)
	<b>時限</b>	5 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子 小寺 利美
	<b>項目</b>	看護管理者の倫理的意決定①：看護管理者としての倫理観（小寺）
<b>第10回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和 6年11月05日(火)
	<b>時限</b>	6 時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子 小寺 利美
	<b>項目</b>	看護管理者の倫理的意決定②：看護管理者としての意決定（小寺）

	<b>教室</b>	看4
<b>第11回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和6年11月12日(火)
	<b>時限</b>	5時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護安全管理①：看護の質と安全、多職種連携（協働・調整）と複雑系システム（笠原）
	<b>教室</b>	看4
<b>第12回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和6年11月12日(火)
	<b>時限</b>	6時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護安全管理②：看護における業務分析、業務改善（笠原）
	<b>教室</b>	看4
<b>第13回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和6年11月12日(火)
	<b>時限</b>	7時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護安全管理③：看護におけるストレス・マネジメント（笠原）
	<b>教室</b>	看4
<b>第14回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和6年11月19日(火)
	<b>時限</b>	5時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	プレゼンテーション・討議①：これまでの管理実践（笠原） 学生自身のこれまでの管理実践と課題を整理し、関連する理論・制度・データをもとに資料を作成してプレゼンテーションし、参加者全員で討議する。
	<b>教室</b>	看4
<b>第15回</b>	<b>年月日(曜日)</b>	令和6年11月19日(火)
	<b>時限</b>	6時限
	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	プレゼンテーション・討議②：これからの管理実践（笠原） 第14回の討議を踏まえ、今後の管理実践の展望について資料を作成してプレゼンテーションし、参加者全員で討議する。
	<b>教室</b>	看4

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

レポート、プレゼンテーション、ディスカッション

#### テキスト（教科書等）

講義の中で随時紹介する。

<b>学生へのメッセージ</b>
------------------

本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の共通科目A（2単位）に相当する。
---

講義コード	5410090		
講義名	コンサルテーション論		
Lecture name	博士前期		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期		
講義区分	講義		
基準単位数	2		
時間	0.00		
代表曜日			
代表時限			
ナンバリングコード			
所属名称		ナンバリングコード	
担当教員			
職種	氏名	所属	
教授	河村 奈美子	公衆衛生看護学講座	
対象学科／学年			
学科			学年
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門～大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門			
大学院医学系研究科研究生～大学院医学系研究科研究生			
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻高度実践コース看護管理領域（看護管理実践）～大学院医学系研究科修士課程看護学専攻高度実践コース看護管理領域（看護管理実践）			
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域～大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域			
<b>学修目標(到達目標)</b>			
看護職が職務を遂行する過程において直面する、複雑かつ対応困難な問題を抱える患者・家族の問題解決及び調整をするうえで医療チームの中心となり相談の理論と技術を活用し支援する能力を培う。			

特に専門看護師の重要な役割であるコンサルテーションに関して、関連する理論や技術を学ぶことにより専門看護師の役割遂行・発展のための基礎的能力を修得する。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

1. 看護コンサルテーションのタイプおよびモデル、倫理に関して説明できる。
2. 臨床現場で生じる問題について、個人と組織の視点を踏まえデータ把握と分析を明確化できる。
3. 個人や組織に対するコンサルテーションプロセスを理解し、コンサルテーションを展開するための支援技術と方法を取得する。
4. 専門看護師の医療チームにおける役割や相談業務の在り方について検討できる。

### 授業内容

- ・コンサルテーションの概念及び実践モデルについて
- ・コンサルタントの役割について
- ・個人や組織を対象としコンサルテーションプロセスについて
- ・CNSの役割及び相談業務について
- ・看護コンサルテーションの領域別演習

### 授業計画表

第1回	担当 教員	河村 奈美子
	項目	看護コンサルテーションとは 専門看護師の役割としてのコンサルテーション
	内容	
第2回	担当 教員	河村 奈美子
	項目	個人・集団・組織におけるコンサルテーションと関連する理論的枠組み (精神分析、解放システム理論、グループ関係トレーニングからの寄与)
	内容	
第3回	担当 教員	河村 奈美子
	項目	コンサルテーションのタイプ ①課題適応型 ②プロセス適応型
	内容	
第4回	担当 教員	河村 奈美子
	項目	モデル別コンサルテーションの展開 ①ケース中心のコンサルテーション ②コンサルティ中心のコンサルテーション ③プログラム中心の管理に関するもの

		④コンサルティ中心の管理に関するもの
	<b>内容</b>	
<b>第5回</b>	<b>担当 教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	モデル別コンサルテーションの展開 ⑤組織のコンサルテーション
	<b>内容</b>	
<b>第6回</b>	<b>担当 教員</b>	光岡 由紀子
	<b>項目</b>	倫理的課題および倫理的問題に対するコンサルテーション
	<b>内容</b>	
<b>第7回</b>	<b>担当 教員</b>	光岡 由紀子
	<b>項目</b>	専門看護師のコンサルテーション展開（1） 臨床の複雑で対応困難な問題に対するコンサルテーションプロセス（組織を対象とした事例に関する検討）
	<b>内容</b>	
<b>第8回</b>	<b>担当 教員</b>	光岡 由紀子
	<b>項目</b>	専門看護師のコンサルテーション展開（1） 臨床の複雑で対応困難な問題に対するコンサルテーションの対応（組織を対象とした事例に関する検討）
	<b>内容</b>	
<b>第9回</b>	<b>担当 教員</b>	河村 奈美子 篠原 朋子
	<b>項目</b>	専門看護師のコンサルテーション展開（2） 臨床の複雑で対応困難な問題に対するコンサルテーションプロセス（個人を対象とした事例に関する検討）
	<b>内容</b>	
<b>第10回</b>	<b>担当 教員</b>	河村 奈美子 篠原 朋子
	<b>項目</b>	専門看護師のコンサルテーション展開（2） 臨床の複雑で対応困難な問題に対するコンサルテーションの対応（個人を対象とした事例に関する検討）
	<b>内容</b>	
<b>第11回</b>		

	<b>担当 教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	看護コンサルテーションの領域別事例演習 ① 実践想定事例に基づく問題の明確化とタイプの判別
	<b>内容</b>	
<b>第12回</b>	<b>担当 教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	看護コンサルテーションの領域別事例演習 ② 模擬トレーニング（ロールプレイ；コンサルティとコンサルタントの経験をしながら問題の明確化とタイプの判別、記録、分析を経験する）
	<b>内容</b>	
<b>第13回</b>	<b>担当 教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	看護コンサルテーションの領域別事例演習 ③ グループ間トレーニング（小グループに分かれ、コンサルテーションの実践想定事例についてコンサルテーションを複数回経験し分析、討議する）
	<b>内容</b>	
<b>第14回</b>	<b>担当 教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	看護コンサルテーションの領域別事例演習 ④ グループ間トレーニング（コンサルテーション実践事例を1人1課題持ち寄り、分析し討議する）
	<b>内容</b>	
<b>第15回</b>	<b>担当 教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	まとめ コンサルテーション能力を高めるために（討議）
	<b>内容</b>	

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

総括的評価：プレゼンテーション、討論における発言状況

形成的評価：講義内容の主要テーマごとのコメントなどについて、都度のフィードバックを実施する

態度評価：授業での発言などから学習意欲を評価する

各授業時までには、検討資料の準備および疑問をもって備えることが求められる。

**テキスト（教科書等）**

アントン・オブホルツァー、ヴェガ・ザジェ・ロバーツ（2014）．組織のストレスとコンサルテーション：対人援助サービスと職場の無意識（武井麻子監訳）．金剛出版

**テキストISBN番号**

9784772413572

**参考文献等**

S. P. ギャン、Y. M. アガザリアン 編(嶋田 博之、杉山 恵理子監訳)。(2018). 組織と個人を同時に助けるコンサルテーション. 金剛出版

**学生へのメッセージ**

本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の共通科目A（2単位）に相当する。

講義コード	5410110	
講義名	看護教育学	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
准教授	玉木 朋子	基礎看護学講座
教授	向所 賢一	医学・看護学教育センター
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門		
大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生		
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻高度実践コース看護管理領域（看護管理実践） ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻高度実践コース看護管理領域（看護管理実践）		
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域 ～ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域		
<b>学修目標(到達目標)</b>		
講義とディスカッション、関連文献の精読と討議を通して、法的・倫理的問題を含む看護教育を取り巻く複雑な環境の中で行われる学習計画・支援・評価のあり方について自己の考え方を		

明確にする。

授業案の作成または教育プログラム案の作成を通して、看護教育の設計、展開、評価について理解することができる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

看護職者が教育活動を展開するために必要な基本的知識や技術を学修する。看護基礎教育、看護継続教育において学習活動をどのように計画し、導き、評価するかについて包括的に学ぶ。また、看護専門職として学び成長を支える看護職の教育環境づくりや生涯にわたるキャリア発達を支援する看護教育について考究する。

### 授業内容

看護基礎教育、看護継続教育に関する講義とディスカッション、関連文献の精読と討議をおこない、看護学教育を取り巻く法的・倫理的問題や学習計画・支援・評価のあり方について議論する。また、授業をとおして得た知識を元に、授業案または教育プログラム案の作成と発表・討議を行い、看護学教育の根底にある学習理論や枠組み、計画・展開・評価の方法を学ぶ。

### 授業計画表

第1回	担当 教員	玉木 朋子
	項目	看護教育学とは（看護基礎教育と継続教育） 看護教育制度を支える法および関連法規と看護継続教育における法的根拠 看護学教育における倫理指針
	内容	
第2回	担当 教員	玉木 朋子
	項目	看護教育計画案の作成と展開・評価：根底にある学習理論（アンドラゴジー、インストラクショナルデザイン）、と評価方法 看護教育における教授方略・教授方法
	内容	
第3回	担当 教員	玉木 朋子 加賀 有末
	項目	現任教育①（看護師教育：クリニカルラダー）（加賀）
	内容	
第4回	担当 教員	玉木 朋子 加賀 有末
	項目	現任教育②（看護継続教育、看護職の教育環境づくり）（加賀）
	内容	
第5回	担当 教員	玉木 朋子 伊波 早苗
	項目	CNSとしての教育活動（伊波）
	内容	

第6回	担当 教員	向所 賢一
	項目	看護教育におけるコーチング① 看護におけるコーチ型コミュニケーション
	内容	
第7回	担当 教員	向所 賢一
	項目	看護教育におけるコーチング② 看護基礎教育、現任教育に必要なコーチング
	内容	
第8回	担当 教員	玉木 朋子
	項目	シミュレーション教育①：シミュレーション教育におけるシナリオ
	内容	
第9回	担当 教員	玉木 朋子
	項目	シミュレーション教育②：シミュレーション教育の実施・評価、研究への発展
	内容	
第10回	担当 教員	玉木 朋子
	項目	看護基礎教育に関する研究動向と現状
	内容	
第11回	担当 教員	玉木 朋子
	項目	現任教育に関する研究動向と現状
	内容	
第12回	担当 教員	玉木 朋子
	項目	看護教育におけるより効果的な教材・資料の活用、効果的な伝え方
	内容	
第13回	担当 教員	玉木 朋子
	項目	看護教育におけるICTの活用
	内容	
第14回	担当 教員	玉木 朋子
	項目	プレゼンテーション① 看護教育計画案の発表を通してより効果的な看護教育について理解を深める

	<b>内容</b>	
<b>第15回</b>	<b>担当 教員</b>	玉木 朋子
	<b>項目</b>	プレゼンテーション② 看護実践や研究における看護教育のあり方について 討議する
	<b>内容</b>	
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>		
プレゼンテーション、レポート		
<b>テキスト（教科書等）</b>		
杉森みど里、舟島なをみ著：看護教育学第7版、医学書院		
<b>学生へのメッセージ</b>		
本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の共通科目A（2単位）に相当する。		

講義コード	5410120		
講義名	看護政策論		
Lecture name	博士前期		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期		
講義区分	講義		
基準単位数	2		
時間	0.00		
代表曜日			
代表時限			
ナンバリングコード			
所属名称		ナンバリングコード	
担当教員			
職種	氏名	所属	
教授	辻村 真由子	公衆衛生看護学講座	
対象学科／学年			
学科			学年
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門～大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門			
大学院医学系研究科研究生～大学院医学系研究科研究生			
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻高度実践コース看護管理領域（看護管理実践）～大学院医学系研究科修士課程看護学専攻高度実践コース看護管理領域（看護管理実践）			
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域～大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域			
<b>学修目標(到達目標)</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護政策の意義や制度について述べるができる。</li> <li>2. 医療や看護政策の決定過程、政策と看護実践の関連について述べるができる。</li> <li>3. 現在の社会・医療情勢から看護政策の課題を明らかにする。</li> </ol>			

4. 看護政策への看護職の関与のあり方を考察できる。

**授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)**

我が国の看護制度や保健・医療・看護政策の概要を理解する。また、看護政策過程と関連諸団体との連携・協働の在り方や看護職の関与のあり方等を理解し、看護の現場が抱える課題解決に向けた方策を探求することで、政策形成過程の実践における基礎的能力を養う。

**授業内容**

講義およびゼミナール形式で実施する。

**授業計画表**

第1回	担当教員	辻村 真由子
	項目	オリエンテーション、看護職と政策のかかわり、看護職の役割に関する国際比較
	内容	
第2回	担当教員	辻村 真由子
	項目	看護に関する政策①：医師法、保健師助産師看護師法、医療法などを取り上げ、概要を理解する。
	内容	
第3回	担当教員	辻村 真由子
	項目	看護に関する政策②：医師法、保健師助産師看護師法、医療法などのうちから学生各自が1つを取り上げ、その政策形成・変遷のプロセス、現状と課題についてプレゼンテーションし、参加者全員で討議する。
	内容	
第4回	担当教員	辻村 真由子
	項目	政策過程：政策の段階、政策形成のプロセス、ステークホルダー

	目	
	内容	
第5回	担当教員	辻村 真由子
	項目	看護職の政策過程への参画：看護職の政策への参画の実際について、具体例を通して学ぶ（例：看護職員人員配置基準の見直し、看護婦・看護師から看護師への名称変更など）。
	内容	
第6回	担当教員	辻村 真由子
	項目	看護教育行政に関連する政策：看護基礎教育、大学院教育など、看護教育行政の動向について学ぶ。
	内容	
第7回	担当教員	辻村 真由子
	項目	訪問看護制度の政策過程：訪問看護制度の創設に係る政策過程を例に、政治、行政、団体等の関係について学び、政策展開における課題について考察する。
	内容	
第8回	担当教員	伊波 早苗
	項目	高度実践看護師と政策：日本における専門看護師・認定看護師制度を中心に、その発展過程と現状について理解する。
	内容	
第9回	担当教員	辻村 真由子

	<b>項目</b>	診療報酬と看護実践：診療報酬の概要と診療報酬における特定の看護技術の評価について、評価の根拠となったデータもあわせて理解する。
	<b>内容</b>	
第10回	<b>担当教員</b>	辻村 真由子
	<b>項目</b>	介護報酬と看護実践：介護報酬の概要と診療報酬における特定の看護技術の評価について、評価の根拠となったデータもあわせて理解する。
	<b>内容</b>	
第11回	<b>担当教員</b>	辻村 真由子
	<b>項目</b>	看護政策上の課題の明確化と提言のプレゼンテーション・討議
	<b>内容</b>	学生が自身の関心領域における看護政策上の課題、上記課題を選んだ動機と背景、上記課題に関する現状を示すデータや資料、上記課題に関連する法律や制度について調べて資料を作成してプレゼンテーションし、参加者全員で討議する。
第12回	<b>担当教員</b>	辻村 真由子
	<b>項目</b>	看護政策上の課題の明確化と提言のプレゼンテーション・討議
	<b>内容</b>	学生が自身の関心領域における看護政策上の課題、上記課題を選んだ動機と背景、上記課題に関する現状を示すデータや資料、上記課題に関連する法律や制度について調べて資料を作成してプレゼンテーションし、参加者全員で討議する。
第13回	<b>担当教員</b>	辻村 真由子
	<b>項目</b>	看護政策上の課題の明確化と提言のプレゼンテーション・討議
	<b>内容</b>	学生が自身の関心領域における看護政策上の課題、上記課題を選んだ動機と背景、上記課題に関する現状を示すデータや資料、上記課題に関連する法律や制

		度について調べて資料を作成してプレゼンテーションし、参加者全員で討議する。
第14回	担当教員	辻村 真由子
	項目	看護政策上の課題の明確化と提言のプレゼンテーション・討議
	内容	学生が自身の関心領域における看護政策上の課題、上記課題を選んだ動機と背景、上記課題に関する現状を示すデータや資料、上記課題に関連する法律や制度について調べて資料を作成してプレゼンテーションし、参加者全員で討議する。
第15回	担当教員	辻村 真由子
	項目	まとめ：学生各自が「看護政策上の課題の明確化と提言のプレゼンテーション・討議」を基にさらに調べた内容および看護政策の展望についてプレゼンテーションし、参加者全員で討議する。
	内容	

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

学生によるプレゼンテーション資料と発表内容、ディスカッションへの参加状況、最終レポートにより、総合的に評価する。

#### テキスト（教科書等）

・見藤隆子，石田昌宏，大串正樹，北浦暁子，伊勢田暁子：看護職者のための政策過程入門 第2版 制度を変えると看護が変わる！ 日本看護協会出版会，2017.

#### 学生へのメッセージ

本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の共通科目A（2単位）に相当する。

講義コード	5410140	
講義名	臨床解剖生理学	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	相見 良成	基礎看護学講座
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座
教授	伊藤 美樹子	公衆衛生看護学講座
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門～大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門		
大学院医学系研究科研究生～大学院医学系研究科研究生		
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域～大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域		
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の恒常性がどのような調節機能により保たれているのか、解剖学的かつ生理学的に理解し、臨床の場でより質の高い看護ケアを実践するための知識・技術を習得する。</li> </ul>		

・恒常性の破綻による様々な病態生理を解剖学的に理解し、それらに基づいたケアの立案やリスクを予測したケアが実践できる能力を養う。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

・人体において恒常性の破綻に起因する様々な病態を、肉眼的レベルから顕微鏡レベルに至る形態変化と機能変化から理解し、最新の知見を踏まえ臨床的な視点から深く学習する。

### 授業内容

各項目についてはe-Learningも活用し、担当教員が臨床実践への展開に関連付けたアセスメントに関する知識享受の定着を図る。

- ・第2-13回において、学生は恒常性の破綻により発症する代表的疾患の病態生理を解剖学的に理解し、それらに基づいた具体的なケアの立案やリスクを予測したケアを説明する。
- ・第14-15回においては、医療施設に入院中の患者と在宅医療を中心とした患者に対するケアの共通点・相違点について、実際の事例をもとに様々な視点から考察する。
- ・e-Learningの具体的教材に関しては、S-QUA研究会 (<http://s-que.net/>) 「全日本SQUE看護師特定行為研修：臨床病態生理学」に収録されている該当講義も正規科目と位置づけ、これらを履修することにより単位を認定する。

### 授業計画表

第1回	担当教員	相見 良成
	項目	臨床解剖生理学概論
第2回	担当教員	喜多 伸幸
	項目	臨床解剖生理学の理解と演習：循環器系（虚血性心疾患、脳血管障害）
第3回	担当教員	喜多 伸幸
	項目	臨床解剖生理学の理解と演習：呼吸器系（拘束性肺疾患、閉塞性肺疾患、呼吸器感染症、呼吸器腫瘍）
第4回	担当教員	喜多 伸幸
	項目	臨床解剖生理学の理解と演習：消化器系（消化器腫瘍、吸収障害）
第5回	担当教員	喜多 伸幸
	項目	臨床解剖生理学の理解と演習：泌尿器系（尿路感染症、泌尿器腫瘍）
第6回	担当教員	喜多 伸幸
	項目	臨床解剖生理学の理解と演習：内分泌・代謝系（耐糖能障害、二次性高血圧）
第7回	担当教員	喜多 伸幸

	<b>項目</b>	臨床解剖生理学の理解と演習：生殖器系（婦人科良性・悪性腫瘍、不妊症）
<b>第8回</b>	<b>担当教員</b>	相見 良成
	<b>項目</b>	臨床解剖生理学の理解と演習：中枢神経系（高次脳機能障害、ニューロパシー）
<b>第9回</b>	<b>担当教員</b>	相見 良成
	<b>項目</b>	臨床解剖生理学の理解と演習：末梢神経・筋肉系（神経筋疾患）
<b>第10回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	臨床解剖生理学の理解と演習：感覚器系（視覚・味覚・嗅覚異常）
<b>第11回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	臨床解剖生理学の理解と演習：血液系（白血病、出血傾向）
<b>第12回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	臨床解剖生理学の理解と演習：免疫系（自己免疫疾患、アレルギー反応）
<b>第13回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	事例検討(1)様々な環境（入院医療・在宅医療）における臨床病態生理学移行医療への看護判断と支援（グループワークとディスカッション）
<b>第14回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸 伊藤 美樹子
	<b>項目</b>	事例検討(2)入院医療における看護ケアに必須の臨床病態生理学高次脳機能障害患者の看護判断と支援（グループワークとディスカッション）
<b>第15回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸 伊藤 美樹子
	<b>項目</b>	事例検討(3)在宅医療における看護ケアに必須の臨床病態生理学終末期医療患者の看護判断と支援（グループワークとディスカッション）

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

レポート作成・プレゼンテーション

#### テキスト（教科書等）

- ・疾患別病態生理看護過程（上巻・下巻）
- ・意味づけ・経験知でわかる疾患別病態生理看護過程

講義コード	5410150	
講義名	臨床薬理学	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座
教授	宮松 直美	臨床看護学講座
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門～大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門		
大学院医学系研究科研究生～大学院医学系研究科研究生		
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域～大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域		
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度実践看護師に必要な臨床薬理学の基礎知識を習得し、看護実践に展開できる能力を培う。</li> <li>・救急領域に代表されるベッドサイドで使用する薬剤を中心に薬剤使用の判断、薬剤の効果、</li> </ul>		

薬剤投与後の副反応のモニタリングなど、薬剤投与全般の知識の質的向上を図る。

- ・患者の服薬管理能力の向上を図る看護実践に必要な能力を養う。
- ・薬剤使用患者が在宅時においても適切な生活調整を受けることができ、回復力向上に寄与する看護ケアを実践できる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

・臨床薬理学は、薬剤の特性を理解し、薬物動態学と薬物力学などを網羅的に学習する。その上で薬物療法の実際とそのリスクマネジメントにも精通した臨床判断や看護実践に必要な知識・能力を養う。さらに薬剤と母体・胎児との相互作用についても学び、催奇形性・胎児毒性・有益性投与の概念を理解する。

### 授業内容

・第2-13回において、学生は疾患と病態、薬物動態を学習し、その薬剤を使用している患者に対する効果と副作用の観察、起きている現象と必要な看護について説明する。

これらの項目は、S-QUA研究会 (<http://s-que.net/>) 「全日本SQUE看護師特定行為研修：臨床薬理学に集録されてる。

・第14-15回においては、薬剤使用患者のモニタリングや生活調整、服薬管理能力の向上という視点により、薬物療法の位置づけや、起こりやすい事故をテーマに討議し、薬物療法における看護の役割について考察する。

・前述したe-Learningに収録されている講義も正規科目と位置づけ、これらを履修することにより単位を認定する。

### 授業計画表

第1回	担当 教員	馬場 重樹
	項目	主要薬剤の薬理作用と副作用の理論と演習－概論（薬物動態・医薬品添付文書の読み方・薬物相互作用について）
第2回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	主要薬剤の薬理作用と副作用の理解と演習：中枢神経系
第3回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	主要薬剤の薬理作用と副作用の理解と演習：心血管系
第4回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	主要薬剤の薬理作用と副作用の理解と演習：消化器系（1）
第5回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	主要薬剤の薬理作用と副作用の理解と演習：消化器系（2）
第6回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	主要薬剤の薬理作用と副作用の理解と演習：呼吸器系

第7回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	主要薬剤の薬理作用と副作用の理解と演習：内分泌系
第8回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	主要薬剤の薬理作用と副作用の理解と演習：骨・関節系
第9回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	主要薬剤の薬理作用と副作用の理解と演習：末梢神経系
第10回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	主要薬剤の薬理作用と副作用の理解と演習：救急領域（1）
第11回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	主要薬剤の薬理作用と副作用の理解と演習：救急領域（2）
第12回	担当 教員	金本 賢枝
	項目	主要薬剤の薬理作用と副作用の理解と演習：周産期領域(1)（催奇形性のある薬剤）
第13回	担当 教員	金本 賢枝
	項目	主要薬剤の薬理作用と副作用の理解と演習：周産期領域(2)周産期臨床薬理学：妊娠とくすり（2）（胎児毒性のある薬剤）
第14回	担当 教員	宮松 直美
	項目	看護師が行う服薬管理－患者の服薬管理能力のアセスメントと服薬指導
第15回	担当 教員	喜多 伸幸 宮松 直美
	項目	事例検討－看護実践の場における薬剤の誤投与とその対応 （グループディスカッション）

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

レポート作成・プレゼンテーション

#### テキスト（教科書等）

- ・臨床薬理学 メディカ出版
- ・Briggs Drugs in pregnancy and lactation 12th Edition

講義コード	5410160	
講義名	臨床診断学	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日	火曜日	
代表時限	6 時限	
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門～大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門		
大学院医学系研究科研究生～大学院医学系研究科研究生		
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域～大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域		
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<p>ストーマケア、創傷ケア、失禁ケアの各分野では、「看護ケア」に対し、最も早く診療報酬上評価された領域である。この領域の専門・認定看護師数が最も多く活躍していることもあり、看護職員による業務範囲の拡大と医療行為の一部実施に対するニーズが高い。ケアとキュアの融合による高度な知識・技術を駆使することによる水準の高い看護ケアを提供し、かつ特定の医行為を実施できる高度な専門知識・技術を有する看護師の育成を目ざし、必要とされる臨床診断学を学び、医師国家試験必須問題で問われる内容を理解する。</p>		

**授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)**

## 1. 創傷ケア

創部ドレーンの抜去等、縫合等の創傷処置および抜糸処置（ストーマ周囲の抜糸、一時創の抜糸、ストーマ肉芽の焼灼など）、褥瘡の壊死組織のデブリードマン等

## 2. その他

超音波検査（褥瘡の評価、失禁における残尿測定）経膈的膀胱頸部挙上装具（イントロール）の挿入、レントゲン撮影やCT・MRI撮影の必要性の判断等

上記に関わる、臨床診断、臨床的推論、フィジカルイクザミネーションを学ぶ。

**授業内容**

系統的臨床診断学と特にストマ・排泄ケアに必要な臨床診断、臨床的推論、フィジカルイクザミネーションを講義・演習する。

**授業計画表**

## 臨床診断学

第1回	担当教員	馬場 重樹
	項目	序論
	内容	臨床診断学についての理解を深める。
第2回	担当教員	馬場 重樹
	項目	総論 1
	内容	診断に至るまでの思考プロセスを理解する。
第3回	担当教員	馬場 重樹
	項目	総論 2
	内容	臨床診断学における、バイタルサイン診察法について理解する。
第4回	担当教員	馬場 重樹
	項目	総論 3
	内容	臨床診断学における、EBMとその応用、について理解する。
第5回	担当教員	馬場 重樹
	項目	各論 1
	内容	臨床診断学における、放射線診断について理解する。
第6回	担当教員	馬場 重樹
	項目	各論 2
	内容	発熱の診断について理解する。
第7回	担当教員	馬場 重樹
	項目	各論 3
	内容	腹部内臓疾患の診断学について理解する。
第8回	担当教員	馬場 重樹
	項目	各論 4

	<b>内容</b>	血液疾患の診断について理解する。
<b>第9回</b>	<b>担当教員</b>	馬場 重樹
	<b>項目</b>	各論 5
	<b>内容</b>	循環器疾患の診断について、理解する。
<b>第10回</b>	<b>担当教員</b>	馬場 重樹
	<b>項目</b>	各論 6
	<b>内容</b>	呼吸器疾患の診断について理解する。
<b>第11回</b>	<b>担当教員</b>	馬場 重樹
	<b>項目</b>	各論 7
	<b>内容</b>	代謝性疾患の診断について理解する。
<b>第12回</b>	<b>担当教員</b>	馬場 重樹
	<b>項目</b>	各論 8
	<b>内容</b>	救急疾患の診断について理解する。
<b>第13回</b>	<b>担当教員</b>	馬場 重樹
	<b>項目</b>	まとめ
	<b>内容</b>	
<b>第14回</b>	<b>担当教員</b>	馬場 重樹
	<b>項目</b>	まとめ
	<b>内容</b>	
<b>第15回</b>	<b>担当教員</b>	馬場 重樹
	<b>項目</b>	まとめ
	<b>内容</b>	
<b>第16回</b>	<b>担当教員</b>	
	<b>項目</b>	
	<b>内容</b>	

#### 授業形式・授業形態

授業内容と方法は履修者の人数によって適宜調整するが、基本的には講義と演習・討論により実施する。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

出席状況・受講態度および授業の際の積極的参加度(50%)と、試験(50%)により総合的に評価する。

#### テキスト（教科書等）

教科書は特に指定しない。  
なお、授業のための資料はその都度配付する。

#### オフィスアワー(授業相談)

毎週金曜日の12:00～13:00、電話、メールなどで事前に主担当教員にアポイントを取ること。

**学生へのメッセージ**

必ず出席をしてください。万が一、欠席される際には事前に必ずWebClassより欠席の連絡を入れてください。

講義コード	5410170
講義名	看護学課題実習
Lecture name	博士前期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
時間	90.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河村 奈美子	公衆衛生看護学講座
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座
教授	相見 良成	基礎看護学講座
教授	宮松 直美	臨床看護学講座
教授	桑田 弘美	臨床看護学講座
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座
教授	辻村 真由子	公衆衛生看護学講座
教授	伊藤 美樹子	公衆衛生看護学講座
准教授	玉木 朋子	基礎看護学講座
准教授	荻田 美穂子	臨床看護学講座
講師	笠原 恭子	母子診療科

### 学修目標(到達目標)

看護実践の場における複雑な実践上の課題について、より専門的な視点を持ち、看護現象をデータ化し、分析する過程を経験することにより、看護実践上の課題について科学的視点から説明できる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

1. より複雑な実践上の現象について捉えることができる。
2. 看護の現象を専門的な視点を持ち、データ化し分析することができる。

3. 看護の現象を科学的視点を基に分析し、実践上の課題について考察できる。

### 授業内容

実習内容や方法は、それぞれの学生が希望する学習課題に応じて設計する。

### 授業計画表

第1回	項目	オリエンテーション
第2回	項目	実習
第3回	項目	実習
第4回	項目	実習
第5回	項目	実習
第6回	項目	実習
第7回	項目	実習
第8回	項目	実習
第9回	項目	実習
第10回	項目	実習
第11回	項目	実習
第12回	項目	実習
第13回	項目	実習
第14回	項目	実習
第15回	項目	実習

### 授業形式・授業形態

実習のテーマや課題、実習方法や具体的内容に関しては科目担当教員と相談し決定する。

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

#### 総括的評価

記録に基づくプレゼンテーション（50%）

討論における発言状況（50%）

#### 形成的評価

講義内容の主要テーマごとのコメントなど、都度のフィードバックを実施する

#### 態度評価

授業での発言などから学習意欲を評価する

プログ्रेसミーティング等で報告された学会参加及び発表は指導教員の判断により、本科目の単位の一部として評価される。

各授業時まで、検討資料の準備および疑問をもって備えることが求められる。

### テキスト（教科書等）

科目担当教員と相談し決定する。

### オフィスアワー(授業相談)

月曜 12:00-13:00 その他メールなどの事前連絡により随時対応します。

**学生へのメッセージ**

興味や関心のあるテーマに関して主体的に設計できる実習科目になりますので、充実した実習が出来るよう担当教員と相談してください。

**授業用E-mail**

[namy@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:namy@belle.shiga-med.ac.jp)

講義コード	5421010	
講義名	疾病予防学	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
所属名称		ナンバリングコード
担当教員		
職種	氏名	所属
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
様々な疾病に関する病態を理解し、その診断、介入、最終的に最新の知見に則った疾病予防の概要を学ぶ。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
高齢化に伴い疾病予防の重要性が再認識されている現状を鑑み、様々な疾病の病態を理解し、最新の知見をもとに今後の疾病予防の展望を明らかにする。		
<b>授業内容</b>		
生活習慣病の発症状況、その病態 妊娠中の胎児発育や出生後の栄養状態が将来的に関与する因子の解析 胎児期からの介入方法の検討		
<b>授業計画表</b>		
<b>授業形式・授業形態</b>		
講義：50%、討論：50%		
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>		
出席：20%、討論への参加態度：30%、プレゼンテーションならびにレポート課題：50%により総合的に評価する。		
<b>主担当教員の実務経験</b>		

医師

講義コード	5421020
講義名	フィジカルアセスメント
Lecture name	博士前期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座
准教授	荻田 美穂子	臨床看護学講座

### 学修目標(到達目標)

- ・身体診察基本手技の理論と方法論を理解し、正確に情報を取得・分析することができる技能的手法を習得する。
- ・フィジカルイグザミネーションの基本技術（問診・視診・触診・打診・聴診）が実践できる。
- ・高度実践看護師としてより高度なフィジカルアセスメントを実践できる。
- ・老化に伴う退行性変化によるフィジカルアセスメントの相違点を理解できる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

臓器別に系統的なフィジカルイグザミネーションを実施して、収集した情報をもとに、解剖生理学的・病態生理学的視点から情報を整理・統合し、適切かつ正確な臨床看護診断を導くための高度なフィジカルアセスメントを実践することを目的とする。

### 授業内容

- ・学生は講義において医学診断を踏まえつつ、全身の系統的アセスメントを学修し、臨床看護判断の統合に向けた検討を行う。
- ・基準に示されているそれぞれの臓器別系統講義は呼吸器系：第6回、循環器系：第5回、消化器系：第8回、腎・泌尿器系：第10回、脳神経系：第4回、筋骨格系：第9回、内分泌代謝系：第11回と網羅的に関連付けている。

・ e-Learningの具体的教材に関しては、S-QUA研究会 (<http://s-que.net/>) 「全日本SQUE看護師特定行為研修：フィジカルアセスメント（計21項目の中の該当講義項目）」に収録されている講義も正規科目と位置づけ、これらを履修することにより単位を認定する。

## 授業計画表

第1回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	フィジカルアセスメント概論－看護情報の特性を踏まえた看護学におけるフィジカルアセスメントの基本技術（問診・視診・触診・打診・聴診）
第2回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	全身状態とバイタルサインのフィジカルアセスメント（1）悪心・嘔吐（機能の概要、診察方法、特徴的な検査データの読み方、症状のアセスメント）
第3回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	全身状態とバイタルサインのフィジカルアセスメント（2）発熱（機能の概要、診察方法、特徴的な検査データの読み方、症状のアセスメント）
第4回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	意識障害のフィジカルアセスメント（機能の概要、診察方法、検査データの読み方、関連する症状のアセスメント）
第5回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	ショックのフィジカルアセスメント（機能の概要、診察方法、検査データの読み方、関連する症状のアセスメント）
第6回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	呼吸障害のフィジカルアセスメント（機能の概要、診察方法、検査データの読み方、慢性症状や急性症状に特徴的なアセスメント）
第7回	担当 教員	荻田 美穂子
	項目	摂食・嚥下障害のフィジカルアセスメント（機能の概要、生活者の視点を重視した看護におけるフィジカルアセスメント）
第8回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	栄養吸収障害のフィジカルアセスメント（機能の概要、診察方法、検査データの読み方、特徴的な症状のアセスメント）
第9回	担当 教員	喜多 伸幸

	項目	運動障害のフィジカルアセスメント（機能の概要、診察方法、検査データの読み方、反射等の筋・骨各系の症状のアセスメント）
第10回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	排尿・排便障害のフィジカルアセスメント（機能の概要、診察方法、検査データの読み方、特徴的な症状のアセスメント）
第11回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	生殖機能障害のフィジカルアセスメント（機能の概要、診察方法、検査データの読み方、生殖ホルモンの体内動態のアセスメント）
第12回	担当 教員	荻田 美穂子
	項目	身体診察の加齢による変化（1）：生活者の視点を重視した看護のフィジカルアセスメント－血液検査所見（血球数、血液凝固能、肝酵素、脂質、電解質など）
第13回	担当 教員	荻田 美穂子
	項目	身体診察の加齢による変化（2）：生理学的検査所見（心電図、呼吸機能検査、筋電図検査など）
第14回	担当 教員	喜多 伸幸 荻田 美穂子
	項目	事例検討（1）－摂食・嚥下障害患者の看護アセスメントと実践（グループディスカッション）
第15回	担当 教員	喜多 伸幸 荻田 美穂子
	項目	事例検討（2）－排尿・排便障害患者の看護アセスメントと実践（グループディスカッション）

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

レポート作成・プレゼンテーション

#### テキスト（教科書等）

- ・看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 医療情報科学研究所
- ・Bates'Guide to Physical Examination and History Taking (バイツ診察法)第2版 Lynn S.Bickley

講義コード	5421030	
講義名	疾病・臨床病態概論	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座
教授	北川 裕利	麻酔学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<p>1) 5疾病ほか、小児、高齢者の主要疾患の病態、臨床診断、治療について学ぶ。</p> <p>2) 救急医療や在宅医療において特定行為を行う疾病についての病態、臨床診断、治療について学ぶ。</p> <p>3) 急変時対応に関するEBM、急変の場面で必要な観察や判断力を身に付け実践で応用する能力を身に付ける。</p>		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
<p>主要疾患（5疾病）及び、臨床の場で多い疾患、年齢や状況に応じた特性も踏まえ、疾病や病態機序、臨床診断、治療について学ぶ。また多様な臨床の場面を想定した事例検討や演習を行い、特定行為や看護実践に応用する能力を養う。</p>		
<b>授業内容</b>		
<p>1. 主要疾患（5疾病）の臨床診断・治療学を学ぶ。</p> <p>1) 5疾病の病態と臨床診断・治療の概論 悪性腫瘍/脳血管障害/急性心筋梗塞/糖尿病/精神疾患</p> <p>2) その他の主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/腎泌尿器系/内分泌・代謝系/免疫・膠原病系/血液・リンパ系/神経系/小児科/産婦人科/精神系/運動器系/感覚器系/感染症/その他</p>		

2. 年齢や状況に応じた臨床診断・治療（小児、高齢者、救急医学等）を学ぶ。
- 3) 小児の臨床診断・治療の特性と演習 2) 高齢者の臨床診断・治療の特性と演習 3) 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習
- 4) 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習

### 授業計画表

特定行為研修のカリキュラムにそってe-learningと講義、実習をおこなう

### 授業形式・授業形態

高度実践コース（特定行為領域）で専攻する方は、e-learningで学習した後、面接授業にて学びをさらに深める。症例検討など演習も含む。面接授業ではe-learningはコマ毎に確認テスト、および筆記試験がある。

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

e-learning のコマ毎の確認テストは、満点となるまで行う。筆記試験を行う。その他、出席日数、レポート、授業への取り組み、態度などにより総合的に評価する。

### テキスト（教科書等）

e-learningテキストは、配布する。

### 参考文献等

看護師特定行為研修共通科目テキストブック、疾病・臨床病態概論、高村昭輝（編）、メディカルレビュー社、（2018）

### オフィスアワー(授業相談)

毎週金曜日の12:00～13:00、電話、メールなどで事前に主担当教員にアポイントを取ること。

### 学生へのメッセージ

必ず出席をしてください。万が一、欠席される際には事前に必ずWebClassより欠席の連絡を入れてください。

講義コード	5421041							
講義名	臨床推論 I							
Lecture name	博士前期							
代表ナンバリングコード								
講義開講時期	通年							
講義区分	講義							
基準単位数	2							
時間	30.00							
代表曜日								
代表時限								
ナンバリングコード								
<table border="1"> <tr> <td>所属名称</td> <td colspan="2">ナンバリングコード</td> </tr> </table>			所属名称	ナンバリングコード				
所属名称	ナンバリングコード							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教授</td> <td>馬場 重樹</td> <td>基礎看護学講座</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教授	馬場 重樹	基礎看護学講座
職種	氏名	所属						
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座						
<b>学修目標(到達目標)</b>								
臨床診断学、臨床検査学、症候学などを学び、病態の変化などを迅速に捉えてアセスメントする能力を身に付ける。また、臨床推論や医療面接の基本的な概念を理解し、医学の臨床診断プロセスの思考過程を学ぶ。これらの学びから特定行為を行う看護職に必要なスキルを見出すことができる。								
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>								
診療のプロセスで必要となる臨床推論の理論、医療面接、臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学の基礎を学び、医学の診方や思考プロセスを看護実践に取り入れ、応用する力を養う。								
<b>授業内容</b>								
臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1) 診療のプロセス、2) 臨床推論(症候学を含む)の理論と演習、3) 医療面接の理論と演習・実習、4) 各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/病理検査/微生物学検査/生理機能検査/その他の検査、5) 画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/超音波検査/CT・MRI/その他の画像検査 6) 臨床疫学の理論と演習								
<b>授業計画表</b>								
特定行為研修のカリキュラムにそってe-learningと講義、実習をおこなう								

<b>授業形式・授業形態</b>
高度実践コース（特定行為領域）で専攻する方は、e-learningで学習した後、面接授業にて学びをさらに深める。症例検討など演習も含む。面接授業ではe-learningはコマ毎に確認テスト、および筆記試験がある。
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
e-learning のコマ毎の確認テストは、満点となるまで行う。筆記試験を行う。その他、出席日数、レポート、授業への取り組み、態度などにより総合的に評価する。
<b>テキスト（教科書等）</b>
e-learningテキストは、配布する。
<b>参考文献等</b>
よくわかる医療面接と模擬患者 鈴木 富雄 名古屋大学出版会 誰も教えてくれなかった診断学—患者の言葉から診断仮説をどう作るか 野口 善令、福原 俊一 医学書院（2008） The 臨床推論 大西弘高 医学書院（2012） 看護師特定行為研修 共通科目テキストブック 臨床推論 メディカルレビュー社 2017 Bates'Pocket Guide to Physical Examination and History Taking (ベイツ診察法 ポケットガイド)第3版 Lynn S.Bickley [監修] 井部俊子ら メディカル・サイエンス・インターナショナル
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
毎週金曜日の12:00～13:00、電話、メールなどで事前に主担当教員にアポイントを取ること。
<b>学生へのメッセージ</b>
必ず出席をしてください。万が一、欠席される際には事前に必ずWebClassより欠席の連絡を入れてください。

講義コード	5421042	
講義名	臨床推論Ⅱ	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
所属名称		ナンバリングコード
担当教員		
職種	氏名	所属
教授	北川 裕利	麻酔学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<p>・周術期の高度看護実践において、複雑な健康問題を持つ対象に対して臨床判断を行うための知識と技術を修得する。</p> <p>1. 周術期管理の特徴を踏まえた病態把握と処置・治療の選択について説明できる。</p> <p>2. 周術期において原疾患、術式、麻酔法を考慮した臨床推論を行うために必要な知識と技術について理解できる。</p> <p>3. 周術期の頻度の高い病態において、重症度や緊急度を考慮した診療のプロセスを理解できる。</p> <p>4. 周術期の高度看護実践において臨床推論の意義と活用について考察できる。</p>		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
<p>臨床推論（基礎）から、さらに周術期管理領域に特化した臨床推論を学ぶ。患者に対する医療面接、診察、検査等の情報を収集し、起こっている現象を医学的捉え、その病態を診断するまでの思考過程を学ぶ。とくに鑑別診断に必要な病態生理、臨床的特徴などの医学的知識を実例の中で積み上げることにより、高度看護実践に応用する。</p>		
<b>授業内容</b>		

実践頻度の高い症例をもとに、Advanced臨床推論、臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ。

## 授業計画表

### 授業形式・授業形態

面接授業

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

プレゼンテーション、レポート、出席日数、授業への取り組み、態度などにより総合的に評価する。

### テキスト（教科書等）

周術期管理チームテキスト第3版、公益社団法人日本麻酔科学会・周術期管理チーム委員会編、2016

### 参考文献等

よくわかる医療面接と模擬患者 鈴木 富雄 名古屋大学出版会  
誰も教えてくれなかった診断学—患者の言葉から診断仮説をどう作るか 野口 善令、福原 俊一 医学書院（2008）  
The 臨床推論 大西弘高 医学書院（2012）  
看護師特定行為研修 共通科目テキストブック 臨床推論 メディカルレビュー社 2017  
Bates'Pocket Guide to Physical Examination and History Taking (ベイツ診察法 ポケットガイド)第3版 Lynn S.Bickley [監修] 井部俊子ら メディカル・サイエンス・インターナショナル  
考える技術 臨床的思考を分析する 第3版  
Scott D.C.Stern (編集),日経BP、2015

### オフィスアワー(授業相談)

オフィスアワー：9時～17時、ただし、不在時にはメール等で連絡してください。  
北川裕利 hirotoshi@belle.shiga-med.ac.jp 電話077-548-2281

### 学生へのメッセージ

高度実践コース（特定行為領域）  
Advancedコースであり、臨床推論 I を履修済、もしくは特定行為研修を修了した者であること。

講義コード	5421051	
講義名	特定行為実践論	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	宮松 直美	臨床看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<p>看護職の役割・業務は拡大している。その医療現場において必要となる、チーム医療、コンサルテーション、特定行為実践に関する法規、手順書について理解を深める。また、特定行為を実践する看護職の役割について考える。具体的には、特定行為の手順書について学び、活用するプロセスについて学ぶ。さらに特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ。また、これらを学びから特定行為実践の展開を想像して概念化できる。</p>		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
<p>多様な場面において特定行為実践に必要な多職種協働実践、関連法規を踏まえ、特定行為の手順書作成や改良する方法を習得する。さらに特定看護師や専門看護師の活動を参考に、臨床に則した意思決定支援や調整、特定行為の実践過程の構造を学ぶ。</p>		
<b>授業内容</b>		
<p>1. 多職種協働実践 (Inter Professional Work (IPW)) (他職種との事例検討等の演習を含む) を学ぶ  1) チーム医療の理論と演習・実習 2) チーム医療の事例検討 3) コンサルテーションの方法、4) 多職種協働の課題  ※特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割を含む</p> <p>2. 特定行為実践のための関連法規を学ぶ</p>		

<p>1) 特定行為関連法規 2) インフォームドコンセント理論 3) インフォームドコンセント演習</p> <p>3. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ</p> <p>1) 手順書の位置づけ 2) 手順書の作成演習 3) 手順書の評価と改良、</p> <p>4. 特定行為の実践におけるアセスメント仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ</p> <p>1) 特定行為の実践過程の構造 2) アセスメント、仮説検証、意思決定の理論 3) アセスメント、仮説検証、意思決定の演習</p>
<b>授業計画表</b>
<b>授業形式・授業形態</b>
高度実践コース（特定行為領域）で専攻する方は、e-learningで学習した後、面接授業にて学びをさらに深める。症例検討など演習も含む。面接授業ではe-learningはコマ毎に確認テスト、および筆記試験がある。
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
e-learning のコマ毎の確認テストは、満点となるまで行う。筆記試験を行う。その他、出席日数、レポート、授業への取り組み、態度などにより総合的に評価する。
<b>テキスト（教科書等）</b>
e-learningテキストは、配布する。
<b>学生へのメッセージ</b>
高度実践コース（特定行為領域）を専攻する方は必修とする。

講義コード	5421061							
講義名	特定行為実践演習							
Lecture name	博士前期							
代表ナンバリングコード								
講義開講時期	通年							
講義区分	演習							
基準単位数	1							
時間	0.00							
代表曜日								
代表時限								
ナンバリングコード								
<table border="1"> <tr> <td>所属名称</td> <td colspan="2">ナンバリングコード</td> </tr> </table>			所属名称	ナンバリングコード				
所属名称	ナンバリングコード							
担当教員								
<table border="1"> <tr> <td>職種</td> <td>氏名</td> <td>所属</td> </tr> <tr> <td>教授</td> <td>宮松 直美</td> <td>臨床看護学講座</td> </tr> </table>			職種	氏名	所属	教授	宮松 直美	臨床看護学講座
職種	氏名	所属						
教授	宮松 直美	臨床看護学講座						
<b>学修目標(到達目標)</b>								
<p>手順書の構成要素を理解し、安全と裁量を勘案して自己のフィールドに則した活用と改良ができる。</p> <p>看護職が特定行為を行うことで患者やチーム医療、組織に対するメリットを考察し、その意味・意義・役割について説明できる。</p> <p>特定行為実践を振り返り、評価する方法を探索する。</p>								
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>								
<p>根拠に基づいて手順書を作成し、評価し、改良するプロセスについて学ぶ。また、特定行為に必要なインフォームドコンセントや自身のフィールドで、特定行為を行う意義や活動計画を示し、グループディスカッションを行う。</p>								
<b>授業内容</b>								
<p>3. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ</p> <p>1) 手順書の位置づけ 2) 手順書の作成演習 3) 手順書の評価と改良</p> <p>4. 特定行為の実践におけるアセスメント仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ。</p> <p>1) 特定行為の実践過程の構造 2) アセスメント、仮説検証、意思決定の理論 3) アセスメント、仮説検証、意思決定の演習</p>								
<b>授業計画表</b>								

**授業形式・授業形態**

高度実践コース（特定行為領域）で専攻する方は、e-learningで学習した後、面接授業にて学びをさらに深める。プレゼン型ディスカッションなどの演習も含む。面接授業ではe-learningはコマ毎に確認テスト、および筆記試験がある。

**成績評価方法（成績評価基準を含む）**

e-learning のコマ毎の確認テストは、満点となるまで行う。授業や課題への取り組み、ディスカッションへの積極性やレポート、出席日数、態度などにより総合的に評価する。

**テキスト（教科書等）**

e-learningテキストは、配布する。

**学生へのメッセージ**

高度実践コース（特定行為領域）を専攻する方は必修とする。

講義コード	5421070	
講義名	診療看護実践論	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	辻村 真由子	公衆衛生看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
各専門領域における診療看護師の役割と担いうる業務、診療看護師の活動の評価方法について理解する。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
<p>1 諸外国での診療看護師育成および活動の変遷を学び、本邦における診療看護師が担いうる役割と業務、関連法規について学ぶ。</p> <p>2 各専門領域の診療看護師に求められる能力や役割、診療看護師の活動の評価方法について、討論を通して学ぶ。</p> <p>※各回の授業時までに授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解のうえで疑問を持って授業に備えることが求められる。</p>		
<b>授業内容</b>		
※受講生の進捗状況に応じて順序や内容を変更する可能性がある。		
<b>授業計画表</b>		
<b>第1回</b>	<b>項目</b>	オリエンテーション
	<b>内容</b>	科目の概要について説明する。また、第2回以降の課題について説明する。
<b>第2回</b>	<b>項目</b>	日本における診療看護師の変遷と今日的課題

	<b>内容</b>	日本における診療看護師の変遷と今日的課題について討論する。
<b>第3回</b>	<b>項目</b>	米国における診療看護師の制度と役割
	<b>内容</b>	米国における診療看護師の制度と役割について討論する。
<b>第4回</b>	<b>項目</b>	英国における診療看護師の制度と役割
	<b>内容</b>	英国における診療看護師の制度と役割について討論する。
<b>第5回</b>	<b>項目</b>	韓国・タイ国における診療看護師の制度と役割
	<b>内容</b>	韓国・タイ国における診療看護師の制度と役割について討論する。
<b>第6回</b>	<b>項目</b>	診療看護師に関する文献の抄読①
	<b>内容</b>	診療看護師に関する文献の抄読を行う。文献の内容をまとめ、発表する。
<b>第7回</b>	<b>項目</b>	診療看護師に関する文献の抄読②
	<b>内容</b>	診療看護師に関する文献の抄読を行う。文献の内容をまとめ、発表する。
<b>第8回</b>	<b>項目</b>	診療看護師に関する文献の抄読③
	<b>内容</b>	診療看護師に関する文献の抄読を行う。文献の内容をまとめ、発表する。
<b>第9回</b>	<b>項目</b>	診療看護師に関する文献の抄読④
	<b>内容</b>	診療看護師に関する文献の抄読を行う。文献の内容をまとめ、発表する。
<b>第10回</b>	<b>項目</b>	診療看護師に関する文献の抄読⑤
	<b>内容</b>	診療看護師に関する文献の抄読を行う。文献の内容をまとめ、発表する。
<b>第11回</b>	<b>項目</b>	診療看護師に関する文献の抄読⑥
	<b>内容</b>	診療看護師に関する文献の抄読を行う。文献の内容をまとめ、発表する。
<b>第12回</b>	<b>項目</b>	病院における診療看護師による活動の実際（ゲストスピーカー）
	<b>内容</b>	病院における診療看護師による活動の実際の講義を聞き、討論を行う。
<b>第13回</b>	<b>項目</b>	地域における診療看護師による活動の実際（ゲストスピーカー）
	<b>内容</b>	地域における診療看護師による活動の実際について講義を聞き、討論を行う。
<b>第14回</b>	<b>項目</b>	診療看護師による諸活動の評価①
	<b>内容</b>	診療看護師による諸活動の評価の方法を検討する。
<b>第15回</b>	<b>項目</b>	診療看護師による諸活動の評価②
	<b>内容</b>	診療看護師による諸活動の評価の方法を検討する。

#### 授業形式・授業形態

講義、学生によるプレゼンテーション、ディスカッションで構成する。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

学生によるプレゼンテーション資料と発表内容25%、ディスカッションへの参加状況25%、およびレポート50%により、総合的に評価する。

#### 参考文献等

授業内で紹介する。英語論文を含む文献を提示する。

#### オフィスアワー(授業相談)

履修希望の学生は、辻村（mtsuji@belle.shiga-med.ac.jp）に相談すること。  
授業相談は適宜応じます。e-mailで辻村までアポイントをとってください。

**主担当教員の実務経験**

看護師、保健師

講義コード	5431501	
講義名	ウイメンズヘルス看護学特論	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門～大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門		
大学院医学系研究科研究生～大学院医学系研究科研究生		
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域～大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域		
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<p>1. 女性の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツと生涯発達理論の視点と生理学的所見から捉え、ライフステージ各期にある女性とその家族の健康問題について看護学に必要な諸理論とジェンダーの概念を含めて理解を深め、看護援助のあり方について学修する。</p> <p>2. 女性の健康に関する様々な指標から、その課題を明確に分析し必要な看護方略を考える。</p> <p>3. 女性医療ケアシステムとその組織化に関する仕組みと運用と最新エビデンスを学習し看護実践につなげる。</p>		

4. 女性健康指標、保健政策、男女共同参画社会政策を学び、社会組織的・政策的な側面から生涯を通じた女性の健康保障にむけた女性医療・看護ケアの方向性を考察する。

**授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)**

女性を生涯発達理論から理解し、思春期・成熟期・更年期・老年期の今日的健康課題を取り上げ、看護実践の質的向上のために、最新の女性医療からの知見・文献レビュー、保健政策を中心としてそのトピックスについて理解を深め、さらにジェンダー分析の視点から全人的にアセスメントできる能力を養い、高度な看護実践方略について考えることができる。

**授業計画表**

ウィメンズヘルス看護学特論

第1回	担当教員	立岡 弓子
	項目	女性の健康と生涯発達理論 性差医療と女性医療ケアを必要とする女性の特性
第2回	担当教員	立岡 弓子
	項目	女性の健康と活用される理論 ヘルスプロモーションとウェルネス
第3回	担当教員	立岡 弓子
	項目	女性の健康への看護実践における評価とEBN
第4回	担当教員	立岡 弓子
	項目	女性の健康指標の概要とウィメンズヘルスの視点を考える 社会的決定要因からみたウィメンズヘルスを目指した看護支援について検討する。
第5回	担当教員	喜多伸幸
	項目	思春期女性の健康への理解 身体的・内分泌学的変化の特徴とエストロゲン依存性疾患への理解①
第6回	担当教員	喜多伸幸
	項目	性成熟期女性の健康への理解 身体的・内分泌学的変化の特徴とエストロゲン依存性疾患への理解②
第7回	担当教員	喜多伸幸
	項目	更年期女性の健康への理解 身体的・内分泌学的変化の特徴とエストロゲン依存性疾患への理解③
第8回	担当教員	喜多伸幸

	項目	老年期女性の健康への理解 身体的・内分泌学的変化の特徴とエストロゲン依存性疾患への理解④
第9回	担当教員	立岡 弓子
	項目	思春期女性の健康と発達課題を踏まえた看護支援
第10回	担当教員	立岡 弓子
	項目	性成熟期女性の健康と発達課題を踏まえた看護支援
第11回	担当教員	立岡 弓子
	項目	プレコンセプションケアの概念に基づく看護支援方略について考える
第12回	担当教員	服部聖子 中井愛
	項目	更年期・老年期・終末期にある女性の健康と発達課題を踏まえた看護支援
第13回	担当教員	立岡 弓子
	項目	ジェンダーと健康格差について考える
第14回	担当教員	立岡 弓子
	項目	LGBTQ・性の多様性への看護支援
第15回	担当教員	立岡 弓子
	項目	女性医療ケアシステムと男女共同参画社会政策からみた女性の就労と健康

### 授業形式・授業形態

講義,ディスカッション

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

ディベート能力およびプレゼンテーション、レポート

### テキスト（教科書等）

・伊藤公雄著；女性学・男性学-ジェンダー論入門 第3版，有斐閣アルマ，2019.

### 学生へのメッセージ

本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野共通科目「女性のライフサイクル全般にわたる個及び集団とその健康問題の理解に関する項目」および、「女性のライフサイクル全般にわたる援助に関する科目対象理解に関する科目」に相当する（2単位）。

### 授業用E-mail

[ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp)

### 参考E-mail 1

<a href="mailto:ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp">ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp</a>
<b>参考E-mail 2</b>
<a href="mailto:ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp">ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp</a>
<b>参考E-mail 3</b>
<a href="mailto:ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp">ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp</a>
<b>参考E-mail 4</b>
<a href="mailto:ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp">ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp</a>
<b>主担当教員の実務経験</b>
<p>看護学博士号を2003年に取得しました。日本で9番目の看護学博士取得に当たります。  助産師として、現在も附属病院にて毎週金曜日に助産師外来を担当しています。  看護実践に基づく研究への取り組み、看護研究成果を実践に還元することを大切に研究に取り組んでいます。</p>

講義コード	5431511																			
講義名	ウイメンズヘルス看護学演習																			
Lecture name	博士前期																			
代表ナンバリングコード																				
講義開講時期	後期																			
講義区分	演習																			
基準単位数	1																			
時間	30.00																			
代表曜日																				
代表時限																				
ナンバリングコード																				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;"><b>所属名称</b></td> <td><b>ナンバリングコード</b></td> </tr> </table>			<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>																
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>																			
担当教員																				
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">職種</th> <th style="width: 30%;">氏名</th> <th style="width: 60%;">所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教授</td> <td>立岡 弓子</td> <td>臨床看護学講座</td> </tr> <tr> <td>教授</td> <td>一杉 正仁</td> <td>社会医学講座（法医学部門）</td> </tr> <tr> <td>教授</td> <td>村上 節</td> <td>産科学婦人科学講座（女性）</td> </tr> <tr> <td>教授</td> <td>喜多 伸幸</td> <td>臨床看護学講座</td> </tr> <tr> <td>講師</td> <td>土川 祥</td> <td>臨床看護学講座</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教授	立岡 弓子	臨床看護学講座	教授	一杉 正仁	社会医学講座（法医学部門）	教授	村上 節	産科学婦人科学講座（女性）	教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座	講師	土川 祥	臨床看護学講座
職種	氏名	所属																		
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座																		
教授	一杉 正仁	社会医学講座（法医学部門）																		
教授	村上 節	産科学婦人科学講座（女性）																		
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座																		
講師	土川 祥	臨床看護学講座																		
対象学科／学年																				
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 80%;">学科</th> <th style="width: 20%;">学年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域母性看護学部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域母性看護学部門</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域 ～ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			学科	学年	大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域母性看護学部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域母性看護学部門		大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生		大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域 ～ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域											
学科	学年																			
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域母性看護学部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域母性看護学部門																				
大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生																				
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域 ～ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域																				
<b>学修目標(到達目標)</b>																				

- 1.健康問題解決にむけた臨床判断に必要な知識を教授するウィメンズヘルスを生涯発達として理解し、各ライフステージにおける。
- 2.ウィメンズヘルスをとりまく現状と看護を行う上で必要な最新知識とガイドラインについて学び、関連する最新エビデンスを獲得する方法を修得する。
- 3.ウィメンズヘルスをとり巻く社会的課題・トピックスについて事例を通して、母性看護学実践者としての立場・視点から、必要な社会的施策・社会的支援の必要性について看護職としての役割を深く理解する。
- 4.女性やその家族の権利を守るための倫理調整について理解する。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

ウィメンズヘルスを生涯発達として理解し、女性を取り巻く健康課題・社会的問題のトピックスについて、専門家からの最新の知識を提供する。さらに、事例を用いたプレゼンテーションからその内容についてディスカッションすることで、政策の提言・看護職に求められる役割について考え、実践に活かすことを目的とする。また、女性と家族の権利について考え、倫理的な視点を持った看護実践ができる力を養う。

### 授業内容

各トピックスについて調べた内容をウィメンズヘルス看護学の観点からプレゼンテーションを行う。

各トピックスを専門にする医師・助産師・看護師・生殖補助医療に従事する専門職がディスカッションに参加することで、より専門的な知識や倫理観・社会的な側面も踏まえた学修方法を取り入れる。

なお、トピックスや発表方法について学生からの提案内容に変更ができるため、積極的な意見を求める。

### 授業計画表

#### ウィメンズヘルス看護学演習

第1回	担当教員	立岡 弓子
	項目	女性を取り巻く社会の変化と女性の健康課題への看護支援の現状
第2回	担当教員	喜多 伸幸
	項目	性ホルモンのメカニズムと作用機序
第3回	担当教員	立岡 弓子
	項目	性ホルモンとエージング
第4回	担当教員	喜多 伸幸
	項目	思春期女性の健康に関する諸問題と臨床判断・生殖内分泌知識 月経・やせ
第5回	担当教員	喜多 伸幸

	<b>項目</b>	思春期女性の健康に関する諸問題と臨床判断・女性医学の知識 性感染症・人工妊娠中絶
第6回	<b>担当教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	思春期女性の健康に関する諸問題と臨床判断・人間発達学的知識 自殺・SOGI・パラサイト症候群と自我
第7回	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸 花田哲郎
	<b>項目</b>	成熟期にある女性の健康に関する諸問題と臨床判断・生殖内分泌知識 不妊
第8回	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸 花田哲郎
	<b>項目</b>	成熟期にある女性の健康に関する諸問題と臨床判断・女性医学の知識 エストロゲン依存性疾患
第9回	<b>担当教員</b>	土川 祥
	<b>項目</b>	成熟期にある女性の健康に関する諸問題と臨床判断・人間発達学的知識 喫煙・飲酒
第10回	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	更年期にある女性の健康に関する諸問題と臨床判断・生殖内分泌の知識 更年期障害
第11回	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	更年期にある女性の健康に関する諸問題と臨床判断・女性医学の知識 骨粗鬆症・脂質異常症
第12回	<b>担当教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	更年期にある女性の健康に関する諸問題と臨床判断・人間発達学的知識 空の巣症候群・更年期うつ
第13回	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	更年期にある男性の健康に関する諸問題と臨床判断・人間発達学的知識 性腺機能低下症・認知機能
第14回	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸 窪田成寿
	<b>項目</b>	老年期にある女性の健康に関する諸問題と臨床判断・生殖内分泌と女性医学 の知識 子宮脱を含めた骨盤臓器脱

第15回	担当教員	立岡 弓子
	項目	老年期にある女性の健康に関する諸問題と臨床判断・人間発達学的知識 貧困・家族関係
第16回	担当教員	村上 節 立岡 弓子
	項目	ウィメンズヘルスと女性医療 女性医療に必要なケアシステムへの理解とその組織化に関する理論
第17回	担当教員	立岡 弓子 花田哲郎
	項目	ウィメンズヘルスと最新エビデンス1 生殖医療ガイドライン 生殖医療ガイドラインから看護を考える
第18回	担当教員	喜多 伸幸 立岡 弓子
	項目	ウィメンズヘルスと最新エビデンス2 OC・LEPガイドライン OC・LEPガイドラインから看護を考える
第19回	担当教員	立岡 弓子 花田哲郎
	項目	ウィメンズヘルスと最新エビデンス3 小児, 思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 小児, 思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドラインから看護を考える
第20回	担当教員	村上 節 立岡 弓子
	項目	ウィメンズヘルスと最新エビデンス4 HRT療法ガイドライン HRT療法ガイドラインから看護を考える
第21回	担当教員	土川 祥 窪田成寿 大江良子
	項目	ウィメンズヘルスと最新エビデンス5 女性下部尿路症状診療ガイドライン 女性下部尿路症状診療ガイドラインから看護を考える
第22回	担当教員	立岡 弓子
	項目	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える① 赤ちゃんポスト・内密出産
第23回	担当教員	立岡 弓子
	項目	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える② 女性の貧困と施策（成育医療等基本方針より）

第24回	担当教員	中野育子
	項目	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える③ 災害・パンデミックにおける女性への支援
第25回	担当教員	立岡 弓子 中野育子
	項目	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える④ 新生生前診断と中絶を選択する女性
第26回	担当教員	一杉 正仁
	項目	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える⑤ 薬物使用とアルコール依存
第27回	担当教員	立岡 弓子
	項目	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える⑥ 分娩費用の保険適応と産む女性のリプロダクティブヘルスライツ
第28回	担当教員	一杉 正仁
	項目	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える⑦ 犯罪・虐待・女性の孤独死と死因究明
第29回	担当教員	立岡 弓子
	項目	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える⑧ ジェンダー平等に基づく女性に必要な保健施策について
第30回	担当教員	立岡 弓子 土川 祥
	項目	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える⑨ 女性を取り巻く経済産業活動と看護：フェムケア

#### 授業形式・授業形態

プレゼンテーション、討論

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

プレゼンテーション、討論への参加

#### テキスト（教科書等）

- ・日本生殖医学会；OC・LEPガイドライン，杏林舎，2020
- ・日本癌治療学会；小児、思春期、若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン，金原出版
- ・日本女性医学学会；女性医学ガイドブック，金原出版
- ・日本生殖医学会；生殖医療ガイドライン，杏林舎

<b>テキストISBN番号</b>
修士入力せず。
<b>参考文献等</b>
修士入力せず。テキスト欄に入力。
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
修士入力せず。
<b>学生へのメッセージ</b>
本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野共通科目「女性のライフサイクル全般にわたる個及び集団とその健康問題の理解に関する項目」および、「女性のライフサイクル全般にわたる援助に関する科目対象理解に関する科目」に相当する（2単位）。
<b>主担当教員の実務経験</b>
助産師の実務経験（大学病院 産科単科病院 産科クリニック）があります。また、SANE（性暴力被害者支援看護職）、アドバンス助産師、思春期保健相談士の資格も有しています。現在は、毎週金曜日、滋賀医科大学医学部附属病院母子診療科外来にて乳房ケア外来を担当しています。

講義コード	5431521
講義名	周産期看護学演習
Lecture name	修士
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座
教授	一杉 正仁	社会医学講座（法医学部門）
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座
准教授	辻 俊一郎	産科学婦人科学講座（母子）
講師	土川 祥	臨床看護学講座
講師	柳 貴英	小児科

対象学科／学年

学科	学年
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域母性看護学部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域母性看護学部門	
大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生	

**学修目標(到達目標)**

- 1.周産期の女性とその家族の理解について、倫理的・臨床的看護診断から必要な看護実践を展開する。
- 2.妊娠・分娩・産褥経過と胎児・新生児診断を含めた超音波断層法検査をはじめとする診断技

法を理解し、助産師外来からの要請に対応できる素養を養う。

3.周産期に起こる異常症例についてガイドラインから標準治療を理解し、対象の異常症状から臨床推論を展開し、必要な看護支援について理解する。

4.周産期医療の最新のエビデンスに基づく論文を読み解き、EBNから最善の看護ケアの提供について考えることができる。

5.子供の成長発達・親役割獲得過程の理論を理解する。

6.周産期にある母児とその家族の健康課題の看護診断および看護援助の在り方を理解する。

7.新しい命を迎えた母子やその家族の発達に関する理論を論解し、母子を取り巻く社会や環境、それらを支援する周産期ケアシステムや母子保健施策について学修する。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

最新の産科診療ガイドライン・助産業務ガイドラインの指針や周産期医療のエビデンスについて学んだ上で、母児の健康状態を正確に把握するための知識と看護技術を獲得し、臨床推論や看護診断までの過程を系統的に理解する。また、看護を必要とする家族の発達課題や社会環境について学び、アセスメント能力を高め、母子保健施策等を活用した妊娠前から産後の育児期における母子とその家族への切れ目ない支援を考案する力を身につけることを目的とする。

### 授業計画表

#### 周産期看護学演習

第1回	担当 教員	立岡 弓子
	項目	周産期女性の身体的・内分泌的变化に基づく健康課題の基礎を学び、母性CNSとして対象を捉えるための視点について考察する
第2回	担当 教員	立岡 弓子
	項目	出生前診断と遺伝に関する最新の知識 その診断を受ける女性と家族への理解
第3回	担当 教員	立岡 弓子
	項目	出生前診断に基づく事例から倫理的・臨床的支援課題を考察する
第4回	担当 教員	立岡 弓子
	項目	出生前診断に基づく事例から倫理的・臨床的支援課題を考察する
第5回	担当 教員	立岡 弓子
	項目	母子愛着形成と親役割理論に関する知識および必要な看護の理解
第6回	担当 教員	立岡 弓子
	項目	母子愛着形成と親役割理論に基づく特定妊婦とその家族の事例を基に倫理的・臨床的支援課題を考察する
第7回	担当	桂大輔

	<b>教員</b>	中井愛
	<b>項目</b>	周産期医療におけるME機器（分娩監視装置、超音波断層法検査）に関する知識と技術の理解およびスタッフ教育について考察する
<b>第8回</b>	<b>担当教員</b>	桂大輔 中井愛
	<b>項目</b>	周産期医療におけるME機器（分娩監視装置、超音波断層法検査）に関する知識と技術の理解およびスタッフ教育について考察する
<b>第9回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	妊娠期の異常(妊娠初期に得ておく情報、妊娠中の精神障害ハイリスク妊産婦の抽出法とその対処法)に関する産科診療ガイドラインに基づいた対応の理解
<b>第10回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	妊娠期の異常(妊婦の腹痛)に関する臨床推論に必要な産科学知識の理解
<b>第11回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	妊娠期の異常(妊婦の腹痛)に関する臨床推論に必要な産科学知識の理解
<b>第12回</b>	<b>担当教員</b>	辻 俊一郎
	<b>項目</b>	分娩期の異常(帝王切開既往妊婦が経膈分娩を希望した場合の対応、未受診妊婦の対応)に関する産科診療ガイドラインに基づいた対応の理解
<b>第13回</b>	<b>担当教員</b>	辻 俊一郎
	<b>項目</b>	分娩期の異常(分娩期の頭痛)に関する臨床推論に必要な産科学知識の理解
<b>第14回</b>	<b>担当教員</b>	辻 俊一郎
	<b>項目</b>	分娩期の異常(分娩期の頭痛)に関する臨床推論に必要な産科学知識の理解
<b>第15回</b>	<b>担当教員</b>	辻 俊一郎
	<b>項目</b>	分娩期の異常(帝王切開既往妊婦が経膈分娩を希望した場合の対応、未受診妊婦の対応、分娩期の頭痛)に関する産科診療ガイドラインおよび臨床推論に必要な産科学知識の理解
<b>第16回</b>	<b>担当教員</b>	辻 俊一郎 土川 祥
	<b>項目</b>	分娩期の異常に対する看護診断に必要な臨床推論についてロールプレイおよび学生によるディスカッションを行う（事例：頭痛症例）
<b>第17回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸

	<b>項目</b>	産褥期の異常(産後の異常出血の予防・対応、産褥精神障害の取扱い)に関する産科診療ガイドラインに基づいた対応の理解
第18回	<b>担当 教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	産褥期の異常(産褥期の発熱)に関する臨床推論に必要な産科学知識の理解
第19回	<b>担当 教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	産褥期の異常(産褥期の発熱)に関する臨床推論に必要な産科学知識の理解
第20回	<b>担当 教員</b>	喜多 伸幸 土川 祥
	<b>項目</b>	産褥早期の異常に対する看護診断に必要な臨床推論についてロールプレイおよび学生によるディスカッションを行う(事例:発熱症例)
第21回	<b>担当 教員</b>	柳 貴英 土川 祥
	<b>項目</b>	新生児期の異常(早産児の管理、新生児の嘔吐・けいれん・腹部膨満)に関する産科診療ガイドラインおよび助産業務ガイドラインに基づいた対応の理解
第22回	<b>担当 教員</b>	柳 貴英
	<b>項目</b>	新生児期の異常(新生児の嘔吐・けいれん・腹部膨満)に関する臨床推論に必要な新生児学知識の理解
第23回	<b>担当 教員</b>	柳 貴英
	<b>項目</b>	新生児期の異常(新生児の嘔吐・けいれん・腹部膨満)に関する臨床推論に必要な新生児学知識の理解
第24回	<b>担当 教員</b>	喜多 伸幸 土川 祥
	<b>項目</b>	新生児期の異常に対する看護診断に必要な臨床推論についてロールプレイおよび学生によるディスカッションを行う(事例:嘔吐症例)
第25回	<b>担当 教員</b>	土川 祥 中井愛
	<b>項目</b>	新生児のディベロップメンタルケアと家族中心のケアについて事例から倫理的・臨床的支援課題を考察する
第26回	<b>担当 教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	子ども家庭庁や母子保健行政等による母子への支援施策
第27回	<b>担当 教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	周産期ケアシステムの実際とPDCAサイクル理論 ～切れ目ない支援を考える～

第28回	担当 教員	一杉 正仁
	項目	生後0日死亡とその予防、育児放棄する女性への支援 ～養育環境への支援～
第29回	担当 教員	一杉 正仁
	項目	最新の周産期ケアシステム・母子保健行政の施策から考える周産期の母児への 切れ目ない支援（プレゼンテーション）
第30回	担当 教員	立岡 弓子 土川 祥
	項目	コクランレビューからひもとく周産期医療のエビデンスと看護

### 授業形式・授業形態

講義、プレゼンテーション、討論

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

プレゼンテーション、討論への参加

### テキスト（教科書等）

実践! 胎児超音波検査 - どこを見て、なにを診るのか - MEDICAL VIEW

EXPERT DD OBSTETRICS AMIRSYS®

森臨太郎、森享子（著）、ほんとうに確かなことから考える妊娠・出産の話 コクランレビュー  
からひもとく. 医学書院、2018. ISBN-13 : 978-4260035422

### テキストISBN番号

修士入力せず。

### 参考文献等

修士入力せず。テキスト欄に入力。

### オフィスアワー(授業相談)

修士入力せず。

### 学生へのメッセージ

本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野共通科目「周産期にある母子と  
その健康問題の理解に関する項目」および「周産期にある母子の援助に関する項目」に相当す  
る（2単位）。

### 授業用E-mail

[ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp)

### 主担当教員の実務経験

看護学博士号を2003年に取得しました。日本で9番目の看護学博士取得に当たります。

助産師として、現在も附属病院にて毎週金曜日に助産師外来を担当しています。

看護実践に基づく研究への取り組み、看護研究成果を実践に還元することを大切に研究に取り  
組んでいます。

講義コード	5431401									
講義名	チャイルドヘルス看護学特論									
Lecture name	博士前期									
代表ナンバリングコード										
講義開講時期	前期									
講義区分	講義									
基準単位数	2									
時間	30.00									
代表曜日										
代表時限										
ナンバリングコード										
<table border="1"> <tr> <td>所属名称</td> <td>ナンバリングコード</td> </tr> </table>			所属名称	ナンバリングコード						
所属名称	ナンバリングコード									
担当教員										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教授</td> <td>桑田 弘美</td> <td>臨床看護学講座</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教授	桑田 弘美	臨床看護学講座		
職種	氏名	所属								
教授	桑田 弘美	臨床看護学講座								
対象学科/学年										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>学年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門 ~ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大学院医学系研究科研究生 ~ 大学院医学系研究科研究生</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域 ~ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			学科	学年	大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門 ~ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門		大学院医学系研究科研究生 ~ 大学院医学系研究科研究生		大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域 ~ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域	
学科	学年									
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門 ~ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門										
大学院医学系研究科研究生 ~ 大学院医学系研究科研究生										
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域 ~ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域										
<b>学修目標(到達目標)</b>										
<p>さまざまな慢性疾患を持ちながら生活している子どもと家族へのケアについて学ぶ。小児の病気の特徴、病気と発達との関連、特別な配慮が必要な子どもと家族への看護への理解を深め課題を見極める。</p>										
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>										

慢性疾患には多くの種類があるため、その病気によって療育上の困難さの程度・状況が異なる。疾患別に取り上げ、ゼミ形式で子どもと家族が抱える問題点とケアについてディスカッションを行い、現状の理解と課題について考察する。

事前にそれぞれの疾患を持つ子どもの特徴について調べ、プレゼンテーションを行い、ディスカッションする。十分な時間を取るために、2コマずつ行う。

### 授業内容

- 1.子どもの病気と発達との関連
- 2.小児慢性特定疾病と社会資源
- 3.呼吸器疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア
- 4.心臓・腎臓疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア
- 5.内分泌・代謝疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア
- 6.悪性新生物・血液疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア
- 7.神経・筋疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア
- 8.脳神経疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア
- 9.心身症をもつ子どもと家族の特徴とケア
- 10.重症心身障害をもつ子どもと家族の特徴とケア
- 11.子どもの医療的ケア
- 12.発達障害をもつ子どもと家族の特徴とケア
- 13.視覚・聴覚・言語障害をもつ子どもと家族の特徴とケア
- 14.特別支援教育の現状
- 15.在宅療養をする子どもと家族への支援

### 授業計画表

第1回	担当教員	桑田 弘美
	項目	1.子どもの病気と発達との関連 2.小児慢性特定疾病と社会資源
	内容	1.子どもの病気が発達にどのように影響するのか、事例や経験を交えて討論する 2.小児慢性特定疾病、子どもに多い希少難病、社会資源などについて学び、討論する。
第2回	担当教員	桑田 弘美
	項目	3.呼吸器疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア 4.心臓・腎臓疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア
	内容	3.呼吸器疾患をもつ子どもと家族の特徴とその実際について学ぶ。 4.心臓・腎臓疾患をもつ子どもと家族の特徴とその実際について学ぶ。
第3回	担当教員	桑田 弘美

	<b>項目</b>	5.内分泌・代謝疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア 6.悪性新生物・血液疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア
	<b>内容</b>	5.内分泌・代謝疾患をもつ子どもと家族の特徴とその実際について学ぶ。 6.悪性新生物・血液疾患をもつ子どもと家族の特徴とその実際について学ぶ。

<b>第4回</b>	<b>担当教員</b>	桑田 弘美
	<b>項目</b>	7.神経・筋疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア 8.脳神経疾患をもつ子どもと家族の特徴とケア
	<b>内容</b>	7.神経・筋疾患をもつ子どもと家族の特徴とその実際について学ぶ。 8.脳神経疾患をもつ子どもと家族の特徴とその実際について学ぶ。

<b>第5回</b>	<b>担当教員</b>	桑田 弘美
	<b>項目</b>	9.心身症をもつ子どもと家族の特徴とケア 10.重症心身障害をもつ子どもと家族の特徴とケア
	<b>内容</b>	9.心身症をもつ子どもと家族の特徴とその実際について学ぶ。 10.重症心身障害をもつ子どもと家族の特徴とその実際について学ぶ。

<b>第6回</b>	<b>担当教員</b>	桑田 弘美
	<b>項目</b>	11.子どもの医療的ケア 12.発達障害をもつ子どもと家族の特徴とケア
	<b>内容</b>	11.子どもの医療的ケアの実際と課題について学ぶ。 12.発達障害をもつ子どもと家族の特徴とその実際について学ぶ。

<b>第7回</b>	<b>担当教員</b>	桑田 弘美
	<b>項目</b>	13.視覚・聴覚・言語障害をもつ子どもと家族の特徴とケア 14.特別支援教育の現状
	<b>内容</b>	13.視覚・聴覚・言語障害をもつ子どもと家族の特徴とその実際について学ぶ。 14.特別支援教育の現状について学ぶ。

<b>第8回</b>	<b>担当教員</b>	桑田 弘美
	<b>項目</b>	15.在宅療養をする子どもと家族への支援 16.まとめ
	<b>内容</b>	15.在宅療養をする子どもと家族の実際について学ぶ。 16.まとめ

<b>授業形式・授業形態</b>
基本的には事前に調べてきたことをプレゼンし、討論する。パワーポイント、DVDなどを使用する。
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
出席状況（40%）、プレゼン（40%）、レポート（20%）により総合的に評価する。
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
事前にメールで問い合わせをお願いします。
<b>主担当教員の実務経験</b>
看護師

講義コード	5431412	
講義名	チャイルドヘルス看護学演習A	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	桑田 弘美	臨床看護学講座
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域小児看護学部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域小児看護学部門		
大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生		
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門チャイルドヘルス看護学領域 ～ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門チャイルドヘルス看護学領域		
<b>学修目標(到達目標)</b>		
成長・発達の理論について、その概念を学び、実際の子どもの成長・発達と照らし合わせて、看護実践にどのような意味合いを持ち、活用できるのかを考察する。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
子どもは家族の中に誕生し、家族に育まれ、成長・発達していく。小児看護に携わる者は、子どもを主体的な存在としてとらえ、家族を含めて子どもの健康を守るために支援する。各理論		

を理解し、それらに関する文献検討を行い、小児看護の実践において活用できるよう学習する。

## 授業内容

- 1.セルフケア理論の概要
- 2.エリクソン自我発達理論の概要
- 3.ピアジェの認知発達理論の概要
- 4.親子関係論の概要
- 5.家族理論の概要
- 6.成長・発達の理論に関する文献検討1
- 7.成長・発達の理論に関する事例検討2
- 8.成長・発達の理論に関する事例検討3

## 授業計画表

第1回	担当教員	桑田 弘美
	項目	1.セルフケア理論の概要
	内容	1.セルフケア理論の概要と具体例について学ぶ。
第2回	担当教員	桑田 弘美
	項目	2.エリクソン自我発達理論の概要
	内容	2.エリクソン自我発達理論の概要と具体例について学ぶ。
第3回	担当教員	桑田 弘美
	項目	3.ピアジェの認知発達理論の概要
	内容	3.ピアジェの認知発達理論の概要と具体例について学ぶ。
第4回	担当教員	桑田 弘美
	項目	4.親子関係論の概要
	内容	4.親子関係論の概要と具体例を学ぶ。
第5回	担当教員	桑田 弘美
	項目	5.家族理論の概要
	内容	5.家族理論の概要と具体例を学ぶ。
第6回	担当教員	桑田 弘美
	項目	6.成長・発達の理論に関する文献検討1
	内容	6.成長・発達の理論に関する文献検討を行い、討論する。
第7回	担当教員	桑田 弘美
	項目	7.成長・発達の理論に関する事例検討2
	内容	7.成長・発達の理論に関する事例検討を行い、討論する。
第8回	担当教員	桑田 弘美
	項目	8.成長・発達の理論に関する事例検討3
	内容	8.成長・発達の理論に関する事例検討を行い、討論する。

<b>授業形式・授業形態</b>
成長・発達の理論をテーマとして、プレゼンテーションを行い、討論する。
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
出席状況（40%）、プレゼン（40%）、レポート（20%）により総合的に評価する。
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
事前にメールでアポイントを取ってください。

講義コード	5431421	
講義名	小児看護学演習B	
Lecture name	修士	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	桑田 弘美	臨床看護学講座
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域小児看護学部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域小児看護学部門		
大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生		
<b>学修目標(到達目標)</b>		
難病や障害のある子どもが、学校生活を含めて、在宅でQOLの高い生活を営むための支援について考察する。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
難病や障害のある子どもの在宅ケアに関する諸文献を用いて、在宅療養をする子どもと家族への支援を具体化する。また、実際に在宅療養する子どもに関わることで、在宅ケアの現状における問題点を明らかにし、支援のあり方を考える。		
<b>授業内容</b>		

- 1～2.障害のある子どもと家族の在宅療養への課題  
 3～4.視覚障害・聴覚障害・言語障害のある子どもと家族の生活への課題  
 5～6.肢体不自由・重症心身障害のある子どもと家族の生活への課題  
 7～8.在宅療養への支援

**授業計画表**

第1回	担当 教員	桑田 弘美
	項目	1.障害のある子どもと家族の生活への課題1
	内容	障害のある子どもと家族の生活の実際を明らかにする。 発達障害、心身障害のある子どもたちの在宅療養に関する文献検討をして、最新の現状を把握する。
第2回	担当 教員	桑田 弘美
	項目	2.障害のある子どもと家族の在宅療養への課題2
	内容	難病のある子どもと家族の生活の実際を明らかにする。 難病のある子どもたちの生活に関する文献検討をして、最新の現状を把握し、課題について考察する。
第3回	担当 教員	桑田 弘美
	項目	3.視覚障害のある子どもと家族の生活への課題
	内容	視覚障害のある子どもの生活の実際を明らかにする。 視覚障害のある子どもたちの生活に関する文献検討を行い、最新の状況を把握し、課題について考察する。
第4回	担当 教員	桑田 弘美
	項目	4.聴覚障害・言語障害のある子どもと家族の生活への課題
	内容	聴覚障害や言語障害など、コミュニケーション障害のある子どもと家族の生活を明らかにする。 聴覚障害や言語障害のある子どもたちの生活に関する文献検討を行い、最新の状況を把握し、課題について考察する。
第5回	担当 教員	桑田 弘美
	項目	5.肢体不自由のある子どもと家族の生活への課題
	内容	肢体不自由のある子どもと家族の生活の実際を明らかにする。 肢体不自由のある子どもたちの生活に関する文献検討を行い、最新の状況を把握し、課題について考察する。
第6回	担当 教員	桑田 弘美
	項目	6.重症心身障害のある子どもと家族の生活への課題

	<b>内容</b>	重症心身障害のある子どもと家族の生活の実際を明らかにする。 重症心身障害のある子どもたちの生活に関する文献検討を行い、最新の状況を把握し、課題について考察する。
第7回	<b>担当 教員</b>	桑田 弘美
	<b>項目</b>	7.在宅療養への支援
	<b>内容</b>	実際に地域で生活する子どもと家族に関わってきたことと、これまで明らかにしてきた子どもたちの生活の文献検討の結果と比較して、今日的課題を考察する。
第8回	<b>担当 教員</b>	桑田 弘美
	<b>項目</b>	8.在宅療養への支援のまとめ
	<b>内容</b>	それぞれの成果を発表し、討論する。

#### 授業形式・授業形態

実際に地域で在宅療養をする子どもと家族に関わり、文献検討した結果と比較して、今日的課題を考察する。

子どもの在宅ケアについてプレゼンテーションを行い、討論する。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

出席状況（40%）、プレゼンテーション（40%）とレポート（20%）により評価する。

#### テキストISBN番号

修士入力せず。

#### 参考文献等

修士入力せず。テキスト欄に入力。

#### オフィスアワー(授業相談)

事前にメールでアポイントを取ってください。

講義コード	5431800							
講義名	NCD看護学特論							
Lecture name	博士前期							
代表ナンバリングコード								
講義開講時期	前期							
講義区分	講義							
基準単位数	2							
時間	30.00							
代表曜日								
代表時限								
ナンバリングコード								
<table border="1"> <tr> <td>所属名称</td> <td colspan="2">ナンバリングコード</td> </tr> </table>			所属名称	ナンバリングコード				
所属名称	ナンバリングコード							
担当教員								
<table border="1"> <tr> <td>職種</td> <td>氏名</td> <td>所属</td> </tr> <tr> <td>教授</td> <td>宮松 直美</td> <td>臨床看護学講座</td> </tr> </table>			職種	氏名	所属	教授	宮松 直美	臨床看護学講座
職種	氏名	所属						
教授	宮松 直美	臨床看護学講座						
対象学科／学年								
<table border="1"> <tr> <td>学科</td> <td>学年</td> </tr> <tr> <td>大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域 ～ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域</td> <td></td> </tr> </table>			学科	学年	大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域 ～ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域			
学科	学年							
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域 ～ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域								
<b>学修目標(到達目標)</b>								
1.各領域での研究の動向を理解する 2.それぞれの疾病の予防・管理上、修飾し得る要因とその方法を理解する 3.それぞれの疾病の予防・管理上、看護師の関与し得る課題とその方法を明らかにする								
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>								
がんや循環器疾患などの非感染性疾患（NCD）の各段階での看護に関する国内外の知見から、各専門領域での看護のあり方と研究課題を見出す。								
<b>授業内容</b>								

- 1 オリエンテーション
- 2 循環器看護①
- 3 循環器看護②
- 4 循環器看護③
- 5 糖尿病看護①
- 6 糖尿病看護②
- 7 がん看護①
- 8 がん看護②
- 9 周手術看護①
- 10 周手術看護②
- 11 労働関連疾患の予防と管理
- 12 飲酒・喫煙関連疾患の予防と管理
- 13 ストレス関連疾患の予防と管理
- 14 認知機能障害の予防と管理
- 15 まとめ

#### **授業計画表**

#### **授業形式・授業形態**

外書講読形式。

受講生は各テーマについての文献レビューを行い、プレゼンテーションすること。

#### **成績評価方法（成績評価基準を含む）**

プレゼンテーション(50%)、討論への参加態度(50%)により総合的に評価する。

学生の主体的参加が重視される。

#### **学生へのメッセージ**

履修を希望する大学院生は、必ず受講登録前に研究室までいらしてください。

講義コード	5431810	
講義名	NCD看護学演習A	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	宮松 直美	臨床看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
非感染性疾患（NCD）の予防と管理に関するエビデンスに基づく看護実践について考察する。また、NCD看護に関する臨床的課題の抽出とそれを解決するための適切な研究方法について理解する。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
循環器疾患、がんなどの非感染性疾患の発症予防、再発予防および社会復帰の促進に関する研究については、疾病や健康水準、目的とする評価指標により調査・研究手法が異なる。これらを理解するための研究方法、分析方法について学び、国内外の先行研究の批判的吟味を通して自己の研究課題の洗練および研究計画立案の基礎を習得し、NCD予防・管理における看護職の役割や今日的課題に関しての自己の考えを明確にする。		
<b>授業内容</b>		
NCDの予防と管理に関する看護における研究方法および分析方法を教授する。さらに、国内外の先行研究のレビュー、クリティークをもとにした討論を行う。		
<b>授業計画表</b>		
<b>授業形式・授業形態</b>		
テキスト及び国内外の先行研究のレビュー形式。 受講生は提示した課題の内容をプレゼンテーションすること。		

<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
--------------------------

プレゼンテーション(50%)、討論への参加態度(50%)により総合的に評価する。 学生の主体的参加が重視される。
---

<b>テキスト（教科書等）</b>
-------------------

授業内で提示する。
-----------

<b>学生へのメッセージ</b>
------------------

履修を希望する大学院生は、必ず受講登録前に連絡してください。
--------------------------------

講義コード	5431820		
講義名	NCD看護学演習B		
Lecture name	修士		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期		
講義区分	演習		
基準単位数	1		
時間	30.00		
代表曜日			
代表時限			
ナンバリングコード			
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>		
担当教員			
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>	
教授	宮松 直美	臨床看護学講座	
対象学科／学年			
	<b>学科</b>		<b>学年</b>
	大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域 ～ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域		
<b>学修目標(到達目標)</b>			
	<p>質の高いケアとは何か、またはそれを提供するために必要なものは何かについて理解することができる。さらに、介入研究を行う際の効果的なアプローチ法や留意すべき点について理解できる。</p> <p>自らの関心に即したテーマについて、外国語文献検討ができる力を身につける。</p>		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>			
	<p>臨床看護実践の向上のためのエビデンス構築には、介入研究が不可欠である。しかしながら、臨床介入研究は、その方法論が観察研究とは大きく異なる。本科目ではテキストの精読および介入研究に基づいた論文のクリティークをもとに、介入研究の立案と遂行に必要な知識を身につける。</p>		

<b>授業内容</b>
1.Introduction 2.Outcomes Reserch 3.The Theory-Driven Approach to Effectiveness Research 4.Characteristics of Clients 5.Intervener and Setting Characterristics 6.Intervention Variables 7.Outcomes-Related Factors 8.Implications for Effectiveness Research
<b>授業計画表</b>
<b>授業形式・授業形態</b>
外書講読形式。 受講者は各章を熟読の上、内容をプレゼンテーションすること。
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
出席(20%)とプレゼンテーション(50%)、討論への参加態度(30%)により評価する。 学生の主体的参加が重視される。
<b>テキスト（教科書等）</b>
Evaluating Nursing Interventions : A Theory-Driven Approach Souraya Sidani, Carrie Jo Braden Sage Pubns,1997
<b>学生へのメッセージ</b>
履修を希望する大学院生は、必ず受講登録前に研究室までいらしてください。

講義コード	5431301
講義名	フレイルケア看護学特論
Lecture name	博士前期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	荻田 美穂子	臨床看護学講座

対象学科／学年

学科	学年
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門	
大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生	
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域 ～ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門ウイメンズヘルス看護学領域	

**学修目標(到達目標)**

1. 高齢者を取り巻く保健統計や保健福祉政策に関する国内外の動向について理解できる。
2. 高齢者の権利擁護に関する今日的課題や倫理的ジレンマについて臨床的課題を見出すことができる。
3. 老年期の人々及びフレイルハイリスク集団に対して高度な看護実践を行うために基盤となる専門的知識を修得できる。
4. 疫学や老年医学・看護学に関わる研究者の歴史的背景を概観し科学の成り立ちを知る。

**授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)**

高齢化の国際的動向や我が国の保健福祉政策の動向、高齢者に対して高度な看護実践を行うための専門的知識を深める。今日の我が国の高齢者医療を俯瞰し、老年看護学領域における臨床的課題を見出す。さらに、老年看護学領域の研究に関わった先人の偉業やその背景に触れ、研究マインドを涵養する。第1回の講義は、高齢者を取り巻く健康にかかる諸問題について概観し、科目責任者が専門とする「高齢者、フレイル、要介護」をキーワードとした研究を例に挙げて講義を展開する。各自割り当てられた課題について、内容の要約や問題提起についてプレゼンテーション・ディスカッションを行う形式で進める。事前の資料準備・疑問点を持って授業に備えることが求められる。

**授業内容**

- 第1回 高齢者の保健統計（国内外・滋賀県内）
- 第2回 高齢者における医療と介護の連携
- 第3回 地域包括ケアシステムの現状と課題
- 第4回 高齢者の権利擁護と今日的課題
- 第5回 老年看護学領域における倫理的問題
- 第6回 老年期の健康とヘルスプロモーション
- 第7回 老年期における身体的健康課題
- 第8回 老年期における心理的健康課題
- 第9回 老年期における社会的健康課題
- 第10回 フレイルハイリスク集団（生活習慣病）における健康課題
- 第11回 フレイルハイリスク集団（脳神経疾患）における健康課題
- 第12回 フレイルハイリスク集団（運動器疾患）における健康課題
- 第13回 疫学や老年医学・看護学に関わる研究者の歴史と科学の成り立ち①
- 第14回 疫学や老年医学・看護学に関わる研究者の歴史と科学の成り立ち②
- 第15回 まとめ

**授業計画表**

<b>第1回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	加齢と老化の概念・理論・高齢者の保健統計（国内外・滋賀県内）
	<b>教室</b>	看院講
<b>第2回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	高齢者における医療と介護の連携
<b>第3回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	地域包括ケアシステムの現状と課題
<b>第4回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	高齢者の権利擁護と今日的課題
<b>第5回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	老年看護学領域における倫理的問題

	<b>教室</b>	看院講
<b>第6回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	老年期の健康とヘルスプロモーション
	<b>教室</b>	看院講
<b>第7回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	老年期における身体的健康課題
	<b>教室</b>	看院講
<b>第8回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	老年期における心理的健康課題
	<b>教室</b>	看院講
<b>第9回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	老年期における社会的健康課題
	<b>教室</b>	看院講
<b>第10回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	フレイルハイリスク集団（生活習慣病）における健康課題
	<b>教室</b>	看院講
<b>第11回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	フレイルハイリスク集団（脳神経疾患）における健康課題
	<b>教室</b>	看院講
<b>第12回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	フレイルハイリスク集団（運動器疾患）における健康課題
	<b>教室</b>	看院講
<b>第13回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	疫学や老年医学・看護学に関わる研究者の歴史と科学の成り立ち①
	<b>教室</b>	看院講
<b>第14回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	疫学や老年医学・看護学に関わる研究者の歴史と科学の成り立ち②
	<b>教室</b>	看院講
<b>第15回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	まとめ
	<b>教室</b>	看院講

#### 授業形式・授業形態

講義に加えて、学生によるプレゼンテーションと討議形式で行う。提示された課題から学生が自ら文献検討や臨床経験を踏まえてプレゼンテーションし、討議する。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

①形成的評価：プレゼンテーション50%  
＜プレゼンテーション基準＞ 1)フレイルケアにかかる研究の現状と課題を的確にとらえているか、 2)自分の考えを的確に論理的に表現しているか 3)資料の構成がわかりやすいか  
②態度評価：討議への参加状況（50%）により評価する。討議への主体的参加と、課題発見力や問題解決能力に関連した発言を重要視する。

**テキスト（教科書等）**

随時紹介する。

**参考文献等**

随時紹介する。

**オフィスアワー(授業相談)**

電話、メール等で事前にアポイント を取ること。

**学生へのメッセージ**

履修を希望する大学院生は、必ず受講登録前に研究室までいらしてください。

講義コード	5431312
講義名	フレイルケア看護学演習A
Lecture name	博士前期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	荻田 美穂子	臨床看護学講座

対象学科／学年

学科	学年
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域高齢者看護学部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域高齢者看護学部門	
大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生	
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門フレイルケア看護学領域 ～ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程生涯発達看護実践科学部門フレイルケア看護学領域	

### 学修目標(到達目標)

1. 老年看護学分野における国内外の論文の検索ができる。
2. 老年看護学分野の先行研究レビューを通じて、これまでのエビデンスの集積状況や当該分野で用いられている研究手法を理解できる。
3. 老年看護学分野の先行研究レビューを通じて、今後の臨床課題および研究課題を思考できる。
4. 自身の研究テーマに関する論文をクリティークし、研究課題や研究方法について議論できる。

**授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)**

高齢者が陥りやすい健康障害に関する国内外の文献レビューを通して、在宅・病院・施設における高齢者看護実践のあり様を探求し、自身の研究課題を見出す。また、文献検索や文献レビューを繰り返すことにより、論文の精読・クリティーク能力を高める。各自関心のある文献（英文誌）を講読し、内容の要約やクリティーク内容についてプレゼンテーション・ディスカッションを行う形式で進める。事前の資料準備・疑問点を持って授業に備えることが求められる。科目責任者が行う研究の概要や成り立ち、成果を研究室の研究活動を通じて知る中で、自身の研究課題を見出すことに役立てる。

**授業内容**

- 第1回 老年看護学分野における文献検索と文献クリティーク・レビューの方法
- 第2回 身体的フレイルに関連する先行研究レビュー
- 第3回 精神的フレイルに関連する先行研究レビュー
- 第4回 社会的フレイルに関連する先行研究レビュー
- 第5回 老年症候群（歩行障害・転倒）の予防およびケアに関する先行研究レビュー
- 第6回 老年症候群（嚥下障害）の予防およびケアに関する先行研究レビュー
- 第7回 老年症候群（排泄障害）の予防およびケアに関する先行研究レビュー
- 第8回 老年症候群（皮膚障害）の予防およびケアに関する先行研究レビュー
- 第9回 老年症候群（認知障害）の予防およびケアに関する先行研究レビュー
- 第10回 フレイルハイリスク集団（生活習慣病）に対する療養支援に関わる先行研究レビュー
- 第11回 フレイルハイリスク集団（脳神経疾患）に対する療養支援に関わる先行研究レビュー
- 第12回 フレイルハイリスク集団（運動器疾患）に対する療養支援に関わる先行研究レビュー
- 第13回 各自の研究課題に関連した先行研究のクリティーク①
- 第14回 各自の研究課題に関連した先行研究のクリティーク②
- 第15回 各自の研究課題に関連した先行研究のクリティーク：まとめ

**授業計画表**

第1回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	老年看護学分野における文献検索と文献クリティーク・レビューの方法
	教室	
第2回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	身体的フレイルに関連する先行研究レビュー
	教室	
第3回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	精神的フレイルに関連する先行研究レビュー
	教室	
第4回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	社会的フレイルに関連する先行研究レビュー

	<b>教室</b>	
<b>第5回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	老年症候群（歩行障害・転倒）の予防およびケアに関する先行研究レビュー
	<b>教室</b>	
<b>第6回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	老年症候群（嚥下障害）の予防およびケアに関する先行研究レビュー
	<b>教室</b>	
<b>第7回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	老年症候群（排泄障害）の予防およびケアに関する先行研究レビュー
	<b>教室</b>	
<b>第8回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	老年症候群（皮膚障害）の予防およびケアに関する先行研究レビュー
	<b>教室</b>	看院講
<b>第9回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	老年症候群（認知障害）の予防およびケアに関する先行研究レビュー
	<b>教室</b>	
<b>第10回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	フレイルハイリスク集団（生活習慣病）に対する療養支援に関わる先行研究レビュー
	<b>教室</b>	
<b>第11回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	フレイルハイリスク集団（脳神経疾患）に対する療養支援に関わる先行研究レビュー
	<b>教室</b>	
<b>第12回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	フレイルハイリスク集団（運動器疾患）に対する療養支援に関わる先行研究レビュー
	<b>教室</b>	
<b>第13回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子

	<b>項目</b>	各自の研究課題に関連した先行研究のクリティーク①
	<b>教室</b>	
<b>第14回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	各自の研究課題に関連した先行研究のクリティーク②
	<b>教室</b>	
<b>第15回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	各自の研究課題に関連した先行研究のクリティーク：まとめ
	<b>教室</b>	

### 授業形式・授業形態

講義に加えて、学生によるプレゼンテーションと討議形式で行う。各学生の研究テーマや老年看護学分野の関心事項を含めて、用意されたプログラムの中から学生が自ら文献検討や臨床経験を踏まえてプレゼンテーションし、討議する。ゼミ形式で進め、個別指導・相談も行う。基本的には学生の主体的な運営も学習体験と位置付け、学生の必要性和経験に応じて教育計画を部分的に強化する。

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

①形成的評価：プレゼンテーション50%

<プレゼンテーション基準> 1)フレイルケア系の論文の精読ができているか、2) 自身の研究課題に関する研究を概観し、課題を的確にとらえているか、3)自身研究課題が明確化できているか、4)自分の考えを論理的に表現しているか、5)各回での資料の構成がわかりやすいか

②態度評価：討議への参加状況（50%）により評価する。討議への主体的参加と、課題発見力や問題解決能力に関連した発言を重要視する。

### テキスト（教科書等）

随時紹介する。

### 参考文献等

随時紹介する。

### オフィスアワー(授業相談)

毎週水曜日の 12:00～13:00。電話、メール等で事前にアポイント を取ること。

### 学生へのメッセージ

履修を希望する大学院生は、必ず受講登録前に研究室までいらしてください。

講義コード	5431321
講義名	老年看護学演習B
Lecture name	修士
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	荻田 美穂子	臨床看護学講座

対象学科／学年

学科	学年
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域高齢者看護学部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域高齢者看護学部門	
大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生	

### 学修目標(到達目標)

1. 老年看護学分野における国内外の研究動向分析のもと、自身の研究課題の焦点を絞り、自身の研究の位置付けを明らかにできる。
2. 老年看護学分野の研究課題と研究方法を具体化させるプロセスが分かる。
3. 老年看護学分野で扱う尺度や評価指標を学習し、自身の研究計画で用いる方法が分かる。
4. 自身の研究テーマに関して、文献検討・研究計画立案・倫理申請書作成までの一連の研究プロセスをゼミ内で発表・議論し、研究を効果的に進めるための方法を修得する。
5. 授業参加を通じて、プレゼンテーション能力及び議論する力の向上を図る。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

老年看護学分野の国内外の研究動向分析を行い、高齢者の健康寿命の延命を目的としたケア提供につながる自身の研究課題の決定を目指す。また、決定した研究課題遂行のための調査方法や解析手法を考え、研究計画書作成を行う（最低1課題に取り組むこと）。科目責任者が行う研究の概要や成り立ち、成果を研究室の研究活動を通じて知る中で、自身の研究計画立案や調査、分析に役立てる。一連の研究計画プロセスにおいて、多領域からなる専門家との意見交換を通じて、多様な研究的視点を理解し、研究のブラッシュアップを図る。

### 授業内容

- 第1回 老年看護学分野の研究の動向分析：発表と議論①
- 第2回 老年看護学分野の研究の動向分析：発表と議論②
- 第3回 自身の研究課題の明確化：発表と議論①
- 第4回 自身の研究課題の明確化：発表と議論②
- 第5回 研究計画書：発表と議論①
- 第6回 研究計画書：発表と議論②
- 第7回 研究計画書修正：発表と議論①
- 第8回 研究計画書修正：発表と議論②
- 第9回 老年看護学分野でよく取り扱うデータベース作成法の演習①
- 第10回 老年看護学分野でよく取り扱うデータベース作成法の演習②
- 第11回 老年看護学分野でよく取り扱うデータ解析法の演習①
- 第12回 老年看護学分野でよく取り扱うデータ解析法の演習②
- 第13回 倫理委員会申請書作成法①
- 第14回 倫理委員会申請書作成法②
- 第15回 研究成果報告のためのプレゼンテーション法

### 授業計画表

第1回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	老年看護学分野の研究の動向分析：発表と議論①
第2回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	老年看護学分野の研究の動向分析：発表と議論②
第3回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	自身の研究課題の明確化：発表と議論①
第4回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	自身の研究課題の明確化：発表と議論②
第5回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	研究計画書：発表と議論①
第6回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	研究計画書：発表と議論②
第7回	担当教員	荻田 美穂子 漆谷 真
	項目	研究計画書修正：発表と議論①

第8回

	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子 漆谷 真
	<b>項目</b>	研究計画書修正：発表と議論②
<b>第9回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	老年看護学分野でよく取り扱うデータベース作成法の演習①
<b>第10回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	老年看護学分野でよく取り扱うデータベース作成法の演習②
<b>第11回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	老年看護学分野でよく取り扱うデータ解析法の演習①
<b>第12回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	老年看護学分野でよく取り扱うデータ解析法の演習②
<b>第13回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	倫理委員会申請書作成法①
<b>第14回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	倫理委員会申請書作成法②
<b>第15回</b>	<b>担当教員</b>	荻田 美穂子
	<b>項目</b>	研究成果報告のためのプレゼンテーション法

### 授業形式・授業形態

基本的には学生によるプレゼンテーションと討議形式で行う。第9-15回は一部講義を含む。各学生の研究テーマや老年看護学分野の関心事項を含めて、用意されたプログラムの中から学生が自ら文献検討や臨床経験を踏まえてプレゼンテーションし、討議する。討議には、他分野の専門家も参加し、多様な高齢者像・老化の病態の理解や研究の視点を深める機会とする。ゼミ形式で進め、個別指導・相談も行う。基本的には学生の主体的な運営も学習体験と位置付け、学生の必要性和経験に応じて教育計画を部分的に強化する。

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

①形成的評価：プレゼンテーション50%

〈プレゼンテーション基準〉 1)研究分野の先行研究を的確にとらえているか、 2)研究課題が明確化できているか、 3)研究目的を明らかにするための研究方法が検討できているか、 4)自分の考えを論理的に表現しているか、 5)各回での資料の構成がわかりやすいか

②態度評価：討議への参加状況（50%）により評価する。討議への主体的参加と、課題発見力や問題解決能力に関連した発言を重要視する。

### テキスト（教科書等）

随時紹介する。

### 参考文献等

随時紹介する。

### オフィスアワー(授業相談)

毎週水曜日の 12:00～13:00。電話、メール等で事前にアポイント を取ること。

**学生へのメッセージ**

履修を希望する大学院生は、必ず受講登録前に研究室までいらしてください。

講義コード	5431701	
講義名	看護病態管理学 1 特論	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
がん・腫瘍に関する発生・進展機構、生体の防御反応に関連した最新の知見を学び、診断、治療、予防に関する研究の動向を探る。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
看護学を研究・実践する上で必要となる腫瘍学、腫瘍病理学、腫瘍免疫学、腫瘍診断学、腫瘍治療学等についての理解を深める。		
<b>授業内容</b>		
がん・腫瘍に関する基礎知識と最新の話題を提供する。 総論は、講義。 各論は、院生によるプレゼンテーションを主体とする。		
<b>授業計画表</b>		
<b>授業形式・授業形態</b>		
講義では出来る限り資料配付を心掛けている。 視聴覚機器：スライド、ビデオ、コンピューター液晶プロジェクターの活用		
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>		
出席(20%)とプレゼンテーション(50%)、討論への参加態度(30%)により総合的に評価する。		
<b>学生へのメッセージ</b>		

大学院生の主体的な参加を望む。

講義コード	5431711							
講義名	看護病態管理学 1 演習A							
Lecture name	博士前期							
代表ナンバリングコード								
講義開講時期	後期							
講義区分	演習							
基準単位数	1							
時間	30.00							
代表曜日								
代表時限								
ナンバリングコード								
<table border="1"> <tr> <td>所属名称</td> <td colspan="2">ナンバリングコード</td> </tr> </table>			所属名称	ナンバリングコード				
所属名称	ナンバリングコード							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教授</td> <td>喜多 伸幸</td> <td>臨床看護学講座</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座
職種	氏名	所属						
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座						
<b>学修目標(到達目標)</b> 成人看護における課題のうち、がん看護、周術期看護、緩和ケア、クリティカルケアなどを中心に学習し、それらを題材とし、自らの研究に適した研究テーマおよび方法論等を探る。								
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b> 成人看護における課題のうち、がん看護、周術期看護、緩和ケア、クリティカルケアなどを中心に、その診断と治療、予防に関連した最新の知見を学び、研究の動向を探る。								
<b>授業内容</b> 成人看護における課題のうち、がん看護、周術期看護、緩和ケア、クリティカルケアなどを中心に、それらを題材とした研究テーマおよび方法論等につき検討する。								
<b>授業計画表</b>								
<b>授業形式・授業形態</b> 演習								
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b> 出席(20%)とプレゼンテーション(50%)、討論への参加態度(30%)により総合的に評価する。								
<b>学生へのメッセージ</b> 大学院生の主体的な参加を望む。								

講義コード	5431720	
講義名	臨床病態管理学演習B	
Lecture name	修士	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
成人看護における課題のうち、がん看護、周術期看護、緩和ケア、クリティカルケアなどを中心に学習し、それらを題材とし、自らの研究に適した研究テーマおよび方法論等を探る。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
成人看護における課題のうち、がん看護、周術期看護、緩和ケア、クリティカルケアなどを中心に、その診断と治療、予防に関連した最新の知見を学び、研究の動向を探る。		
<b>授業内容</b>		
成人看護における課題のうち、がん看護、周術期看護、緩和ケア、クリティカルケアなどを中心に、それらを題材とした研究テーマおよび方法論等につき検討する。		
<b>授業計画表</b>		
<b>授業形式・授業形態</b>		
演習		
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>		
出席(20%)とプレゼンテーション(50%)、討論への参加態度(30%)により総合的に評価する。		
<b>学生へのメッセージ</b>		
大学院生の主体的な参加を望む。		

講義コード	5430301	
講義名	看護病態管理学 2 特論	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門		
大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生		
<b>学修目標(到達目標)</b>		
臨床栄養に関する研究を実践するために必要な栄養アセスメント、栄養管理法、病態別の栄養療法について理解を深める。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
栄養学を学び、臨床研究を実施するのに必要な知識とスキルを習得する。		
<b>授業内容</b>		
以下の項目について、講義と院生によるプレゼンテーションをおこなう		

- 1 栄養アセスメント手法
- 2 経腸栄養法（胃瘻管理を含む）
- 3 静脈栄養法
- 4 病態別栄養療法

#### **授業計画表**

#### **授業形式・授業形態**

講義

#### **成績評価方法（成績評価基準を含む）**

受講態度と課題レポートで評価する。

#### **オフィスアワー(授業相談)**

毎週金曜日の12:00～13:00、電話、メールなどで事前に主担当教員にアポイントを取ること。

#### **学生へのメッセージ**

必ず出席をしてください。万が一、欠席される際には事前に必ずWebClassより欠席の連絡を入れてください。

講義コード	5430311	
講義名	看護病態管理学 2 演習A	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅲ部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅲ部門		
大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生		
<b>学修目標(到達目標)</b>		
演習を通じて、栄養代謝状態を評価する手法について学習する。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
栄養評価法に関する知識とスキルを習得する。		
<b>授業内容</b>		
インピーダンス法による高精度体組成分析や、間接熱量測定による栄養代謝病態の評価について学習する。		
<b>授業計画表</b>		

<b>授業形式・授業形態</b>
演習
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
受講態度と課題レポートで評価します。
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
毎週金曜日の12:00～13:00、電話、メールなどで事前に主担当教員にアポイントを取ること。
<b>学生へのメッセージ</b>
必ず出席をしてください。万が一、欠席される際には事前に必ずWebClassより欠席の連絡を入れてください。

講義コード	5430320		
講義名	基礎看護学Ⅲ演習B		
Lecture name	修士		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期		
講義区分	演習		
基準単位数	1		
時間	30.00		
代表曜日			
代表時限			
ナンバリングコード			
所属名称		ナンバリングコード	
担当教員			
職種	氏名	所属	
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座	
対象学科／学年			
学科			学年
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅲ部門～大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅲ部門			
大学院医学系研究科研究生～大学院医学系研究科研究生			
<b>学修目標(到達目標)</b>			
演習を通じて、経腸栄養法や静脈栄養法について学習する。			
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>			
経腸栄養法や静脈栄養法に関する知識とスキルを習得する。			
<b>授業内容</b>			
1. 胃瘻管理や経鼻経管栄養法について学習する。			
2. 中心静脈栄養法や末梢静脈栄養法について学習する。			
<b>授業計画表</b>			

<b>授業形式・授業形態</b>
演習
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
受講態度と課題レポートで評価します。
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
毎週金曜日の12:00～13:00、電話、メールなどで事前に主担当教員にアポイントを取ること。
<b>学生へのメッセージ</b>
必ず出席をしてください。万が一、欠席される際には事前に必ずWebClassより欠席の連絡を入れてください。

講義コード	5430201	
講義名	基盤医科学特論	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	相見 良成	基礎看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
人体の構造について、主に顕微鏡レベルの観察を行って理解を深める学問領域を組織学という。本特論では組織学のうちの総論的な部分について学ぶ。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
はじめに細胞生物学を学び、さらに四大組織について順次講義を行う。		
<b>授業内容</b>		
1. 細胞生物学 2. 上皮組織 3. 支持組織 4. 筋組織 5. 神経組織		
<b>授業計画表</b>		
<b>授業形式・授業形態</b>		
集中講義		
<b>成績評価方法(成績評価基準を含む)</b>		
受講態度、レポート、試問などにより総合的に評価する。		
<b>テキスト(教科書等)</b>		

教科書は指定しない。講義は主にハンドアウトとスライドを用いて行う。

**オフィスアワー(授業相談)**

随時受け付けます。まずはメールで [aimi@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:aimi@belle.shiga-med.ac.jp) まで。

**学生へのメッセージ**

医療の現場で人を理解する際に、マクロの視点のみならず、ミクロの視点（細胞組織学的視点）で人を捉えることが不可欠です。この講義がより深い人体の理解に繋がることを期待します。

講義コード	5430211	
講義名	基盤医科学演習A	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	相見 良成	基礎看護学講座
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅱ部門～大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅱ部門		
大学院医学系研究科研究生～大学院医学系研究科研究生		
<b>学修目標(到達目標)</b>		
本演習では、実習を通じて顕微鏡レベルでの人体の構造について学ぶ。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
様々な臓器の組織標本を用い、微細構造を観察する。組織標本の作成を経験することにより、組織観察の本質と限界を知る。		
<b>授業内容</b>		
1. ヒトおよび実験動物の組織標本の観察 2. 一般染色と組織化学染色の顕微鏡標本の作製を行う。		
<b>授業計画表</b>		

<b>授業形式・授業形態</b>
------------------

演習
----

<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
--------------------------

受講態度、レポート、試問などにより総合的に評価する。
----------------------------

講義コード	5430220	
講義名	基礎看護学Ⅱ演習B	
Lecture name	修士	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	相見 良成	基礎看護学講座
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅱ部門～大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅱ部門		
大学院医学系研究科研究生～大学院医学系研究科研究生		
<b>学修目標(到達目標)</b>		
本演習では、人体の構造について肉眼レベルでの観察を行い、主に運動器についての機能解剖学的な理解を深める。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
模型、骨標本および系統解剖体の観察を行う。		
<b>授業内容</b>		
1. ヒト分離骨格標本、交連骨格標本の観察 2. 解剖見学実習における解剖体の観察		
<b>授業計画表</b>		

<b>授業形式・授業形態</b>
演習
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
受講態度、レポート、試問などにより総合的に評価する。
<b>テキスト（教科書等）</b>
教科書は指定しない。
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
随時受け付けます。まずはメールで <a href="mailto:aimi@belle.shiga-med.ac.jp">aimi@belle.shiga-med.ac.jp</a> まで。
<b>学生へのメッセージ</b>
教科書からの知識や臨床の場での経験を振り返り、整理し、再構築する機会としてください。

講義コード	5430101	
講義名	基盤看護学特論	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	笠原 聡子	基礎看護学講座
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門～大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門		
大学院医学系研究科研究生～大学院医学系研究科研究生		
<b>学修目標(到達目標)</b>		
1. 基礎看護学領域（実践・教育・管理など）の研究を実践するために必要な諸理論について説明できる。 2. 各領域に関連した研究動向について説明できる。 3. 各領域における現状と課題について説明できる。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
【教育目的】 基礎看護学領域（実践・教育・管理など）の研究を実践するために必要な諸理論について理解を深め、各領域に関連した国内外における最新の知見を学び、研究の動向を探る。		

【準備学修・事後学修】

各回講義のトピックについて主体的に調べるなど予習・復習し、疑問を持って授業に備えることが求められる。（各回所要時間：1時間程度）

**授業内容**

授業内容は授業計画表に沿って進めるが、受講生の関心領域等により若干変更する場合がある。

**授業計画表**

第1回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	ガイダンス
	内容	科目の概要および第2回以降の内容について説明する
第2回	担当 教員	山下 敬
	項目	看護ケア実践①
	内容	領域のゼミナールに参加し看護ケア実践に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第3回	担当 教員	山下 敬
	項目	看護ケア実践②
	内容	領域のゼミナールに参加し看護ケア実践に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第4回	担当 教員	山下 敬
	項目	看護ケア実践③
	内容	領域のゼミナールに参加し看護ケア実践に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第5回	担当 教員	玉木 朋子
	項目	看護基礎教育①
	内容	領域のゼミナールに参加し看護基礎教育に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第6回	担当 教員	玉木 朋子
	項目	看護基礎教育②
	内容	領域のゼミナールに参加し看護基礎教育に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第7回	担当 教員	玉木 朋子

	<b>項目</b>	看護基礎教育③
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加し看護基礎教育に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第8回</b>	<b>担当 教員</b>	玉木 朋子
	<b>項目</b>	看護継続教育①
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加し看護継続教育に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第9回</b>	<b>担当 教員</b>	玉木 朋子
	<b>項目</b>	看護継続教育②
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加し看護継続教育に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第10回</b>	<b>担当 教員</b>	玉木 朋子
	<b>項目</b>	看護継続教育③
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加し看護継続教育に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第11回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護管理①
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加し看護管理に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第12回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護管理②
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加し看護管理に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第13回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護安全管理①
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加し看護安全管理に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第14回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護安全管理②
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加し看護安全管理に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。

第15回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	看護情報管理
	内容	領域のゼミナールに参加し看護情報管理に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。

### 授業形式・授業形態

#### 【授業形式】

テキストおよび国内学の文献レビュー形式。

受講生は各テーマについて文献レビューの上、プレゼンテーションを行う。

原則対面での講義形式（zoom等でのオンライン講義も含む）

#### 【授業形態】

- ・スライド等を使用

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

#### ①総括的評価

- ・プレゼンテーション（50%）
- ・平常点（50%）：毎回の授業ごとの発言やコメント

上記について到達目標の達成度に基づき評価し、合計が60%以上を合格とする。

#### ②形成的評価

- ・毎回の授業ごとの発言やコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

#### ③態度評価

・授業での発言や課題へ取り組む姿勢から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

### テキスト（教科書等）

講義の中で随時紹介する。

### オフィスアワー(授業相談)

随時対応するが、電話やメール等で事前にアポイントを取ること。

### 学生へのメッセージ

課題学修および討論等、授業への積極的な参加を求める。

### 授業用E-mail

[kasahara@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:kasahara@belle.shiga-med.ac.jp)

### 参考E-mail 1

[tamaki@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:tamaki@belle.shiga-med.ac.jp)

### 参考E-mail 2

[satoshi7@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:satoshi7@belle.shiga-med.ac.jp)

講義コード	5430111	
講義名	基盤看護学演習A	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	笠原 聡子	基礎看護学講座
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門～大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門		
大学院医学系研究科研究生～大学院医学系研究科研究生		
<b>学修目標(到達目標)</b>		
1. 基礎看護学領域（実践・教育・管理など）の研究課題について説明できる。 2. 各領域に関連した研究課題を解決するための適切な研究方法について説明できる。 3. 各領域に関連した研究論文を批判的に吟味し説明できる。 4. 自身の研究課題および研究方法について探求し、意見を述べることができる。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
【教育目的】 基礎看護学領域（実践・教育・管理など）の国内外の先行研究レビューやクリティックをもとに討論することで、課題解決のために用いられている多様な研究方法についての理解を深め		

る。そのうえで、受講者自身の研究課題および研究方法について探究する。

【準備学修・事後学修】

各回講義のトピックについて主体的に調べるなど予習・復習し、疑問を持って授業に備えることが求められる。（各回所要時間：1時間程度）

### 授業内容

授業内容は授業計画表に沿って進めるが、受講生の関心領域等により若干変更する場合がある。

### 授業計画表

第1回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	ガイダンス
	内容	科目の概要および第2回以降の内容について説明する
第2回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	項目	基礎看護学領域の研究①
	内容	領域全体のゼミナールに参加し基礎看護学領域の研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第3回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	項目	基礎看護学領域の研究②
	内容	領域全体のゼミナールに参加し基礎看護学領域の研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第4回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	項目	基礎看護学領域の研究における分析方法①
	内容	領域全体のゼミナールに参加し基礎看護学領域の研究における分析方法について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第5回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	項目	基礎看護学領域の研究における分析方法②
	内容	領域全体のゼミナールに参加し基礎看護学領域の研究における分析方法について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第6回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬

	<b>項目</b>	基礎看護学領域の先行研究のレビュー①
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し基礎看護学領域の先行研究レビューについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第7回	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	<b>項目</b>	基礎看護学領域の先行研究のレビュー②
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し基礎看護学領域の先行研究レビューについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第8回	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	<b>項目</b>	基礎看護学領域の先行研究のクリティーク①
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し基礎看護学領域の先行研究クリティークについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第9回	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	<b>項目</b>	基礎看護学領域の先行研究のクリティーク②
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し基礎看護学領域の先行研究クリティークについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第10回	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	<b>項目</b>	自身の研究課題に関連した先行研究のレビュー①
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究レビューについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第11回	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	<b>項目</b>	自身の研究課題に関連した先行研究のレビュー②
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究レビューについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第12回	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	<b>項目</b>	自身の研究課題に関連した先行研究のレビュー③
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究レビューについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。

第13回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	項目	自身の研究課題に関連した先行研究のクリティーク①
	内容	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究クリティークについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第14回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	項目	自身の研究課題に関連した先行研究のクリティーク②
	内容	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究クリティークについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第15回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	項目	自身の研究課題に関連した先行研究のクリティーク③
	内容	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究クリティークについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。

#### 授業形式・授業形態

##### 【授業形式】

テキストおよび国内学の文献レビュー形式。

受講生は各テーマについて文献レビューの上、プレゼンテーションを行う。

原則対面での講義形式（zoom等でのオンライン講義も含む）

##### 【授業形態】

- ・スライド等を使用

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

##### ①総括的評価

- ・プレゼンテーション（50%）
- ・平常点（50%）：毎回の授業ごとの発言やコメント

上記について到達目標の達成度に基づき評価し、合計が60%以上を合格とする。

##### ②形成的評価

- ・毎回の授業ごとの発言やコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

##### ③態度評価

・授業での発言や課題へ取り組む姿勢から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

#### テキスト（教科書等）

講義の中で随時紹介する。

#### オフィスアワー(授業相談)

随時対応するが、電話やメール等で事前にアポイントを取ること。

**学生へのメッセージ**

課題学習および討論等、授業への積極的な参加を求める。

**授業用E-mail**

[kasahara@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:kasahara@belle.shiga-med.ac.jp)

**参考E-mail 1**

[tamaki@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:tamaki@belle.shiga-med.ac.jp)

**参考E-mail 2**

[satoshi7@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:satoshi7@belle.shiga-med.ac.jp)

講義コード	5430120	
講義名	基礎看護学Ⅰ演習B	
Lecture name	修士	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	笠原 聡子	基礎看護学講座
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門～大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門		
大学院医学系研究科研究生～大学院医学系研究科研究生		
<b>学修目標(到達目標)</b>		
1. 基礎看護学領域（実践・教育・管理など）の研究方法について説明できる。 2. 研究を行う際の効果的な手法や留意点について説明できる。 3. 自身の研究課題における研究計画と遂行に関する意見を述べることができる。 4. 論文執筆の際の報告すべき項目と留意点について説明できる。 5. 自身の分析手法に関連した実験機器や解析ソフトについて説明できる。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
【教育目的】 基礎看護学領域（実践・教育・管理など）の国内外の先行研究レビューやクリティックをもと		

に討論することで、課題解決のために用いられている研究方法についての理解を深める。そのうえで、受講者自身の研究計画の立案と遂行に必要な知識を修得する。さらに、研究報告の際に含まれるべき情報や論文執筆における留意点についての理解も深める。また、自身の分析手法に関連した実験機器や解析ソフトの選定と使用方法についても検討する。

【準備学修・事後学修】

各回講義のトピックについて主体的に調べるなど予習・復習することが望まれる。（各回所要時間：1時間程度）

**授業内容**

授業内容は授業計画表に沿って進めるが、受講生の関心領域等により若干変更する場合がある。

**授業計画表**

第1回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	ガイダンス
	内容	科目の概要および第2回以降の内容について説明する。
第2回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	項目	基礎看護学領域の研究方法
	内容	領域全体のゼミナールに参加し基礎看護学領域の研究方法について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第3回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	項目	基礎看護学領域の研究における分析方法
	内容	領域全体のゼミナールに参加し基礎看護学領域の研究における分析方法について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第4回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	項目	基礎看護学領域の先行研究のレビュー
	内容	領域全体のゼミナールに参加し基礎看護学領域の先行研究レビューについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第5回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	項目	基礎看護学領域の先行研究のクリティーク
	内容	領域全体のゼミナールに参加し基礎看護学領域の先行研究クリティークについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。

第6回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	項目	自身の研究課題に関連した先行研究のレビュー①
	内容	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究レビューについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第7回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	項目	自身の研究課題に関連した先行研究のレビュー②
	内容	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究レビューについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第8回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	項目	自身の研究課題に関連した先行研究のクリティーク①
	内容	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究クリティークについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第9回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	項目	自身の研究課題に関連した先行研究のクリティーク②
	内容	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究クリティークについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第10回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	項目	自身の研究デザインに関連した研究報告ガイドライン①
	内容	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究デザインに関連した研究報告ガイドラインについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第11回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	項目	自身の研究デザインに関連した研究報告ガイドライン②
	内容	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究デザインに関連した研究報告ガイドラインについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第12回	担当 教員	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬

	<b>項目</b>	自身の研究デザインに関連した研究報告ガイドラインに基づいた研究計画・論文執筆の留意点①
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究デザインに関連した研究報告ガイドラインに基づいた研究計画・論文執筆の留意点について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第13回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	<b>項目</b>	自身の研究デザインに関連した研究報告ガイドラインに基づいた研究計画・論文執筆の留意点②
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究デザインに関連した研究報告ガイドラインに基づいた研究計画・論文執筆の留意点について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第14回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	<b>項目</b>	自身の分析手法に関連した実験機器や解析ソフトとデータ分析の検討①
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の分析手法に関連した実験機器や解析ソフトとデータ分析の検討について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第15回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子 玉木 朋子 山下 敬
	<b>項目</b>	自身の分析手法に関連した実験機器や解析ソフトとデータ分析の検討②
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の分析手法に関連した実験機器や解析ソフトとデータ分析の検討について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。

### 授業形式・授業形態

#### 【授業形式】

テキストおよび国内学の文献レビュー形式。

受講生は各テーマについて文献レビューの上、プレゼンテーションを行う。

原則対面での講義形式（zoom等でのオンライン講義も含む）

#### 【授業形態】

- ・スライド等を使用

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

#### ①総括的評価

- ・プレゼンテーション（50%）
- ・平常点（50%）：毎回の授業ごとの発言やコメント

上記について到達目標の達成度に基づき評価し、合計が60%以上を合格とする。

②形成的評価

・毎回の授業ごとの発言やコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

③態度評価

・授業での発言や課題へ取り組む姿勢から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

**テキスト（教科書等）**

講義の中で随時紹介する。

**オフィスアワー(授業相談)**

随時対応するが、電話やメール等で事前にアポイントを取ること。

**学生へのメッセージ**

課題学習および討論等、授業への積極的な参加を求める。

**授業用E-mail**

[kasahara@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:kasahara@belle.shiga-med.ac.jp)

**参考E-mail 1**

[tamaki@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:tamaki@belle.shiga-med.ac.jp)

**参考E-mail 2**

[satoshi7@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:satoshi7@belle.shiga-med.ac.jp)

講義コード	5432101	
講義名	ヘルスプロモーション看護学特論	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	伊藤 美樹子	公衆衛生看護学講座
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学 I 部門		
大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生		
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<p>1.健康の社会的な構築や健康の社会的決定要因など、地域看護学に関わる基本的概念を理解する。</p> <p>2.公衆衛生に関わる現象や課題について、クリティカルに分析する能力を獲得する。</p>		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
<p>近年社会構造の変化に伴い人々を取り巻く社会環境に格差が生じ、その健康への影響が明らかになってきました。本講座では、経済格差の広がる現代において公衆衛生の専門職の責務である「健康の保持増進の公正な機会」を保障する上で必要な能力のさらなる向上を目指します。</p>		

**授業内容**

個人・家族、グループ・組織、コミュニティレベルの相互の関係について理解し介入の影響や課題を理解できるよう事例や先行研究を用いた検討を行います。

**授業計画表**

## 地域看護学I特論

第1回	項目	保健医療サービスの質を評価する理論
	内容	ドナベディアン・モデル
第2回	項目	公衆衛生倫理1
	内容	理論的背景
第3回	項目	公衆衛生倫理2
	内容	事例検討と理論的吟味
第4回	項目	公衆衛生倫理3
	内容	事例検討と理論的吟味
第5回	項目	健康問題や現象の解釈の視点 (Critical perspectives) 1
	内容	自身の研究のパラダイムとリサーチクエスチョンが依拠する立場の理解、相対化
第6回	項目	健康問題や現象の解釈の視点 (Critical perspectives) 2
	内容	自身の研究のパラダイムとリサーチクエスチョンが依拠する立場の理解、相対化
第7回	項目	研究の対象とする現象の捉え方と評価1
	内容	プレゼンテーションと討論
第8回	項目	研究の対象とする現象の捉え方と評価2
	内容	プレゼンテーションと討論
第9回	項目	研究の対象とする現象の捉え方と評価3

	内容	プレゼンテーションと討論
第10回	項目	保健医療サービスの質評価に関する方法論的吟味1
	内容	プレゼンテーションと討議
第11回	項目	保健医療サービスの質評価に関する方法論的吟味2
	内容	プレゼンテーションと討議
第12回	項目	保健医療サービスの質評価に関する方法論的吟味3
	内容	プレゼンテーションと討議
第13回	項目	臨床と研究の往還：研究成果は誰のものか1
	内容	プレゼンテーションと討論
第14回	項目	臨床と研究の往還：研究成果は誰のものか2
	内容	プレゼンテーションと討論
第15回	項目	臨床と研究の往還：研究成果は誰のものか3
	内容	プレゼンテーションと討論

#### 授業形式・授業形態

気づきや思考が深められるよう討議を多用して進めます。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

資料の準備とプレゼンテーション（50%）、討議への参加(50%)により評価する。

#### オフィスアワー(授業相談)

履修や課題に関する個別相談は、随時行います。事前にメールにてアポイントを取ってください。

講義コード	5432111							
講義名	ヘルスプロモーション看護学演習A							
Lecture name	博士前期							
代表ナンバリングコード								
講義開講時期	後期							
講義区分	演習							
基準単位数	1							
時間	30.00							
代表曜日								
代表時限								
ナンバリングコード								
<table border="1"> <tr> <td>所属名称</td> <td>ナンバリングコード</td> </tr> </table>			所属名称	ナンバリングコード				
所属名称	ナンバリングコード							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教授</td> <td>伊藤 美樹子</td> <td>公衆衛生看護学講座</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教授	伊藤 美樹子	公衆衛生看護学講座
職種	氏名	所属						
教授	伊藤 美樹子	公衆衛生看護学講座						
対象学科/学年								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>学年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学院医学系研究科修士課程看護学専攻公衆衛生看護学領域公衆衛生看護学部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻公衆衛生看護学領域公衆衛生看護学部門</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			学科	学年	大学院医学系研究科修士課程看護学専攻公衆衛生看護学領域公衆衛生看護学部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻公衆衛生看護学領域公衆衛生看護学部門		大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生	
学科	学年							
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻公衆衛生看護学領域公衆衛生看護学部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻公衆衛生看護学領域公衆衛生看護学部門								
大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生								
<b>学修目標(到達目標)</b>								
<p>地域や特定集団の健康課題の特性および支援方法について、文献検討を系統的に行い、地域看護学領域における研究および実践への適用とあり方について探究する。</p> <p>自身の問題関心をリサーチクエスチョンとして整理するために必要な基本的知識と課題に取り組むために必要な方法論について検討することができる。</p>								
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>								
公衆衛生看護領域の国内外の文献を体系的に整理・分析することを通して、地域や特定集団の健康課題の特性に応じた支援方法について看護学的見地から理解することを目的とする。								
<b>授業内容</b>								

公衆衛生看護に関連した論文を講読し、プレゼンテーションを通して討論する。

- 1) 公衆衛生看護の対象特性やニーズの特徴を明らかにした論文
- 2) 公衆衛生看護の実践方法の解明や開発に関する論文
- 3) 地域ケア体制の構築に関する論文

## 授業計画表

### 地域看護学I特論

第1回	項目	地域医療と介護に関する課題の発見1
	内容	既存文献のクリティーク
第2回	項目	地域医療と介護に関する課題の発見2
	内容	既存文献のクリティーク
第3回	項目	地域医療と介護に関する課題の発見3
	内容	既存文献のクリティーク
第4回	項目	予防活動に関する課題の発見1
	内容	既存文献のクリティーク
第5回	項目	予防活動に関する課題の発見2
	内容	既存文献のクリティーク
第6回	項目	予防活動に関する課題の発見3
	内容	既存文献のクリティーク
第7回	項目	コミュニティの健康課題の解決の方策1
	内容	社会経済的背景と文化的背景の理解
第8回	項目	コミュニティの健康課題の解決の方策2
	内容	社会経済的背景と文化的背景の理解

### 第9回

	<b>項目</b>	コミュニティの健康課題の解決の方策3
	<b>内容</b>	コミュニティにとって受け入れ可能かつ魅力的で持続可能な方策や戦略に関する吟味
第10回	<b>項目</b>	コミュニティの健康課題の解決の方策4
	<b>内容</b>	コミュニティにとって受け入れ可能かつ魅力的で持続可能な方策や戦略に関する吟味
第11回	<b>項目</b>	健康政策とローカル・ガバナンス1
	<b>内容</b>	事例に基づく討議と問題関心の整理
第12回	<b>項目</b>	健康施策とローカル・ガバナンス2
	<b>内容</b>	事例に基づく討議と問題関心の整理,
第13回	<b>項目</b>	健康施策とローカル・ガバナンス3
	<b>内容</b>	事例に基づく討議と問題関心の整理
第14回	<b>項目</b>	健康施策とローカル・ガバナンス4
	<b>内容</b>	事例に基づく討議と問題関心の整理
第15回	<b>項目</b>	健康施策とローカル・ガバナンス5
	<b>内容</b>	資料の分析成果の発表と討論

#### 授業形式・授業形態

講座の定例研究会として実施する。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

プレゼンテーション(50%)、討論への参加度(50%)により評価する。

#### オフィスアワー(授業相談)

課題や履修に相談等は適宜対応します。なお、事前にeメールでアポイントをとってください。

講義コード	5432120											
講義名	地域看護学 I 演習B											
Lecture name	修士											
代表ナンバリングコード												
講義開講時期	前期											
講義区分	演習											
基準単位数	1											
時間	30.00											
代表曜日												
代表時限												
ナンバリングコード												
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;"><b>所属名称</b></td> <td colspan="3"><b>ナンバリングコード</b></td> </tr> </table>				<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>							
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>											
担当教員												
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">職種</th> <th style="width: 40%;">氏名</th> <th style="width: 50%;">所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講師</td> <td>輿水 めぐみ</td> <td>公衆衛生看護学講座</td> </tr> <tr> <td>教授</td> <td>伊藤 美樹子</td> <td>公衆衛生看護学講座</td> </tr> </tbody> </table>				職種	氏名	所属	講師	輿水 めぐみ	公衆衛生看護学講座	教授	伊藤 美樹子	公衆衛生看護学講座
職種	氏名	所属										
講師	輿水 めぐみ	公衆衛生看護学講座										
教授	伊藤 美樹子	公衆衛生看護学講座										
対象学科／学年												
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 85%;">学科</th> <th style="width: 15%;">学年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学院医学系研究科修士課程看護学専攻公衆衛生看護学領域公衆衛生看護学部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻公衆衛生看護学領域公衆衛生看護学部門</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				学科	学年	大学院医学系研究科修士課程看護学専攻公衆衛生看護学領域公衆衛生看護学部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻公衆衛生看護学領域公衆衛生看護学部門		大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生				
学科	学年											
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻公衆衛生看護学領域公衆衛生看護学部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻公衆衛生看護学領域公衆衛生看護学部門												
大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生												
<b>学修目標(到達目標)</b>												
1) 公衆衛生における健康教育と保健行動について理解できる。 2) 保健行動・ヘルスプロモーションに関する基礎理論を理解できる。 3) 健康教育のアプローチについて理解できる。												
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>												
対象となる人々が健康課題に対して、知識の習得と理解・態度の変容・行動の変容を獲得するプロセスを学ぶ。												
<b>授業内容</b>												

1. 健康教育の理念
2. 知識の普及と態度および行動変容
3. 健康の自己管理能力に関する理論
4. 健康教育の方法とその評価
5. ヘルスプロモーションと社会的支援
6. コミュニティオーガナイズーション

### 授業計画表

第1回	項目	健康教育の理念
	内容	健康教育の目的、対象
第2回	項目	知識の普及と態度
	内容	保健医療の5段階と健康教育 日本における健康づくり施策と評価
第3回	項目	行動変容に関する理論
	内容	多理論統合モデル①
第4回	項目	行動変容に関する理論
	内容	多理論統合モデル② 理論の応用
第5回	項目	行動変容に関する理論
	内容	社会的認知理論①
第6回	項目	行動変容に関する理論
	内容	社会的認知理論② 理論の応用
第7回	項目	行動変容に関する理論
	内容	動機づけ面接法①
第8回	項目	行動変容に関する理論
	内容	動機づけ面接法② 理論の応用
第9回	項目	健康の自己管理能力に関する理論
	内容	セルフケア セルフマネジメント
第10回	項目	健康教育の方法とその評価
	内容	健康教育の目的と技術
第11回	項目	健康教育の方法とその評価
	内容	健康教育の展開過程と実際① 健康課題の抽出
第12回	項目	健康教育の方法とその評価
	内容	健康教育の展開過程と実際② 対象、方法の選定

第13回	項目	健康教育の方法とその評価
	内容	健康教育の展開過程と実際③ 実施
第14回	項目	健康教育の方法とその評価
	内容	健康教育の展開過程と実際④ 評価
第15回	項目	ヘルスプロモーションと社会的支援 コミュニティオーガナイゼーション
	内容	

#### 授業形式・授業形態

講義と演習

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

授業への参加度（20%）、レポート（80%）

#### テキスト（教科書等）

参考図書を必要時提示します。

#### オフィスアワー(授業相談)

相談等適宜対応します。事前に電話やメールでの時間調整をお願いします。

#### 学生へのメッセージ

積極的に議論に参加をしてください。

講義コード	5432201	
講義名	訪問看護学特論	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	辻村 真由子	公衆衛生看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<p>1 居宅や在宅移行期など、在宅療養に関わる様々な場や時期において在宅療養者と家族のニーズを満たすための看護実践のあり方について、自身の体験や文献の事例を踏まえて論述する。</p> <p>2 在宅医療・在宅ケアにかかわる重要な概念を理解できる。</p> <p>3 超高齢社会における地域包括ケアの充実に向けた日本の課題とその解決策について、海外の在宅ケアシステムの動向を踏まえて論述する。</p>		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
<p>在宅療養者と家族のニーズを満たすための看護実践のあり方について、自身の体験や文献の事例を踏まえて論述する。また、日本における在宅医療・在宅ケアおよび地域包括システムの現状を理解した上で、その課題と解決策について、海外の在宅ケアシステムの動向を踏まえて論述する。</p> <p>※各回の授業時までには授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解のうえで疑問を持って授業に備えることが求められる。</p>		
<b>授業内容</b>		
※受講生の進捗状況に応じて順序や内容を変更する可能性がある。		
<b>授業計画表</b>		
<b>第1回</b>		

	<b>項目</b>	オリエンテーション
	<b>内容</b>	科目の概要について説明する。また、第2回以降の課題について説明する。
<b>第2回</b>	<b>項目</b>	事例の検討①
	<b>内容</b>	学生が自身の体験や文献の事例における看護実践の実際とその課題について発表し、その解決策について討論する。
<b>第3回</b>	<b>項目</b>	事例の検討②
	<b>内容</b>	学生が自身の体験や文献の事例における看護実践の実際とその課題について発表し、その解決策について討論する。
<b>第4回</b>	<b>項目</b>	事例の検討③
	<b>内容</b>	学生が自身の体験や文献の事例における看護実践の実際とその課題について発表し、その解決策について討論する。
<b>第5回</b>	<b>項目</b>	事例の検討④
	<b>内容</b>	学生が自身の体験や文献の事例における看護実践の実際とその課題について発表し、その解決策について討論する。
<b>第6回</b>	<b>項目</b>	事例の検討⑤
	<b>内容</b>	学生が自身の体験や文献の事例における看護実践の実際とその課題について発表し、その解決策について討論する。
<b>第7回</b>	<b>項目</b>	事例の検討⑥
	<b>内容</b>	学生が自身の体験や文献の事例における看護実践の実際とその課題について発表し、その解決策について討論する。
<b>第8回</b>	<b>項目</b>	事例の検討のまとめ
	<b>内容</b>	事例の検討①～⑥についてまとめと討論を行う。
<b>第9回</b>	<b>項目</b>	在宅医療・在宅ケアにかかわる重要な概念、国内外の在宅ケアシステム①
	<b>内容</b>	在宅医療・在宅ケアにかかわる重要な概念、国内外の在宅ケアシステムに関する文献を抄読する。それを踏まえて日本における在宅医療・在宅ケアおよび地域包括ケアシステムの課題と解決策について、討論する。
<b>第10回</b>	<b>項目</b>	在宅医療・在宅ケアにかかわる重要な概念、国内外の在宅ケアシステム②

	<b>内容</b>	在宅医療・在宅ケアにかかわる重要な概念、国内外の在宅ケアシステムに関する文献を抄読する。それを踏まえて日本における在宅医療・在宅ケアおよび地域包括ケアシステムの課題と解決策について、討論する。
<b>第11回</b>	<b>項目</b>	在宅医療・在宅ケアにかかわる重要な概念、国内外の在宅ケアシステム③
	<b>内容</b>	在宅医療・在宅ケアにかかわる重要な概念、国内外の在宅ケアシステムに関する文献を抄読する。それを踏まえて日本における在宅医療・在宅ケアおよび地域包括ケアシステムの課題と解決策について、討論する。
<b>第12回</b>	<b>項目</b>	在宅医療・在宅ケアにかかわる重要な概念、国内外の在宅ケアシステム④
	<b>内容</b>	在宅医療・在宅ケアにかかわる重要な概念、国内外の在宅ケアシステムに関する文献を抄読する。それを踏まえて日本における在宅医療・在宅ケアおよび地域包括ケアシステムの課題と解決策について、討論する。
<b>第13回</b>	<b>項目</b>	在宅医療・在宅ケアにかかわる重要な概念、国内外の在宅ケアシステム⑤
	<b>内容</b>	在宅医療・在宅ケアにかかわる重要な概念、国内外の在宅ケアシステムに関する文献を抄読する。それを踏まえて日本における在宅医療・在宅ケアおよび地域包括ケアシステムの課題と解決策について、討論する。
<b>第14回</b>	<b>項目</b>	在宅医療・在宅ケアにかかわる重要な概念、国内外の在宅ケアシステム⑥
	<b>内容</b>	在宅医療・在宅ケアにかかわる重要な概念、国内外の在宅ケアシステムに関する文献を抄読する。それを踏まえて日本における在宅医療・在宅ケアおよび地域包括ケアシステムの課題と解決策について、討論する。
<b>第15回</b>	<b>項目</b>	在宅医療・在宅ケアにかかわる重要な概念、国内外の在宅ケアシステムのまとめ
	<b>内容</b>	在宅医療・在宅ケアにかかわる重要な概念、国内外の在宅ケアシステム①～⑥についてまとめと討論を行う。

#### 授業形式・授業形態

講義、プレゼンテーション、討論

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

学生によるプレゼンテーション資料と発表内容25%、ディスカッションへの参加状況25%、およびレポート50%により、総合的に評価する。

#### 参考文献等

授業中に適宜提示する。

#### オフィスアワー(授業相談)

授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村：mtsuji@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

#### 学生へのメッセージ

授業日程は、受講学生の予定を踏まえて設定します。

**主担当教員の実務経験**

看護師、保健師

講義コード	5432211	
講義名	訪問看護学演習A	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	辻村 真由子	公衆衛生看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
1 訪問看護・在宅ケアに関する国内外の論文・文献の抄読によって、知識基盤を強化する。 2 論文読解能力を高め、多様な研究方法を理解する。 3 上記を通じて、自身の研究課題の焦点化を行う。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
国内外の訪問看護・在宅ケア領域に関する知識や研究動向、多様な研究方法について学ぶことを通じて、自身の研究課題の焦点化を行う。  ※各回の授業時までには授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解のうえで疑問を持って授業に備えることが求められる。		
<b>授業内容</b>		
※受講生の進捗状況に応じて順序や内容を変更する可能性がある。		
<b>授業計画表</b>		
<b>第1回</b>	<b>項目</b>	オリエンテーション
	<b>内容</b>	科目の概要について説明する。また、第2回以降の課題について説明する。
<b>第2回</b>	<b>項目</b>	訪問看護・在宅ケアに関する国内外の論文・文献の抄読①
	<b>内容</b>	訪問看護・在宅ケアに関する国内外の論文・文献の抄読を行う。

第3回	項目	訪問看護・在宅ケアに関する国内外の論文・文献の抄読②
	内容	訪問看護・在宅ケアに関する国内外の論文・文献の抄読を行う。
第4回	項目	訪問看護・在宅ケアに関する国内外の論文・文献の抄読③
	内容	訪問看護・在宅ケアに関する国内外の論文・文献の抄読を行う。
第5回	項目	訪問看護・在宅ケアに関する国内外の論文・文献の抄読④
	内容	訪問看護・在宅ケアに関する国内外の論文・文献の抄読を行う。
第6回	項目	訪問看護・在宅ケアに関する国内外の論文・文献の抄読⑤
	内容	訪問看護・在宅ケアに関する国内外の論文・文献の抄読を行う。
第7回	項目	訪問看護・在宅ケアに関する国内外の論文・文献の抄読⑥
	内容	訪問看護・在宅ケアに関する国内外の論文・文献の抄読を行う。
第8回	項目	訪問看護・在宅ケアに関する国内外の論文・文献の抄読⑦
	内容	訪問看護・在宅ケアに関する国内外の論文・文献の抄読を行う。
第9回	項目	質的・量的・混合研究法の学習①
	内容	論文・文献の講読や研究例を通じて、質的・量的・混合研究法の学習を行う。
第10回	項目	質的・量的・混合研究法の学習②
	内容	論文・文献の講読や研究例を通じて、質的・量的・混合研究法の学習を行う。
第11回	項目	質的・量的・混合研究法の学習③
	内容	論文・文献の講読や研究例を通じて、質的・量的・混合研究法の学習を行う。
第12回	項目	質的・量的・混合研究法の学習④
	内容	論文・文献の講読や研究例を通じて、質的・量的・混合研究法の学習を行う。
第13回	項目	質的・量的・混合研究法の学習⑤
	内容	論文・文献の講読や研究例を通じて、質的・量的・混合研究法の学習を行う。
第14回	項目	質的・量的・混合研究法の学習⑥
	内容	論文・文献の講読や研究例を通じて、質的・量的・混合研究法の学習を行う。
第15回	項目	質的・量的・混合研究法の学習⑦
	内容	論文・文献の講読や研究例を通じて、質的・量的・混合研究法の学習を行う。

#### 授業形式・授業形態

講義、プレゼンテーション、討論

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

学生によるプレゼンテーション資料と発表内容50%、ディスカッションへの参加状況25%、およびレポート25%により、総合的に評価する。

#### 参考文献等

- ・ D. F. ポーリット／C. T. ベック、近藤潤子監訳：看護研究 第2版 原理と方法、医学書院、2010.
- ・ Suzan K. Grove／Nancy Burns／Jennifer R. Gray、黒田裕子、中木高夫、逸見功：バーン

ズ&グローブ 看護研究入門 原著第9版 評価・統合・エビデンスの生成、エルゼビア・ジャパン、2023.

・牧本清子・山川みやえ 編著編集：Essentials of EBP 研究手法別のチェックシートで学ぶよくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版、日本看護協会出版会、2020.

その他、授業中に適宜提示する。

#### **オフィスアワー(授業相談)**

授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村：mtsuji@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。

#### **主担当教員の実務経験**

看護師、保健師

講義コード	5432220		
講義名	地域看護学Ⅱ 演習B		
Lecture name	修士		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期		
講義区分	演習		
基準単位数	1		
時間	30.00		
代表曜日			
代表時限			
ナンバリングコード			
所属名称		ナンバリングコード	
担当教員			
職種	氏名	所属	
教授	辻村 真由子	公衆衛生看護学講座	
対象学科／学年			
学科			学年
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門～大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門			
大学院医学系研究科研究生～大学院医学系研究科研究生			
<b>学修目標(到達目標)</b>			
1 文献レビューに関する基礎的知識を獲得する。			
2 自身が設定した訪問看護学領域の研究テーマに関して、スコーピングレビューまたはマッピングを実施する。			
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>			
文献レビューに関する基礎的知識を獲得し、自身が設定した訪問看護学領域の研究テーマに関して、スコーピングレビューまたはマッピングを行い、研究計画の立案、研究実施の準備性を高める。			

※各回の授業時までには授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解のうえで疑問を持って授業に備えることが求められる。

## 授業内容

※受講生の進捗状況に応じて順序や内容を変更する可能性がある。

## 授業計画表

第1回	項目	オリエンテーション
	内容	科目の概要について説明する。また、第2回以降の課題について説明する。
第2回	項目	文献レビューに関する講義①
	内容	文献レビューに関する講義を行う。
第3回	項目	文献レビューに関する講義②
	内容	文献レビューに関する講義を行う。
第4回	項目	レビュー論文の抄読①
	内容	レビュー論文の抄読を行う。
第5回	項目	レビュー論文の抄読②
	内容	レビュー論文の抄読を行う。
第6回	項目	文献検索とスコーピングレビューまたはマッピングの実施①
	内容	文献検索とスコーピングレビューまたはマッピングの進捗状況を報告する。
第7回	項目	文献検索とスコーピングレビューまたはマッピングの実施②
	内容	文献検索とスコーピングレビューまたはマッピングの進捗状況を報告する。
第8回	項目	文献検索とスコーピングレビューまたはマッピングの実施③
	内容	文献検索とスコーピングレビューまたはマッピングの進捗状況を報告する。
第9回	項目	文献検索とスコーピングレビューまたはマッピングの実施④
	内容	文献検索とスコーピングレビューまたはマッピングの進捗状況を報告する。
第10回	項目	文献検索とスコーピングレビューまたはマッピングの実施⑤
	内容	文献検索とスコーピングレビューまたはマッピングの進捗状況を報告する。
第11回	項目	文献検索とスコーピングレビューまたはマッピングの実施⑥
	内容	文献検索とスコーピングレビューまたはマッピングの進捗状況を報告する。
第12回	項目	文献検索とスコーピングレビューまたはマッピングの実施⑦
	内容	文献検索とスコーピングレビューまたはマッピングの進捗状況を報告する。
第13回	項目	文献検索とスコーピングレビューまたはマッピングの実施⑧
	内容	文献検索とスコーピングレビューまたはマッピングの進捗状況を報告する。
第14回	項目	スコーピングレビューまたはマッピングの精錬①
	内容	各自のスコーピングレビューまたはマッピングを精錬する。
第15回	項目	スコーピングレビューまたはマッピングの精錬②
	内容	各自のスコーピングレビューまたはマッピングを精錬する。

<b>授業形式・授業形態</b>
講義、プレゼンテーション、討論
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
学生によるプレゼンテーション資料と発表内容25%、ディスカッションへの参加状況25%、およびレビューの成果物50%により、総合的に評価する。
<b>参考文献等</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ D. F. ポーリット／C. T. ベック、近藤潤子監訳：看護研究 第2版 原理と方法、医学書院、2010.</li> <li>・ Suzan K. Grove／Nancy Burns／Jennifer R. Gray、黒田裕子、中木高夫、逸見功：バーンズ&amp;グローブ 看護研究入門 原著第9版 評価・統合・エビデンスの生成、エルゼビア・ジャパン、2023.</li> <li>・ 牧本清子編集：エビデンスに基づく看護実践のためのシステムティックレビュー、日本看護協会出版会、2013.</li> </ul> <p>その他、授業中に適宜提示する。</p>
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
授業相談は適宜応じます。e-mailで担当者（辻村：mtsuji@belle.shiga-med.ac.jp）までアポイントをとってください。
<b>主担当教員の実務経験</b>
看護師、保健師

講義コード	5431601		
講義名	精神保健看護学特論		
Lecture name	博士前期		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期		
講義区分	講義		
基準単位数	2		
時間	30.00		
代表曜日			
代表時限			
ナンバリングコード			
所属名称		ナンバリングコード	
担当教員			
職種	氏名	所属	
教授	河村 奈美子	公衆衛生看護学講座	
対象学科／学年			
学科			学年
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門～大学院医学系研究科修士課程看護学専攻基礎看護学研究領域基礎看護学Ⅰ部門			
大学院医学系研究科研究生～大学院医学系研究科研究生			
<b>学修目標(到達目標)</b>			
看護学における精神看護学の位置づけや、精神看護学の基盤となる理論や概念に対する理解を深め、精神看護学の実践科学としての方向性を説明できる。また、精神看護学および関連学問領域における研究動向、精神保健医療福祉の歴史的検証、精神科専門看護師の実践能力開発の必要性とその役割や機能および援助方法について検討を行い、実践活動への示唆を述べることができる。			
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>			
精神看護の実践の基礎となる対象理解のための理論を教授し、実践の場で出会う主な疾患とその治療法、加えて看護ケアを行うためのアセスメントの方法についての理解を深め、その応用			

力を養う。

特論のため他領域の大学院生も受講する可能性があることから、精神看護の実践の基礎となる対象理解を中心に教授する。また、一般病棟において出会う可能性の高い精神疾患とその治療法、加えて看護ケアを行うためのアセスメント方法について教授する。

### 授業計画表

第1回	担当教員	河村 奈美子
	項目	オリエンテーションと課題の分担 精神看護の役割
	内容	精神医療と看護の変遷から役割
第2回	担当教員	河村 奈美子
	項目	精神力動論Ⅰ①
	内容	自我の構造と機能 心と意識について
第3回	担当教員	河村 奈美子
	項目	精神力動論Ⅰ②
	内容	自我の構造と機能 心と意識について
第4回	担当教員	河村 奈美子
	項目	精神力動論Ⅱ①
	内容	不安と防衛規制について 適応機制について
第5回	担当教員	河村 奈美子
	項目	精神力動論Ⅱ②
	内容	不安と防衛規制について 適応機制について
第6回	担当教員	河村 奈美子
	項目	精神症状と社会機能
	内容	様々な症状と社会適応困難
第7回	担当教員	河村 奈美子
	項目	家族機能のアセスメント
	内容	家族機能不全と精神障害
第8回	担当教員	尾関祐二
	項目	主な精神疾患の診断と治療Ⅰ
	内容	統合失調症・非定型精神病
第9回	担当教員	尾関祐二
	項目	主な精神疾患の診断と治療Ⅱ
	内容	気分障害・不安障害

第10回	担当教員	河村 奈美子
	項目	主な精神疾患の診断と治療Ⅲ
	内容	適応障害・パーソナリティ障害・発達障害
第11回	担当教員	河村 奈美子 尾関祐二
	項目	主な精神疾患の診断と治療Ⅳ
	内容	P T S D ・ アディクション
第12回	担当教員	宇田川潤
	項目	発達障害
	内容	発達障害の研究の動向
第13回	担当教員	河村 奈美子
	項目	治療と看護（困難事例）
	内容	治療や看護の難しさとゴールについて
第14回	担当教員	河村 奈美子
	項目	総括とディスカッション①
	内容	まとめ
第15回	担当教員	河村 奈美子
	項目	総括とディスカッション②
	内容	まとめ

#### 授業形式・授業形態

講義ならびにディスカッションにより授業を行う。  
社会人学生が多いため、開講日時については話し合いにより柔軟に対応する。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

総括的評価

プレゼンテーション（70%）

討論における発言状況（30%）

形成的評価

講義内容の主要テーマごとのコメントについて、都度のフィードバックを実施する

態度評価

授業での発言などから学習意欲を評価する

合計を100%とし、60%以上を合格とする。

#### テキスト（教科書等）

1) 阿保順子他. (2021). 統合失調症急性期看護学:患者理解の方法と理論に基づく実践、すぴか書房

2) Robert, L.W. & Louie, A.K. (高橋三郎監訳) .(2016).DSM-5スタディガイド:1冊で身につく診断と面接の技法, 医学書院

<b>テキストISBN番号</b>
1) 978-4-902630-30-5 2) 978-4-260-02543-0
<b>参考文献等</b>
河村奈美子・星美和子編著. (2021). 看護の治療的コミュニケーションと心のケア：実践力を高めるワークブック, 大学教育出版
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
月曜11：30-12：30 その他メール等で連絡により随時対応します。
<b>学生へのメッセージ</b>
積極的に議論に参加してください。
<b>授業用E-mail</b>
<a href="mailto:namy@belle.shiga-med.ac.jp">namy@belle.shiga-med.ac.jp</a>
<b>主担当教員の実務経験</b>
看護師

講義コード	5431612	
講義名	精神保健看護学演習A	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	河村 奈美子	公衆衛生看護学講座
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域精神看護学部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域精神看護学部門		
大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生		
<b>学修目標(到達目標)</b>		
精神保健福祉と精神看護の領域におけるさまざまな今日的課題について解説しながら、わが国における看護実践を踏まえ研究課題について説明できる。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
精神看護において看護師に求められる高度な臨床実践能力や臨床研究能力を示すために、最新の精神医療に関する知識に基づいたケア提供における理論的背景の洗練と、結果としてのエビデンスに基づくケア提供の実際について教授する。		
最新の精神医療に関する知識に基づくケア提供の理論的背景として様々な理論の確認や看護実践における有効性や限界についてディスカッションを行う。		

## 授業計画表

第1回	項目	精神の健康と看護
	内容	こころの健康の維持と看護
第2回	項目	自我機能の評価
	内容	こころの理論、発達理論
第3回	項目	同上
	内容	自我機能と看護モデル
第4回	項目	同上
	内容	発達段階と自我機能、看護理論の活用
第5回	項目	同上
	内容	精神症状と自我機能と看護の介入方法
第6回	項目	精神機能の評価
	内容	MMSEを用いたアセスメント
第7回	項目	セルフケアの評価
	内容	オレムアンダーウッド理論を用いたアセスメント
第8回	項目	身体療法と看護
	内容	精神科領域における薬物療法と看護
第9回	項目	
	内容	身体療法と看護
第10回	項目	精神療法、社会療法と看護
	内容	認知行動療法、SST、その他の精神療法
第11回	項目	
	内容	家族療法
第12回	項目	精神看護における治療的コミュニケーション
	内容	コミュニケーション
第13回	項目	
	内容	交流分析の理解
第14回	項目	事例の検討
	内容	事例のプレゼンテーションとディスカッション
第15回	項目	
	内容	事例のプレゼンテーションとディスカッション

### 授業形式・授業形態

講義及びディスカッション形式にて行う。社会人学生が多い場合は、開講日時については話し合いにより柔軟に対応するが、上記の内容と回数に準拠する。

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

<p>総括的評価</p> <p>プレゼンテーション (50%)</p> <p>討論における発言状況 (50%)</p> <p>形成的評価</p> <p>講義内容の主要テーマごとのコメントについて、都度のフィードバックを実施する</p> <p>態度評価</p> <p>授業での発言などから学習意欲を評価する</p> <p>評価を合算し100%として、60%以上を合格とする。</p>
<p><b>テキスト (教科書等)</b></p> <p>ディスカッションの教材資料として、授業の実施の際に適宜提供する。</p> <p>参考文献についても随時紹介する。</p>
<p><b>参考文献等</b></p> <p>1) 阿保順子他、統合失調症急性期看護学, 2021, すぴか書房</p> <p>2) Roberts, L.W. &amp; Louie, A.K. DSM-5スタディガイド, 2016, 医学書院</p>
<p><b>オフィスアワー(授業相談)</b></p> <p>月曜11:30-12:30 その他メール等の連絡により随時対応します。</p>
<p><b>学生へのメッセージ</b></p> <p>積極的に議論に参加するよう心掛けてください。</p>
<p><b>授業用E-mail</b></p> <p><a href="mailto:namy@belle.shiga-med.ac.jp">namy@belle.shiga-med.ac.jp</a></p>

講義コード	5431621		
講義名	精神看護学演習B		
Lecture name	修士		
代表ナンバリングコード			
講義開講時期	前期		
講義区分	演習		
基準単位数	1		
時間	30.00		
代表曜日			
代表時限			
ナンバリングコード			
所属名称		ナンバリングコード	
担当教員			
職種	氏名	所属	
教授	河村 奈美子	公衆衛生看護学講座	
対象学科／学年			
学科			学年
大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域精神看護学部門 ～ 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻臨床看護学研究領域精神看護学部門			
大学院医学系研究科研究生 ～ 大学院医学系研究科研究生			
<b>学修目標(到達目標)</b>			
高度かつ専門性の高い精神看護について、コミュニティにおける精神保健の維持や増進のための看護実践の基礎について、さまざまな看護理論、疾患の学習を踏まえ、なおかつ、より複雑な事例についての看護実践について考察し説明することができる。			
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>			
MMSEや自我構造、セルフケアモデルを活用し、複雑な状況にある対象理解について心理社会的にアセスメントを行い、対象理解できるとともに、対象への看護介入について学修する。さらに、発達障害の理解と支援、虐待や認知症患者に対するケアなど、社会的課題に対する看護について学び、より専門的な看護の役割を学修する。			

広義の精神看護について理論的に学習し理論と実践の統合を図る。

各回の授業までに、授業計画に応じた教材の該当箇所や参考書を読み、概要を理解の上で疑問をもって授業に備えることが求められる。

### 授業計画表

第1回	担当教員	河村 奈美子
	項目	理論を活用した困難事例に対する対象理解
	内容	さまざまな看護モデルの活用による対象理解
第2回	担当教員	河村 奈美子
	項目	同上
	内容	さまざまな看護モデルの活用による対象理解
第3回	担当教員	河村 奈美子
	項目	地域ケアモデルの理解
	内容	ケースマネジメント、ACT
第4回	担当教員	河村 奈美子
	項目	同上
	内容	ケースマネジメント、ACT
第5回	担当教員	河村 奈美子
	項目	同上
	内容	デイケアにおける看護と多職種連携
第6回	担当教員	河村 奈美子
	項目	同上
	内容	デイケアにおける看護と多職種連携
第7回	担当教員	河村 奈美子
	項目	心理療法
	内容	集団精神療法、集団力動の理解
第8回	担当教員	河村 奈美子
	項目	同上
	内容	集団の圧力・グループダイナミクス
第9回	担当教員	河村 奈美子
	項目	虐待、アディクション、DVとその支援
	内容	心理的な影響と支援
第10回	担当教員	河村 奈美子
	項目	同上
	内容	心理的な影響と支援
第11回	担当教員	河村 奈美子

	<b>項目</b>	発達障害(子どもの特性)の理解とその支援
	<b>内容</b>	発達障害(子どもの特性)の理解とその支援
<b>第12回</b>	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	同上
	<b>内容</b>	発達障害(子どもの特性)の理解とその支援
<b>第13回</b>	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	認知症の理解と看護
	<b>内容</b>	認知症を持つ対象者の理解と看護
<b>第14回</b>	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	同上
	<b>内容</b>	認知症を持つ対象者の理解と看護
<b>第15回</b>	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	在宅ケアにおける精神看護と多職種連携
	<b>内容</b>	在宅ケアにおける精神看護と多職種連携

#### 授業形式・授業形態

講義とディスカッション形式で進めます。

社会人学生も多いため、開講日時については話し合いにより柔軟に対応し、内容は上記の内容と回数に準拠する。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

総括的評価

プレゼンテーション（50%）

討論における発言状況（50%）

形成的評価

講義内容の主要テーマごとのコメントについて、都度のフィードバックを実施する

態度評価

授業での発言などから学習意欲を評価する

評価を合算し100%として、60%以上を合格とする。

#### テキスト（教科書等）

1) 阿保順子他. (2021). 統合失調症急性期看護学:患者理解の方法と理論に基づく実践、すびか書房

2) Robert, L.W. & Louie, A.K. (高橋三郎監訳) .(2016).DSM-5スタディガイド:1冊で身につく診断と面接の技法, 医学書院

#### テキストISBN番号

1) 978-4-902630-30-5

2) 978-4-260-02543-0

#### オフィスアワー(授業相談)

月曜 11:30-12:30 その他メール等の連絡により随時対応します。

<b>学生へのメッセージ</b>
積極的に議論に参加するよう心掛けてください。
<b>授業用E-mail</b>
<a href="mailto:namy@belle.shiga-med.ac.jp">namy@belle.shiga-med.ac.jp</a>
<b>主担当教員の実務経験</b>
看護師

講義コード	5431500	
講義名	ウイメンズヘルス学特論	
Lecture name	博士前期（母性CNS）	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<p>1. 女性の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツと生涯発達理論の視点と生理学的所見から捉え、ライフステージ各期にある女性とその家族の健康問題について看護学に必要な諸理論とジェンダーの概念を含めて理解を深め、看護援助のあり方について学修する。</p> <p>2. 女性の健康に関する様々な指標から、その課題を明確に分析し必要な看護方略を考える。</p> <p>3. 女性医療ケアシステムとその組織化に関する仕組みと運用と最新エビデンスを学習し看護実践につなげる。</p> <p>4. 女性健康指標、保健政策、男女共同参画社会政策を学び、社会組織的・政策的な側面から生涯を通じた女性の健康保障にむけた女性医療・看護ケアの方向性を考察する。</p>		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
<p>女性を生涯発達理論から理解し、思春期・成熟期・更年期・老年期の今日的健康課題を取り上げ、看護実践の質的向上のために、最新の女性医療からの知見・文献レビュー、保健政策を中心としてそのトピックスについて理解を深め、さらにジェンダー分析の視点から全人的にアセスメントできる能力を養い、高度な看護実践方略について考えることができる。</p>		
<b>授業計画表</b>		
<b>第1回</b>	<b>担当教員</b>	立岡 弓子

	<b>項目</b>	女性の健康と生涯発達理論 性差医療と女性医療ケアを必要とする女性の特性
<b>第2回</b>	<b>担当教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	女性の健康と活用される理論 ヘルスプロモーションとウェルネス
<b>第3回</b>	<b>担当教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	女性の健康への看護実践における評価とEBN
<b>第4回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	思春期女性の健康への理解 身体的・内分泌学的変化の特徴の理解①
<b>第5回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	性成熟期女性の健康への理解 身体的・内分泌学的変化の特徴の理解②
<b>第6回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	更年期女性の健康への理解 身体的・内分泌学的変化の特徴の理解③
<b>第7回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	老年期女性の健康への理解 身体的・内分泌学的変化の特徴の理解④
<b>第8回</b>	<b>担当教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	思春期女性の健康と発達課題を踏まえた看護支援
<b>第9回</b>	<b>担当教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	性成熟期女性の健康と発達課題を踏まえた看護支援
<b>第10回</b>	<b>担当教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	プレコンセプションケアの概念に基づく看護支援方略について考える
<b>第11回</b>	<b>担当教員</b>	服部 聖子 中井 愛
	<b>項目</b>	更年期・老年期・終末期にある女性の健康と発達課題を踏まえた看護支援
<b>第12回</b>	<b>担当教員</b>	立岡 弓子

	<b>項目</b>	ジェンダーと健康格差について考える
<b>第13回</b>	<b>担当教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	LGBTQ・性の多様性への理解
<b>第14回</b>	<b>担当教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	LGBTQ・性の多様性への看護支援
<b>第15回</b>	<b>担当教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	女性医療ケアシステムと男女共同参画社会政策からみた女性の就労と健康

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

ディベート能力およびプレゼンテーション、レポート

#### テキスト（教科書等）

・伊藤公雄著；女性学・男性学-ジェンダー論入門 第3版，有斐閣アルマ，2019.

#### 学生へのメッセージ

本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野共通科目「女性のライフサイクル全般にわたる個及び集団とその健康問題の理解に関する項目」および、「女性のライフサイクル全般にわたる援助に関する科目対象理解に関する科目」に相当する（2単位）。

講義コード	5510010
講義名	ウィメンズヘルス看護学演習
Lecture name	博士前期（母性CNS）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>
-------------	------------------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座
教授	一杉 正仁	社会医学講座（法医学部門）
教授	村上 節	産科学婦人科学講座（女性）
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座
講師	土川 祥	臨床看護学講座
助教	大江 良子	臨床看護学講座
助教	花田 哲郎	女性診療科
助教	窪田 成寿	泌尿器科

### 学修目標(到達目標)

1. 健康問題解決にむけた臨床判断に必要な知識を教授するウィメンズヘルスを生涯発達として理解し、各ライフステージにおける。
2. ウィメンズヘルスをとりまく現状と看護を行う上で必要な最新知識とガイドラインについて学び、関連する最新エビデンスを獲得する方法を修得する。
3. ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題・トピックスについて事例を通して、母性看護学実践者としての立場・視点から、必要な社会的施策・社会的支援の必要性について看護職としての役割を深く理解する。
4. 女性やその家族の権利を守るための倫理調整について理解する。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

ウィメンズヘルスを生涯発達として理解し、女性を取り巻く健康課題・社会的問題のトピックスについて、専門家からの最新の知識を提供する。さらに、事例を用いたプレゼンテーションからその内容についてディスカッションすることで、政策の提言・看護職に求められる役割について考え、実践に活かすことを目的とする。また、女性と家族の権利について考え、倫理的な視点を持った看護実践ができる力を養う。

### 授業内容

各トピックスについて調べた内容をウィメンズヘルス看護学の観点からプレゼンテーションを行う。

各トピックスを専門にする医師・助産師・看護師・生殖補助医療に従事する専門職がディスカッションに参加することで、より専門的な知識や倫理観・社会的な側面も踏まえた学修方法を取り入れる。

なお、トピックスや発表方法について学生からの提案内容に変更ができるため、積極的な意見を求める。

### 授業計画表

第1回	担当教員	立岡 弓子
	項目	女性を取り巻く社会の変化と女性の健康の理解
	内容	
第2回	担当教員	喜多 伸幸
	項目	性ホルモンのメカニズムと作用機序
	内容	
第3回	担当教員	立岡 弓子
	項目	性ホルモンとエイジング
	内容	
第4回	担当教員	喜多 伸幸
	項目	思春期女性の健康に関する諸問題と臨床判断・生殖内分泌知識 月経・やせ
	内容	
第5回	担当教員	喜多 伸幸
	項目	思春期女性の健康に関する諸問題と臨床判断・女性医学の知識 性感染症・人工妊娠中絶
	内容	
第6回	担当教員	立岡 弓子

	<b>項目</b>	思春期女性の健康に関する諸問題と臨床判断・人間発達学的知識 自殺・SOGI・パラサイト症候群と自我
	<b>内容</b>	
<b>第7回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸 花田 哲郎
	<b>項目</b>	成熟期女性の健康に関する諸問題と臨床判断・生殖内分泌知識 不妊
	<b>内容</b>	
<b>第8回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸 花田 哲郎
	<b>項目</b>	成熟期女性の健康に関する諸問題と臨床判断・女性医学の知識 エストロゲン依存性疾患
	<b>内容</b>	
<b>第9回</b>	<b>担当教員</b>	土川 祥
	<b>項目</b>	成熟期女性の健康に関する諸問題と臨床判断・人間発達学的知識 喫煙・飲酒
	<b>内容</b>	
<b>第10回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	更年期女性の健康に関する諸問題と臨床判断・生殖内分泌の知識 更年期障害
	<b>内容</b>	
<b>第11回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸
	<b>項目</b>	更年期女性の健康に関する諸問題と臨床判断・女性医学の知識 骨粗鬆症・脂質異常症
	<b>内容</b>	
<b>第12回</b>	<b>担当教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	更年期女性の健康に関する諸問題と臨床判断・人間発達学的知識 空の巣症候群・更年期うつ
	<b>内容</b>	
<b>第13回</b>	<b>担当教員</b>	喜多 伸幸 窪田 成寿
	<b>項目</b>	老年期女性の健康に関する諸問題と臨床判断・生殖内分泌と女性医学の知識 子宮脱を含めた骨盤臓器脱
	<b>内容</b>	

第14回	担当教員	立岡 弓子
	項目	老年期女性の健康に関する諸問題と臨床判断・人間発達学的知識 貧困・家族関係
	内容	
第15回	担当教員	村上 節 立岡 弓子
	項目	ウィメンズヘルスと女性医療 女性医療に必要なケアシステムへの理解とその組織化に関する理論
	内容	
第16回	担当教員	花田 哲郎 立岡 弓子
	項目	ウィメンズヘルスと最新エビデンス1 生殖医療ガイドライン 生殖医療ガイドラインから看護を考える
	内容	
第17回	担当教員	喜多 伸幸 立岡 弓子
	項目	ウィメンズヘルスと最新エビデンス2 OC・LEPガイドライン OC・LEPガイドラインから看護を考える
	内容	
第18回	担当教員	花田 哲郎 立岡 弓子
	項目	ウィメンズヘルスと最新エビデンス3 小児，思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 小児，思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドラインから看護を考える
	内容	
第19回	担当教員	村上 節 立岡 弓子
	項目	ウィメンズヘルスと最新エビデンス4 HRT療法ガイドライン HRT療法ガイドラインから看護を考える
	内容	
第20回	担当教員	窪田 成寿 土川 祥 大江 良子
	項目	ウィメンズヘルスと最新エビデンス5 女性下部尿路症状診療ガイドライン 女性下部尿路症状診療ガイドラインから看護を考える
	内容	
第21回		

	担当教員	立岡 弓子
	項目	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える① 赤ちゃんポスト・内密出産
	内容	
第22回	担当教員	立岡 弓子
	項目	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える② 女性の貧困と施策（成育医療等基本方針より）
	内容	
第23回	担当教員	中野 育子
	項目	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える③ 災害・パンデミックにおける女性への支援
	内容	
第24回	担当教員	立岡 弓子 中野 育子
	項目	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える④ 新生生前診断と中絶を選択する女性
	内容	
第25回	担当教員	一杉 正仁
	項目	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える⑤ 薬物使用とアルコール依存
	内容	
第26回	担当教員	立岡 弓子
	項目	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える⑥ 分娩費用の保険適応と産む女性のリプロダクティブヘルスライツ
	内容	
第27回	担当教員	一杉 正仁
	項目	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える⑦ 犯罪・虐待
	内容	
第28回	担当教員	一杉 正仁

	<b>項目</b>	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える⑧ 女性の孤独死と死因究明
	<b>内容</b>	
<b>第29回</b>	<b>担当教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える⑨ ジェンダー平等に基づく女性に必要な保健施策について
	<b>内容</b>	
<b>第30回</b>	<b>担当教員</b>	立岡 弓子 土川 祥
	<b>項目</b>	ウィメンズヘルスを取り巻く社会的課題と健康問題について考える⑩ 女性を取り巻く経済産業活動と看護：フェムケア
	<b>内容</b>	

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

プレゼンテーション、討論への参加

#### テキスト（教科書等）

- ・日本生殖医学会；OC・LEPガイドライン，杏林舎，2020
- ・日本癌治療学会；小児、思春期、若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン，金原出版
- ・日本女性医学学会；女性医学ガイドブック，金原出版
- ・日本生殖医学会；生殖医療ガイドライン，杏林舎

#### 学生へのメッセージ

本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野共通科目「女性のライフサイクル全般にわたる個及び集団とその健康問題の理解に関する項目」および、「女性のライフサイクル全般にわたる援助に関する科目対象理解に関する科目」に相当する（2単位）。

講義コード	5510020	
講義名	周産期ハイリスク特論	
Lecture name	博士前期（母性CNS）	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座
講師	土川 祥	臨床看護学講座
助教	桂 大輔	母子診療科
<b>学修目標(到達目標)</b>		
1. 周産期の異常、精神疾患、社会的ハイリスクへの必要な看護診断と支援について理解する。 2. 周産期に使用される薬理学の知識を修得し、看護実践に活かすことができる。 3. 周産期における妊娠中断やペリネイタルロスを経験する妊産褥婦と家族への倫理的判断に基づく看護実践について理解を深める。 4. 周産期における社会的ハイリスクがある妊産褥婦と家族の課題を分析し、切れ目のない直接的ケア・調整・教育・多職種連携について理解を深める。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
ハイリスク妊産褥婦および胎児・新生児の正常を逸脱した経過を理解し、母児への健康維持に向けた看護実践を展開できる知識を養うことを目的とする。		
<b>授業計画表</b>		
<b>第1回</b>	<b>担当教員</b>	立岡 弓子 大瀧 明子
	<b>項目</b>	MFICUにおける母子とその家族の状況とその心理の理解

第2回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	周産期病態生理の理解（切迫早産・多胎妊娠）
第3回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	周産期病態生理の理解（妊娠糖尿病 糖尿病合併妊娠）
第4回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	周産期病態生理の理解（妊娠高血圧症候群・HELLP症候群）
第5回	担当 教員	中野 育子
	項目	切迫早産・多胎を有する周産期女性への看護支援
第6回	担当 教員	土川 祥
	項目	妊娠糖尿病を有する周産期女性への看護支援
第7回	担当 教員	中井 愛
	項目	妊娠高血圧症候群・HELLP症候群を有する周産期女性の健康課題理解と看護実践
第8回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	合併症妊娠の病態生理と健康問題への理解 (循環器疾患、自己免疫疾患、甲状腺疾患、感染症など)
第9回	担当 教員	中井 愛
	項目	合併症妊娠の病態生理と健康問題への高度看護実践 (循環器疾患、自己免疫疾患、甲状腺疾患、感染症など)
第10回	担当 教員	金本 賢枝
	項目	妊娠とくすりへの理解（胎児奇形、胎児毒性）
第11回	担当 教員	桂 大輔
	項目	胎児治療とそれを受ける妊婦とその家族への理解
第12回	担当 教員	三田村 七福子
	項目	胎児治療を受ける妊婦とその家族への心理的看護について
第13回	担当 教員	中井 愛

	<b>項目</b>	母児分離を経験した妊産褥婦とその家族へのマターナルアイデンティティ獲得と親役割取得を含めた支援課題を考察する（早産児・NICU入院）
<b>第14回</b>	<b>担当 教員</b>	三田村 七福子
	<b>項目</b>	特定妊婦・精神科疾患を有する周産期女性へのマターナルアイデンティティ獲得と親役割取得を含めた支援課題を考える（貧困・発達障害・周産期うつ）
<b>第15回</b>	<b>担当 教員</b>	三田村 七福子
	<b>項目</b>	周産期における妊娠中断やペリネイタルロスを経験する妊産褥婦と家族への看護について

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

ディベート能力およびプレゼンテーション、レポート

#### テキスト（教科書等）

- ・ Williams Obstetrics 26th Edition
- ・ Briggs Drugs in pregnancy and lactation 12th Edition
- ・ Expertddx obstetrics Amirsys

#### 学生へのメッセージ

本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野共通科目「周産期にある母子とその健康問題の理解に関する項目」および「周産期にある母子の援助に関する項目」に相当する（2単位）。

講義コード	5510030
講義名	周産期看護学演習
Lecture name	博士前期（母性CNS）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座
教授	一杉 正仁	社会医学講座（法医学部門）
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座
准教授	辻 俊一郎	産科学婦人科学講座（母子）
講師	土川 祥	臨床看護学講座
講師	柳 貴英	小児科
助教	桂 大輔	母子診療科

### 学修目標(到達目標)

周産期の女性とその家族の理解のため、遺伝学的・生殖内分泌学的知識を習得し、倫理的・臨床的看護診断から必要な看護実践を展開する。

妊娠・分娩・産褥経過と胎児・新生児診断を含めた超音波断層法検査をはじめとする診断技法を理解し、助産師外来からの要請に対応できる素養を養う。

周産期に起こる異常症例についてガイドラインを参考に標準治療を理解し、対象の異常症状から臨床推論を展開し、必要な看護支援について理解する。

周産期医療の最新のエビデンスに基づく論文を読み解き、EBNから最善の看護ケアの提供について考えることができる。

子供の成長発達・親役割獲得過程の理論を理解する。

周産期にある母児とその家族の健康課題の看護診断および看護援助の在り方を理解する。

新しい命を迎えた母子やその家族の発達に関する理論を論解し、母子を取り巻く社会や環境、それらを支援する周産期ケアシステムや母子保健施策について学修する。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

最新の周産期・新生児医療を学んだ後、産科診療ガイドライン・助産業務ガイドラインの指針や周産期医療のエビデンスについて学び、母児の健康状態を正確に把握するための知識を教授する。また、看護を必要とする家族の発達課題や社会環境について学び、アセスメント能力を高め、母子保健施策等を活用した妊娠前から産後の育児期における母子とその家族への切れ目ない支援を考案する力を身につけることを目的とする。

### 授業計画表

第1回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	周産期女性の身体的・内分泌的変化の理解
第2回	担当 教員	辻 俊一郎
	項目	周産期における遺伝学的知識の理解 出生前診断と遺伝に関する最新の知識
第3回	担当 教員	立岡 弓子
	項目	母子愛着形成と親役割理論 (プレゼン・ディスカッション)
第4回	担当 教員	立岡 弓子
	項目	発達危機理論の理解とその適用 (プレゼン・ディスカッション)
第5回	担当 教員	喜多 伸幸
	項目	周産期における超音波断層法検査を用いた診断の理解
第6回	担当 教員	柳 貴英
	項目	早産児に対する最新の新生児医療の理解
第7回	担当 教員	桂 大輔
	項目	妊娠期の異常症状 (妊婦の腹痛・出血) に関する産科学的知識の理解
第8回	担当 教員	桂 大輔
	項目	妊娠期の異常症状 (妊婦の腹痛・出血) に関する産科学的知識の理解
第9回	担当 教員	辻 俊一郎
	項目	分娩期の異常症状 (分娩期の頭痛) に関する産科学的知識の理解

第10回

	<b>担当 教員</b>	辻 俊一郎
	<b>項目</b>	分娩期の異常症状（分娩期の頭痛）に関する産科学的知識の理解
<b>第11回</b>	<b>担当 教員</b>	辻 俊一郎
	<b>項目</b>	産褥期の異常症状（産褥期の発熱・異常出血）に関する産科学的知識の理解
<b>第12回</b>	<b>担当 教員</b>	辻 俊一郎
	<b>項目</b>	産褥期の異常症状（産褥期の発熱・異常出血）に関する産科学的知識の理解
<b>第13回</b>	<b>担当 教員</b>	柳 貴英
	<b>項目</b>	新生児期の異常症状（嘔吐・けいれん・腹部膨満）に関する新生児学的知識の理解
<b>第14回</b>	<b>担当 教員</b>	柳 貴英
	<b>項目</b>	新生児期の異常症状（嘔吐・けいれん・腹部膨満）に関する新生児学的知識の理解
<b>第15回</b>	<b>担当 教員</b>	一杉 正仁
	<b>項目</b>	妊婦の突然死・交通事故死の理解
<b>第16回</b>	<b>担当 教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	子ども家庭庁や母子保健行政等による母子への支援施策
<b>第17回</b>	<b>担当 教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	周産期ケアシステムの実際とPDCAサイクル理論 ～切れ目ない支援を考える～
<b>第18回</b>	<b>担当 教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	出生前診断と妊産婦・家族の支援 遺伝カウンセリングを含む
<b>第19回</b>	<b>担当 教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	助産師外来における超音波断層法検査の活用
<b>第20回</b>	<b>担当 教員</b>	土川 祥 中井 愛
	<b>項目</b>	事例から考える新生児のディベロップメンタルケアと家族中心のケア
<b>第21回</b>	<b>担当 教員</b>	桂 大輔 土川 祥

	<b>項目</b>	妊娠期の異常（事例：腹痛症例）に関する看護支援についてロールプレイおよび学生によるディスカッションを行う
第22回	<b>担当 教員</b>	桂 大輔 土川 祥
	<b>項目</b>	妊娠期の異常（事例：腹痛症例）に関する看護支援についてロールプレイおよび学生によるディスカッションを行う
第23回	<b>担当 教員</b>	辻 俊一郎 土川 祥
	<b>項目</b>	分娩期の異常（事例：頭痛症例）に関する看護支援についてロールプレイおよび学生によるディスカッションを行う
第24回	<b>担当 教員</b>	辻 俊一郎 土川 祥
	<b>項目</b>	分娩期の異常（事例：頭痛症例）に関する看護支援についてロールプレイおよび学生によるディスカッションを行う
第25回	<b>担当 教員</b>	喜多 伸幸 土川 祥
	<b>項目</b>	産褥早期の異常（事例：発熱症例）に関する看護支援についてロールプレイおよび学生によるディスカッションを行う
第26回	<b>担当 教員</b>	喜多 伸幸 土川 祥
	<b>項目</b>	産褥早期の異常（事例：発熱症例）に関する看護支援についてロールプレイおよび学生によるディスカッションを行う
第27回	<b>担当 教員</b>	柳 貴英 土川 祥
	<b>項目</b>	新生児期の異常（事例：嘔吐症例）に関する看護支援についてロールプレイおよび学生によるディスカッションを行う
第28回	<b>担当 教員</b>	柳 貴英 土川 祥
	<b>項目</b>	新生児期の異常（事例：嘔吐症例）に関する看護支援についてロールプレイおよび学生によるディスカッションを行う
第29回	<b>担当 教員</b>	立岡 弓子 土川 祥
	<b>項目</b>	コクランレビューからひもとく周産期医療のエビデンスと看護
第30回	<b>担当 教員</b>	立岡 弓子 中井 愛
	<b>項目</b>	最新の周産期ケアシステム・母子保健行政の施策から考える周産期の母児への切れ目ない支援（プレゼンテーション）

成績評価方法（成績評価基準を含む）

プレゼンテーション、討論への参加
<b>テキスト（教科書等）</b>
<p>実践! 胎児超音波検査 - どこを見て, なにを診るのか - MEDICAL VIEW  EXPERT DD OBSTETRICS AMIRSYS®  森臨太郎、森享子（著）、ほんとうに確かなことから考える妊娠・出産の話 コクランレビュー  からひもとく. 医学書院、  日本助産師会（編）、助産業務ガイドライン2019. 日本助産師会出版, 2019  日本産科婦人科学会（編）、産婦人科診療ガイドライン産科編2023. 日本産科婦人科学会,  2023</p>
<b>テキストISBN番号</b>
2018.ISBN-13 : 978-4260035422
<b>学生へのメッセージ</b>
<p>本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野共通科目「周産期にある母子とその健康問題の理解に関する項目」および「周産期にある母子の援助に関する項目」に相当する（2単位）。</p>

講義コード	5510040	
講義名	母乳看護学	
Lecture name	博士前期（母性CNS）	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座
准教授	梅田 朋子	地域医療教育研究拠点
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳房の解剖、乳汁産生機序と分泌のメカニズム、成分の特徴について理解できる。</li> <li>2. 乳腺の発育と退縮のプロセスについて理解できる。</li> <li>3. 母乳栄養、母乳育児に関する文献検討において、抽出した課題（乳頭・乳房トラブル）についてシステマティックレビューから導き出されたエビデンスについて理解し、必要な看護支援について考えることができる。</li> <li>4. 母乳育児開始から終了までの、看護の役割について母親の心身両面への影響について理解できる。</li> <li>5. 母乳哺育児の特徴とケアの必要性について理解できる。</li> </ol>		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
母乳育児支援において、研究成果のエビデンスを根拠とした考え方・方法・技術について学修し、乳房ケアの臨床実践につなげる方法について理解を深める。		
<b>授業内容</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母乳の生理、乳房の解剖学について知識を教授し、母乳育児の過程で生じるマイナートラブルや疾患に対する根拠に基づいた最善のケアとその根拠となる診断技法について教授する。</li> <li>2. 国内外での最新の母乳に関する研究の動向を知り、臨床応用について検証していく。</li> <li>3. 母乳育児に看護実践がもたらす効果について考える。</li> </ol>		

授業計画表		
第1回	担当教員	梅田 朋子
	項目	乳房の解剖と画像診断の理解
第2回	担当教員	立岡 弓子
	項目	乳汁産生・分泌のメカニズム、乳汁成分の特徴
第3回	担当教員	立岡 弓子
	項目	母乳育児支援の基礎知識 (UNICEF/WHO母乳育児支援ガイド)
第4回	担当教員	福家 妙子
	項目	乳頭トラブルの予防とケアのエビデンス <コクラン文献レビューから>
第5回	担当教員	立岡 弓子
	項目	乳房トラブルの予防とケアのエビデンス <コクラン文献レビューから>
第6回	担当教員	立岡 弓子 中井 愛
	項目	母乳哺育児の特徴とケアのエビデンス ・哺乳のメカニズム ・低出生体重児を含めた母児分離にある母児への母乳ケア
第7回	担当教員	立岡 弓子
	項目	断乳ケアのエビデンス 乳腺の退縮プロセスの理解
第8回	担当教員	立岡 弓子 中井 愛
	項目	最善の母乳ケアについて考える
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>		
クリティーク能力、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加		
<b>テキスト（教科書等）</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高橋雅士監修；新 乳房の画像診断の勘どころ, MEDICAL VIEW,2017.</li> <li>・橋本武夫監訳；UNICEF/WHO母乳育児支援ガイド, 医学書院, 2003.</li> <li>・立岡弓子編著；乳房ケアのエビデンス, 日総研出版, 2014.</li> <li>・清澤功著；母乳の栄養学, 金原出版, 1998</li> <li>・公益社団法人日本助産師会・一般社団法人日本助産学会：乳腺炎ケアガイドライン2020, 日本助産師会出版</li> </ul>		
<b>学生へのメッセージ</b>		
本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野専門科目に相当する（1単位）。		

講義コード	5510050	
講義名	周産期メンタルヘルス学	
Lecture name	博士前期（母性CNS）	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座
教授	一杉 正仁	社会医学講座（法医学部門）
准教授	藤井 久彌子	精神医学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<p>1. 周産期メンタルヘルスの基礎知識と臨床で広く用いられている評価尺度についての理解を深める。</p> <p>2. 周産期うつを中心とした女性とその家族のメンタルヘルスについて、背景となる諸要因への理解と必要な支援について理解を深める。</p> <p>3. 多職種協働連携チームの各専門性による支援の必要性と周産期メンタルヘルスを支える仕組みについて学修し、切れ目ない支援の実践に繋げる力を養う。</p> <p>4. 周産期メンタルヘルスケアに求められる能力と母性CNSが行う看護支援の在り方について考える力を養う。</p>		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
<p>周産期にある女性に特化したメンタルヘルスの特徴について、女性の背景要因から理解し、正しい看護診断を行うための知識を教授する。特に周産期うつを中心とするスクリーニング方法や必要な薬物治療、養育行動への影響についての内容を重点的に履修する。精神科医師や精神・母性看護専門看護師、助産師、看護師の実践について事例を用いた講義や発表、ディスカッションを交えて周産期メンタルヘルスケアへの理解を深めることを目的とする。</p>		
<b>授業計画表</b>		

第1回	担当 教員	立岡 弓子
	項目	周産期メンタルヘルスの重要性～妊産婦メンタルヘルスの現状～
第2回	担当 教員	藤井 久彌子
	項目	周産期メンタルヘルスの基礎知識～うつ・産褥期精神障害への臨床的診断と治療～
第3回	担当 教員	金本 賢枝
	項目	精神科疾患を有する周産期女性への薬物治療の考え方
第4回	担当 教員	立岡 弓子 大瀧 明子
	項目	周産期メンタルヘルスと母子相互作用・親のメンタルヘルスと乳幼児の発達の関連
第5回	担当 教員	立岡 弓子 小野 美雪
	項目	周産期メンタルヘルスケアの実際～妊産婦・家族への対応の基本～
第6回	担当 教員	立岡 弓子 小野 美雪
	項目	周産期メンタルヘルスケアの実際～妊産婦・家族への対応の基本～
第7回	担当 教員	立岡 弓子 大瀧 明子
	項目	周産期メンタルヘルスケアの実際～育児支援とケアが必要な妊産婦のスクリーニング・3つの質問票による面接の実際とケア～
第8回	担当 教員	立岡 弓子 大瀧 明子
	項目	周産期メンタルヘルスケアの実際～育児支援とケアが必要な妊産婦のスクリーニング・3つの質問票による面接の実際とケア～
第9回	担当 教員	中井 愛
	項目	障害をもつ子どもを出産した女性と家族のメンタルヘルス
第10回	担当 教員	三田村 七福子
	項目	特定妊婦と周産期メンタルヘルス～現状と課題の分析から必要な看護支援を考える（事例検討）～
第11回	担当 教員	三田村 七福子

	<b>項目</b>	周産期メンタルヘルスケアにおける多職種協働連携チームの意義と実際 ～コーディネーション～
<b>第12回</b>	<b>担当 教員</b>	藤井 久彌子 光岡 由紀子
	<b>項目</b>	周産期メンタルヘルスケアにおける多職種協働連携チームの意義と実際 ～精神科へ紹介が必要なケース～
<b>第13回</b>	<b>担当 教員</b>	一杉 正仁
	<b>項目</b>	妊産婦メンタルヘルスの現状～周産期女性の自殺、母子の心中、虐待死亡事例とその背景～
<b>第14回</b>	<b>担当 教員</b>	光岡 由紀子
	<b>項目</b>	周産期女性の自殺予防に向けた看護支援について考える
<b>第15回</b>	<b>担当 教員</b>	立岡 弓子 中井 愛
	<b>項目</b>	総括：周産期メンタルヘルスと切れ目ない看護支援における母性CNSの役割

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

クリティーク能力、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加

#### テキスト（教科書等）

- ・公益社団法人日本産婦人科医会（編集）；妊産婦メンタルヘルスケアマニュアル-産後ケアへの切れ目のない支援に向けて-中外医学社
- ・岡野禎治編著；クロストークから読み解く周産期メンタルヘルス1版，南山堂
- ・周産期メンタルヘルス学会「周産期メンタルヘルスコンセンサスガイド2017」

#### テキストISBN番号

2021.ISBN 978-4-498-16022-4

2016.ISBN 978-4-525-38061-8

#### 学生へのメッセージ

本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野専門科目に相当する（2単位）。

講義コード	5510060
講義名	リプロダクティブヘルスと看護
Lecture name	博士前期（母性CNS）
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>
-------------	------------------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座
准教授	辻 俊一郎	産科学婦人科学講座（母子）
准教授	梅田 朋子	地域医療教育研究拠点
講師	高橋 顕雅	母子診療科
講師	天野 創	女性診療科
助教	花田 哲郎	女性診療科

### 学修目標(到達目標)

1. 若年発症する女性生殖器の良性・悪性疾患（子宮頸部がん、子宮体部がん、卵巣がん、卵管がん、乳がんなど）をもちながら妊孕性温存を目的とした生殖補助医療を受ける女性のリプロダクティブライツについて理解を深める。
2. がん生殖医療ケアを含めた、ネットワーク等の女性医療ケアシステムとその組織化に関するしくみと運用について理解を深める。
3. 女性医療ケアへの理解を深め、最新の知識・技術・ガイドラインについて学び、母性高度看護実践の目標について考察する。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

女性のもつリプロダクティブヘルツライツに関して、女性特有の疾患・妊孕性への女性医療を受ける意思決定支援を中心とした看護のあり方を広く教授することを目的とする。

### 授業計画表

第1回	担当教員	高橋 顕雅 天野 創 立岡 弓子
	項目	女性の良性疾患・悪性疾患の婦人科ガイドラインに基づく看護のあり方を考察する
第2回	担当教員	辻 俊一郎 立岡 弓子
	項目	妊孕治療（CSSの治療）を受ける女性への看護のあり方を考察する
第3回	担当教員	花田 哲郎 立岡 弓子
	項目	小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存治療を受ける女性に対する生殖看護のあり方を考察する
第4回	担当教員	木村 由梨
	項目	がんCNSから見た妊孕性温存の看護の実際を理解する
第5回	担当教員	木村 由梨
	項目	がん・生殖医療ネットワーク等の女性医療ケアシステムとその組織化に関する理論を理解する
第6回	担当教員	木村 由梨
	項目	がんCNSから見た女性がん患者全般の看護のあり方を考察する
第7回	担当教員	梅田 朋子 立岡 弓子 木村 由梨
	項目	妊孕性温存治療の理解と乳がん患者への看護のあり方を考察する
第8回	担当教員	立岡 弓子 中井 愛
	項目	総括：女性の身体的・内分泌学的変化の特徴に基づく女性医療とリプロダクティブヘルスと母性CNSの役割

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

クリティーク能力、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加

#### テキスト（教科書等）

『小児，思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン』2017年版  
(金原出版株式会社)

#### 学生へのメッセージ

本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野専門科目（1単位）に相当する。

講義コード	5510080										
講義名	女性と暴力										
Lecture name	母性CNS										
代表ナンバリングコード											
講義開講時期	後期										
講義区分	演習										
基準単位数	1										
時間	0.00										
代表曜日											
代表時限											
ナンバリングコード											
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;"><b>所属名称</b></td> <td><b>ナンバリングコード</b></td> </tr> </table>			<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>							
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>										
担当教員											
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">職種</th> <th style="width: 60%;">氏名</th> <th style="width: 30%;">所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教授</td> <td>立岡 弓子</td> <td>臨床看護学講座</td> </tr> <tr> <td>教授</td> <td>一杉 正仁</td> <td>社会医学講座（法医学部門）</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教授	立岡 弓子	臨床看護学講座	教授	一杉 正仁	社会医学講座（法医学部門）
職種	氏名	所属									
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座									
教授	一杉 正仁	社会医学講座（法医学部門）									
<b>学修目標(到達目標)</b>											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内外の女性への暴力被害の実態、フィジカルアセスメントについて理解できる。</li> <li>2. 女性への暴力被害対策の歴史的背景について説明できる。</li> <li>3. 女性への暴力被害対策に関する社会的システム、法律について説明できる。</li> <li>4. 女性への暴力被害対策に関する保健医療と看護の役割について理解できる。</li> <li>5. 被害女性の心身の状態について理解できる。</li> <li>6. 母性CNSとしての暴力に対する多職種との連携・協働について説明できる。</li> </ol>											
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>											
<p>女性と子どもへの暴力被害と健康との関係とアセスメント、看護介入の必要性を学ぶ。女性の生涯において、思春期でのデート・ドメスティック・バイオレンスを含めた女性への暴力被害と、周産期から各ライフステージにおける女性への暴力被害、社会的制度および背景を理解する。その上で、母性CNSとして法的責任・介入・多職種との連携方法について理解を深める。</p>											
<b>授業内容</b>											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性と暴力に関する実態と課題について、身体的・心理的・社会的側面から教授する。</li> <li>2. ポリヴェーガル理論について学修し、被害女性への理解と現在の課題を明らかにする。</li> <li>3. 国内外での暴力・性暴力への対策と看護の実際について教授する。</li> </ol>											
<b>授業計画表</b>											

第1回	担当教員	立岡 弓子
	項目	女性と暴力の概観について
第2回	担当教員	一杉 正仁
	項目	暴力・性暴力被害女性のフィジカルアセスメント 法医学の立場より
第3回	担当教員	一杉 正仁
	項目	暴力・性暴力被害女性の成傷機序のフィジカルアセスメント
第4回	担当教員	立岡 弓子 一杉 正仁
	項目	性被害者への初期対応方法 同行支援のしくみと看護の役割 証拠採取の実際 被害者支援センターの役割と支援の実際
第5回	担当教員	立岡 弓子
	項目	ポリヴェーガル理論と刑法から過去の裁判例を再考する
第6回	担当教員	渡邊 一枝
	項目	性的虐待を受けたサバイバーへの病院での取組みと母性CNSの役割
第7回	担当教員	西川 貴子
	項目	ワンストップセンターでの活動の実際 初期対応と同行支援の実際
第8回	担当教員	立岡 弓子 渡邊一枝 西川貴子
	項目	女性への暴力に対する看護支援について考える

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

クリティーク能力、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加

#### テキスト（教科書等）

花丘ちぐさ編著；ポリヴェーガル理論で読み解く性暴力と癒し、春秋社。  
キッキ・ハンサード著；性的虐待を受けた性暴力サバイバーの支援、株式会社ともあ。

#### 学生へのメッセージ

本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の専攻分野専門科目に相当する（1単位）。

講義コード	5510090	
講義名	ウイメンズヘルスケア実習	
Lecture name	博士前期（母性CNS）	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座
教授	一杉 正仁	社会医学講座（法医学部門）
講師	土川 祥	臨床看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<p>1. ウイメンズヘルス学特論・ウイメンズヘルス看護学演習・女性と暴力・リプロダクティブヘルスと看護で学習した内容を基盤とし、看護を必要とする女性とその家族への質の高い看護実践を行うための、母性CNSに必要な高度なアセスメント能力と実践能力を養う。</p> <p>2. ウイメンズヘルスに関連する複雑な状況をもつ症例を受け持ち、看護過程を展開する中で母性CNSに必要な高度な看護実践能力を養う。</p> <p>3. ウイメンズヘルスに関連する社会的・精神的に複雑な問題を抱える女性とその家族が抱える顕在的・潜在的看護問題を的確に捉え、論理的分析を加えた評価に基づき主体的に看護実践することができる能力を養う。</p> <p>4. 質の高い看護の提供のために必要な多職種連携および協力体制について学ぶ。</p>		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
<p>ウイメンズヘルスケアに関する理論や知識に基づき、母性CNSに必要な看護実践能力を養う。妊娠を望む女性とその家族、がん治療等で妊孕性温存や生殖補助医療を必要とする女性とその家族に対する高度看護実践能力を発揮し、多職種との調整の場における母性CNS・看護職の役割について学ぶ。また、日本版性暴力対応看護師（Sexual Assault Nurse Examiner-Japan: SANE-J）の資格を有する母性看護実践者による、性暴力被害者への対応と看護につい</p>		

て学び、母性CNSの立場から、女性の性暴力被害への看護の実際と課題について考察することで理解を深めることを目的とする。

## 授業内容

### 1. 実習場所

滋賀医科大学附属病院 母子診療科外来・母子女性診療科病棟

滋賀がん・生殖医療ネットワーク (OF-Net Shiga)

南草津野村病院併設 性暴力被害者総合ケアワンストップびわ湖 (SATOCO)

おうみ犯罪被害者支援センター

### 2. 実習期間

2週間以上 (2-3月)

### 3. 実習方法

本実習については、妊孕外来実習か性暴力被害者支援実習かのどちらかを選択するものとする。

以下の高度実践に必要な役割が遂行できるよう学生自身が実習指導教員、実習指導者の指導を受けながら実習内容を計画・立案する自律型実習とする。

#### 1) 妊孕外来実習

妊孕・帝王切開痕症候群 (CSS) 外来、がん妊孕、不妊専門相談の実践を通して、生殖補助医療を必要とする女性とその家族に対する高度看護実践の能力を養う。また、生殖補助医療を行う現場における課題を見出し、その解決・改善策について考案し、提案・実施する。

##### (1) 妊孕・CSS外来

妊孕外来に通う、生殖補助医療を必要とする女性とそのパートナーの事例を1~2例受け持ち、治療と看護ケアについての理解を深める。

1 診療録・看護記録等から情報収集を行い、受け持ち事例に対する意思決定支援や精神面へのケアについて、教員および母性CNSのスーパービジョンを受けながら必要な看護を計画し、実践する。

2 受け持ち事例への看護実践について評価し、次回受診時の看護について計画を行う。学生自身の高度看護実践内容についても振り返りを行う。

3 受け持ち対象が生殖補助医療 (IVF-ET等の処置や手術) を受ける際の看護を実践する。

4 ケースレポートの作成を通して、看護実践の評価と母性CNSの役割について理解を深める。

##### (2) がん妊孕

AYA世代のがん治療等で妊孕性温存や生殖補助医療を必要とする女性の事例を受け持ち、治療と看護ケアについての理解を深める。

1 診療録・看護記録等から情報収集を行い、受け持ち事例に対する意思決定支援や精神面へのケアについて、教員および母性CNS、がん看護CNSのスーパービジョンを受けながら必要な看護を計画し、実践する。

2 受け持ち事例への看護実践について評価し、次回受診時の看護について計画を行う。学生自身の高度看護実践内容についても振り返りを行う。

3 受け持ち事例のケースカンファレンスを企画・開催する。カンファレンスの中で多職種連携

の実際に立ち合い、母性CNSの専門性に基づく役割について学ぶ。

- 4 受け持ち対象が生殖補助医療（IVF-ET等の処置や手術）を受ける際の看護を実践する。
- 5 ケースレポートの作成を通して、看護実践の評価と母性CNSの役割について理解を深める。

### (3) 不妊専門相談（メール・電話・面談）

不妊専門相談センターにおいて行われている相談内容について、相談者のニーズを把握した上で適切な対応について理解を深める。

- 1 不妊相談のメールの内容から、相談者のニーズをアセスメントし、母性CNSによるスーパービジョンを受けた上で、必要な対応（看護）を立案し、実践する。対応の方法は対象に合わせて、メール・電話・面談のいずれかを選択する。
- 2 1回目の相談への対応（実践）の後に、相談者の反応に合わせて、対応を考える。また、学生自身の高度看護実践内容についても振り返りを行う。2回目の実践の機会があれば、母性CNSのスーパービジョンのもと実践する。
- 3 ケースレポートの作成を通して、看護実践の評価と母性CNSの役割について理解を深める。

## 2) 性暴力被害者支援実習

日本版性暴力対応看護師（Sexual Assault Nurse Examiner-Japan: SANE-J）の資格を有する母性看護実践者による、性暴力被害者への対応と看護について学び、母性CNSの立場から、女性の性暴力被害への看護の実際と課題について考察することで理解を深める。

### (1) 性暴力被害者総合ケアワンストップびわ湖（SATOCO）

おうみ犯罪被害者支援センター

SATOCOは性暴力被害者をワンストップで支援するシステムである。1～2例受け持ちを行い、性暴力被害者への電話対応、初期対応（証拠採取）を通じて、対象のニーズや看護の在り方、多職種連携について、母性CNSの立場から理解を深める。

おうみ犯罪被害者支援センターにおいては、SANE-Jの資格を有する母性看護実践者（立岡）と、法医学者（当該施設理事長の一杉）の指導のもと、性暴力被害者への継続的な司法支援・心理的支援等の総合的な支援の実践や支援システムの実際を通じて、性暴力被害を受けた女性への支援方法について理解を深める。

- 1 SANEと共に性暴力被害者への初期対応を行う。その後、初期対応に対するリフレクションをSANEと共に進行。
- 2 次回の支援（看護実践）について、対象の状況に合わせた司法支援・心理支援対応について調整を行い、SANEの助言を得ながら計画する。
- 3 警察やおうみ犯罪被害者支援センター、その他の支援施設との多職種・他施設連携を行い、法的支援・心理支援における看護職の役割を学ぶ。
- 4 ケースレポートの作成を通して、看護実践の評価と母性CNSの役割について理解を深める。

## 授業計画表

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

実習状況、実践結果の自己評価、ケースレポート等を総合的に評価する。

**テキスト（教科書等）**

担当教員から適宜紹介する。

**学生へのメッセージ**

本科目は、母性看護専門看護師教育課程（38単位）の実習科目（2単位）に相当する。

講義コード	5470010	
講義名	呼吸管理学実習 I	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	北川 裕利	麻酔学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
Evidence Based Medicine (EBM) に基づき、 1) 気道確保に関する局所解剖、病態生理が理解できる。 2) 気管チューブの位置調整、気道確保に関するフィジカルアセスメントを実施できる。 3) 気道確保の目的、適応と禁忌について説明できる。 4) 気管チューブの位置調整に伴うリスクを理解し、有害事象発生時の対応ができる。 5) 気道確保、気管チューブの位置調整の手技を安全に実施できる。 6) 対象の状況から看護師が包括的指示で実施可能な範囲を見極め、応用、実践できる。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
気道確保に必要な看護技術、経口（経鼻）気管チューブの位置調整を特定行為として安全に行うために必要な知識、判断、確実な手技を習得し、実践する。また、関係法規を理解し、診療の補助として看護師が実施すべきかを総合的に判断する能力を養う。		
<b>授業内容</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・気道確保に関する局所解剖</li> <li>・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に関する病態生理、フィジカルアセスメント</li> <li>・気管挿管の目的、適応と禁忌、デバイスの種類と適応、呼吸管理法</li> <li>・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の目的、適応と禁忌、位置調整に</li> </ul>		

伴うリスク（有害事象とその対策等）、位置調整の手技

- ・関係法規と手順書改良のプロセス
- ・看護技術として行う意義と安全管理体制

※呼吸器（気道確保に係るもの）管理関連

- ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整

## 授業計画表

呼吸器（気道確保に係るもの）関連：経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整

第1回	担当教員	北川 裕利
	項目	ガイダンス

第2回	担当教員	北川 裕利
	内容	第 2- 5回 <講義> ・気道確保に関する解剖生理、病態生理、疾患・治療、フィジカルアセスメント ・気管挿管の適応と禁忌、 デバイスの種類、合併症 ・特定行為実施に必要な臨床判断、リスク、検査 ・気管チューブの位置の調整の手順と手技、困難事例とトラブルシューティング ・苦痛の緩和

第6回	担当教員	北川 裕利
	内容	<講義> 特定行為と高度実践看護
第7回	担当教員	北川 裕利
	内容	<学内実習> 手順書・実習計画の作成
第8回	担当教員	北川 裕利
	内容	<学内実習> まとめ、オリエンテーション
第9回	担当教員	北川 裕利
	内容	第9-10回 臨地実習
第11回	担当教員	北川 裕利
	内容	<学内実習> 実習カンファレンス
第12回	担当教員	北川 裕利
	内容	第12-14回 臨地実習
第15回	担当教員	北川 裕利
	内容	実習評価・カンファレンス

<b>授業形式・授業形態</b>
一部e-learningあり。 筆記試験、客観的臨床能力試験に合格後に実習となる。所属施設での実習。
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
筆記試験、客観的臨床能力試験、実習の観察評価を重視し、その他（提出物、出席状況、授業に取り組む姿勢など）を加味し、総合的に評価します。
<b>テキスト（教科書等）</b>
【参考文献】 周術期管理チームテキスト（第2版）新書 公益社団法人 日本麻酔科学会 プロシージャーズ・コンサルト日本版（臨床手技データベース） エルゼビア・ジャパン株式会社
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
tokutei@belle.shiga-med.ac.jp 077-548-3573
<b>学生へのメッセージ</b>
高度実践コース（特定行為領域）の院生を対象とする。

講義コード	5470020	
講義名	呼吸管理学実習Ⅱ	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	4	
時間	120.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	北川 裕利	麻酔学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
Evidence Based Medicine (EBM) に基づき、 1) 人工呼吸療法に関する局所解剖、主要疾患の病態生理について理解できる。 2) 人工呼吸療法の目的、適応と禁忌について説明できる。 3) 人工呼吸療法を要する対象に必要なフィジカルアセスメントが実践できる。  人工呼吸療法管理（侵襲的・非侵襲的用圧換気、鎮静、離脱、の調整）において、 4) 調整に伴うリスクを理解し、有害事象発生時の対応ができる。 5) 手技を安全安楽に実施できる。 6) 対象の状況から看護師が包括的指示で実施可能な範囲を見極め、応用、実践できる。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
人工呼吸療法（侵襲的・非侵襲的陽圧換気の設定、鎮静剤投与量、離脱）の調整を特定行為として安全に行うため必要な知識、判断、技術を習得して実践する。		
<b>授業内容</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工呼吸療法に関する局所解剖</li> <li>・人工呼吸療法の目的、適応と禁忌、</li> <li>・主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント</li> <li>・人工呼吸器管理の適応と禁忌</li> </ul>		

- ・人工呼吸器のメカニズム・種類・特徴
- ・調整に伴うリスク、有害事象発生時の対応
- ・関係法規と手順書改良のプロセス
- ・人工呼吸療法中の看護ケア
- ・看護技術として行う意義と安全管理体制

※呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）管理関連

- ・侵襲的陽圧換気の設定の変更
- ・非侵襲的陽圧換気の設定の変更
- ・人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整
- ・人工呼吸器からの離脱

**授業計画表**

呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連

第1回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	ガイダンス
第2回	担当教員	北川 裕利
	項目	侵襲的陽圧換気、及び非侵襲的陽圧換気の設定の変更
	内容	第2-10回 <講義> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖生理、病態生理、疾患・治療、フィジカルアセスメント</li> <li>・適応と禁忌、換気モードと特徴、合併症</li> <li>・特定行為実施に必要なとなる臨床判断、リスク、検査</li> <li>・陽圧換気の設定変更の方法、困難事例とトラブルシューティング</li> <li>・苦痛の緩和</li> <li>・まとめ</li> </ul>
第11回	担当教員	北川 裕利
	項目	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整
	内容	第11-15回<講義> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鎮静の目的、疾患・治療、フィジカルアセスメント</li> <li>・薬剤の種類と特徴、適応と禁忌、副作用とその対応</li> <li>・特定行為実施に必要なとなる臨床判断、リスク、検査</li> <li>・投与量調整の方法</li> <li>・まとめ</li> </ul>
第16回	担当教員	北川 裕利
	項目	人工呼吸器からの離脱
	内容	第16-20回 <講義> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィジカルアセスメント</li> <li>・人工呼吸器の離脱の流れ（SAT/SBT）、適応基準と禁忌、合併症</li> <li>・特定行為実施に必要なとなる臨床判断、リスク、検査</li> </ul>

		・人工呼吸器の離脱の方法、トラブルシューティング ・まとめ
第21回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第21-24回<講義> 特定行為と高度実践看護
第25回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第25-27回<学内実習> 手順書・実習計画の作成
第28回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第28-29回<学内実習> まとめ・実習オリエンテーション
第30回	担当教員	北川 裕利
	項目	侵襲的陽圧換気の設定の変更
	内容	第30-42回 臨地実習、実習評価・カンファレンス
第43回	担当教員	北川 裕利
	項目	非侵襲的陽圧換気の設定の変更
	内容	第43-55回 臨地実習、実習評価・カンファレンス
第56回	担当教員	北川 裕利
	項目	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整
	内容	第56-68回 臨地実習、実習評価・カンファレンス
第69回	担当教員	北川 裕利
	項目	人工呼吸器からの離脱
	内容	第69-79回 臨地実習、実習評価・カンファレンス
第80回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	総括

#### 授業形式・授業形態

一部e-learningあり。

筆記試験に合格後に実習となる。所属施設での実習。

<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
筆記試験、実習の観察評価を重視し、その他（提出物、出席状況、授業に取り組む姿勢など）を加味し、総合的に評価します。
<b>テキスト（教科書等）</b>
<p>【参考文献】</p> <p>ICU実践ハンドブック―病態ごとの治療・管理の進め方 羊土社（2009）</p> <p>ウエスト呼吸生理学入門:正常肺編 第2版 メディカルサイエンスインターナショナル JOHIN B.WEST,訳）桑平一郎（2017）</p> <p>ウエスト呼吸生理学入門:肺疾患編 メディカルサイエンスインターナショナル JOHIN B.WEST,訳）堀江孝至（2009）</p> <p>ヘスとカクマレックのTHE人工呼吸ブック 第2版 メディカルサイエンスインターナショナル Dean R Hess , 訳）田中竜馬ら（2015）</p> <p>レジデントのためのやさしい胸部画像教室[ベストティーチャーに教わる胸部X線の読み方考え方] 長尾大志 日本医事新報社（2014）</p> <p>人工呼吸療法における30の謎 安本 和正 小谷 透 克誠堂出版（2008）</p>
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
tokutei@belle.shiga-med.ac.jp 077-548-3573
<b>学生へのメッセージ</b>
高度実践コース（特定行為領域）の院生を対象とする。

講義コード	5470030	
講義名	呼吸管理学実習Ⅲ	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	北川 裕利	麻酔学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
Evidence Based Medicine (EBM) に基づき、 1) 気管切開に関する局所解剖、病態生理が理解できる。 2) 気管切開を要する主要疾患のフィジカルアセスメントを実施できる。 3) 気管切開の目的、適応と禁忌について説明できる。 4) 気管切開、カニューレ交換に伴うリスクを理解し、有害事象発生時の対応ができる。 5) 適切な気管カニューレの種類を選択できる。 6) 気管カニューレの交換の困難例の種類とその対応について説明できる。 7) 気管カニューレ交換の手技を安全安楽に実施できる。 8) 対象の状況から看護師が包括的指示で実施可能な範囲を見極め、応用、実践できる。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
長期呼吸療法に必要となる看護技術、特定行為として気切チューブの交換を安全に行うための臨床判断やその方法を修得する。また、実施に伴うリスクの予測と対処法を修得する。関係法規を理解し、専門職として看護師が診療の補助において実施すべき範囲を見極め、応用、実践する能力を養う。学びを統合して臨床で実践する。		
<b>授業内容</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・気管切開に関する局所解剖、病態生理</li> <li>・主要疾患のフィジカルアセスメント</li> </ul>		

- ・気管切開の目的、適応と禁忌、
- ・気管切開に伴うリスク（有害事象とその対策）
- ・気管カニューレの適応と禁忌、気管カニューレの構造と選択、安全な交換手技
- ・気管カニューレの交換の困難例の種類とその対応
- ・気管カニューレ留置中の看護ケア
- ・関係法規と手順書改良のプロセス

※呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連

- ・気管カニューレの交換

## 授業計画表

呼吸器（長期人工呼吸療法）に係るもの関連

第1回	担当教員	北川 裕利
	項目	気管カニューレの交換
	内容	ガイダンス
第2回	担当教員	北川 裕利
	項目	気管カニューレの交換
	内容	第2-5回 <講義> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気道切開に関する解剖生理、病態生理、疾患・治療、フィジカルアセスメント</li> <li>・気管切開の目的、適応と禁忌、デバイスの種類と特徴、合併症</li> <li>・特定行為実施に必要なとなる臨床判断、リスク、検査</li> <li>・気管カニューレの交換の手順と手技、困難事例とトラブルシューティング</li> <li>・苦痛の緩和</li> <li>・まとめ</li> </ul>
第6回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	<講義> 特定行為と高度実践看護
第7回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第7-8回 <学内実習> 手順書・実習計画の作成
第9回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第9-14回 臨地実習

第15回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	総括、実習評価・カンファレンス

#### 授業形式・授業形態

一部e-learningあり。

筆記試験、客観的臨床能力試験に合格後に実習となる。所属施設での実習。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

筆記試験、客観的臨床能力試験、実習の観察評価を重視し、その他（提出物、出席状況、授業に取り組む姿勢など）を加味し、総合的に評価します。

#### 参考文献等

##### 【参考文献】

プロシージャーズ・コンサルト日本版（臨床手技データベース） エルゼビア・ジャパン株式会社（附属図書館ホームページから）

看護師呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連 地域医長機能推進学会（制）地域医療機能推進機構（監）メディカ出版 2018

#### オフィスアワー(授業相談)

tokutei@belle.shiga-med.ac.jp 077-548-3573

#### 学生へのメッセージ

高度実践コース（特定行為領域）の院生を対象とする。

講義コード	5470110	
講義名	循環管理学実習 I	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	3	
時間	90.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	北川 裕利	麻酔学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
Evidence Based Medicine (EBM) に基づき、 1) 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、安全に一時的ペースメーカーの操作及び管理と抜去、経皮的心肺補助装置の操作及び管理、大動脈内バルーンポンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整ができるようになる。 2) 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。 3) 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。 4) 実施、報告の一連の流れが適切に行える。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
一時的ペースメーカー操作と管理、同リード抜去、経皮的心肺補助装置の操作や管理、大動脈内バルーンポンピング離脱時の補助の頻度調整を特定行為として安全安楽に行うために必要な知識、判断、技術を習得し、実践する。実機を用いた講義や実習を行う。		
<b>授業内容</b>		
生体侵襲や難易度の高い、一時的ペースメーカーの操作及び管理、一時的ペースメーカーリードの抜去、経皮的心肺補助装置の操作及び管理、大動脈内バルーンポンピングからの離脱を行う時の補助の調整について、急性期患者の病状観察と変化を予見しながら対応するトレーニングを		

行う。対象となる主要疾患からは、治療中での急変もあり得るため、その対応について習得した上で実習に臨む。

## 授業計画表

### 循環器関連

第1回	担当 教員	北川 裕利
	項目	
	内容	ガイダンス
第2回	担当 教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第2-4回 <講義> 循環器関連 総論 ・一時的ペースメーカー、経皮的心肺補助装置、大動脈内バルーンパンピングに関する局所解剖、主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント
第5回	担当 教員	北川 裕利
	項目	一時的ペースメーカーの操作及び管理、一時的ペースメーカーリードの抜去の方法
	内容	第5-8回 <講義> ・一時的ペースメーカーの目的、適応と禁忌、患者・家族への指導及び教育、器械の種類とメカニズム、ペースメーカーの操作及び管理方法、モード選択と適応、リスク（有害事象とその対策等）、一時的ペースメーカーリードの抜去の方法、リスク
第9回	担当 教員	北川 裕利
	項目	経皮的心肺補助装置の操作及び管理
	内容	第9-11回 <講義> ・経皮的心肺補助装置の目的、適応と禁忌、装置のメカニズム、離脱時の調整

の判断、方法、リスク（有害事象とその対策等）

第12回	担当 教員	北川 裕利
	項目	大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整
	内容	第12-14回 <講義> 大動脈内バルーンパンピングの目的、適応と禁忌、リスク（有害事象とその対策等）、操作及び管理の方法、離脱のための補助の頻度の調整
第15回	担当 教員	北川 裕利
	項目	
	内容	特定行為と高度実践看護
第16回	担当 教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第16-17回 <学内実習> 手順書・実習計画の作成
第18回	担当 教員	北川 裕利
	項目	
	内容	学内実習・オリエンテーション
第19回	担当 教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第19-30回 一時的ペースメーカーの操作及び管理 臨地実習
第31回	担当 教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第31-42回 一時的ペースメーカーリードの抜去 臨地実習
第43回	担当 教員	北川 裕利
	項目	
	内容	実習評価・カンファレンス

第44回

	担当 教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第44-55回 経皮的心肺補助装置の操作及び管理 臨地実習
第56回	担当 教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第56回 実習評価・カンファレンス
第57回	担当 教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第57-68回 大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整 臨地 実習
第69回	担当 教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第69回 実習評価・実習カンファレンス
第70回	担当 教員	北川 裕利
	項目	
	内容	総括

#### 授業形式・授業形態

一部e-learningあり。  
筆記試験、客観的臨床能力試験に合格後に実習となる。所属施設での実習。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

筆記試験、客観的臨床能力試験、実習の観察評価を重視し、その他（提出物、出席状況、授業に取り組む姿勢など）を加味し、総合的に評価します。

#### 参考文献等

診察と手技が見えるVol.2 第2版 メディックメディア 2016、 めざせ！血管エコー職人  
第1版 山本哲也 中外医学社 2016  
プロシージャーズ・コンサルト日本版（臨床手技データベース） エルゼビア・ジャパン株式会  
社（附属図書館ホームページから）

#### オフィスアワー(授業相談)

tokutei@bell.shiga-med.ac.jp  
077-548-3573

<b>学生へのメッセージ</b>
------------------

高度実践コース（特定行為領域）の院生を対象とする。
---------------------------

講義コード	5470120	
講義名	循環管理学実習Ⅱ	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	2	
時間	60.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
所属名称		ナンバリングコード
担当教員		
職種	氏名	所属
教授	北川 裕利	麻酔学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
Evidence Based Medicine (EBM) に基づき、 1) 動脈血液ガス分析が必要な病態を理解できる。 2) 対象の病状と動脈血液ガスデータを解釈し、リスクの再評価や実施した特定行為の評価を踏まえた報告ができる。 3) 直接動脈穿刺法による動脈血液採血を安全安楽に実施できる。 4) 橈骨動脈ラインの確保を安全安楽に実施できる。 5) 対象の状況から看護師が包括的指示で実施可能な範囲を見極め、応用、実践できる。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
直接動脈穿刺法による採血や橈骨動脈ライン確保を特定行為として安全安楽に行うために必要な知識、判断、確実な手技を習得し、実践する。また、血液ガス分析結果の解釈の理解を深める。		
<b>授業内容</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動脈血液ガス分析が必要な主要疾患、病態生理</li> <li>・ 動脈穿刺法に関する局所解剖、フィジカルアセスメント</li> <li>・ 超音波検査による基本的知識、操作方法</li> <li>・ 動脈血採取が必要となる検査</li> <li>・ 安全な直接動脈穿刺法と 橈骨動脈ラインの確保の手技</li> </ul>		

- ・動脈穿刺法によるリスクと合併症
- ・動脈ライン確保中の看護ケア
- ・関係法規と手順書改良のプロセス

※動脈血液ガス分析関連

- ・直接動脈穿刺法による採血
- ・橈骨動脈ラインの確保

**授業計画表**

動脈血液ガス分析関連

第1回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	ガイダンス
第2回	担当教員	北川 裕利
	項目	直接動脈穿刺法による採血 橈骨動脈ラインの確保
	内容	第2-10回 <講義> ・全身の血管に関する解剖生理、病態生理、疾患・治療、フィジカルアセスメント ・動脈血液ガス分析の目的、適応と禁忌、合併症、検査データの見方 ・特定行為実施に必要な臨床判断、リスク、検査 ・動脈血採血の手順と手技、困難事例とトラブルシューティング ・苦痛の緩和 ・まとめ
第11回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	特定行為と高度実践看護
第12回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第12-13回 <学内実習>手順書・実習計画の作成
第14回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	<学内実習> まとめ・オリエンテーション
第15回	担当教員	北川 裕利

	<b>項目</b>	直接動脈穿刺法による採血
	<b>内容</b>	第15-26回 臨地実習
第27回	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	
	<b>内容</b>	<学内実習>実習評価・カンファレンス
第28回	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	橈骨動脈ラインの確保
	<b>内容</b>	第28-39回 臨地実習
第40回	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	
	<b>内容</b>	総括、実習評価・カンファレンス

#### 授業形式・授業形態

一部e-learningあり。

筆記試験、客観的臨床能力試験に合格後に実習となる。所属施設での実習。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

筆記試験、客観的臨床能力試験、実習の観察評価を重視し、その他（提出物、出席状況、授業に取り組む姿勢など）を加味し、総合的に評価します。

#### 参考文献等

診察と手技が見えるVol.2 第2版 メディックメディア 2016、めざせ！血管エコー職人  
第1版 山本哲也 中外医学社 2016

プロシージャーズ・コンサルト日本版（臨床手技データベース）エルゼビア・ジャパン株式会社（附属図書館ホームページから）

#### オフィスアワー(授業相談)

tokutei@bell.shiga-med.ac.jp

077-548-3573

#### 学生へのメッセージ

高度実践コース（特定行為領域）の院生を対象とする。

講義コード	5470130							
講義名	循環管理学実習Ⅲ							
Lecture name	博士前期							
代表ナンバリングコード								
講義開講時期	通年							
講義区分	実習							
基準単位数	2							
時間	60.00							
代表曜日								
代表時限								
ナンバリングコード								
<table border="1" style="width:100%"> <tr> <td style="width:30%"><b>所属名称</b></td> <td><b>ナンバリングコード</b></td> </tr> </table>			<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>				
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>							
担当教員								
<table border="1" style="width:100%"> <thead> <tr> <th style="width:15%">職種</th> <th style="width:55%">氏名</th> <th style="width:30%">所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教授</td> <td>北川 裕利</td> <td>麻酔学講座</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教授	北川 裕利	麻酔学講座
職種	氏名	所属						
教授	北川 裕利	麻酔学講座						
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>								
急性血液浄化療法中の患者管理や血液透析器の操作などを特定行為として安全安楽に行うために必要な知識、判断、技術を習得し、実践する。								
<b>授業内容</b>								
※透析管理関連								
<b>授業計画表</b>								
<b>授業形式・授業形態</b>								
一部e-learningあり。 筆記試験に合格後に実習となる。								
<b>成績評価方法(成績評価基準を含む)</b>								
筆記試験、実習の観察評価を重視し、その他(提出物、出席状況、演習などでの授業に取り組む姿勢など)を加味し、総合的に評価します。								

講義コード	5470140	
講義名	循環管理学実習Ⅳ	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	4	
時間	120.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	北川 裕利	麻酔学講座

### 学修目標(到達目標)

Evidence Based Medicine (EBM) に基づき

- 1) 循環動態作用薬が必要となる必要な主要疾患の病態生理を説明できる。
- 2) 循環動態作動薬（カテコラミン、ナトリウム、カリウム又はクロール、降圧剤、糖質輸液又は電解質輸液、利尿剤）の薬理作用を説明できる。
- 3) 循環作動薬の投与量の調整に必要なフィジカルアセスメントを実践できる。
- 4) 対象の状況から看護師が包括的指示で実施可能な範囲を見極め、応用、実践できる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

循環管理に必要な看護技術、特定行為として持続点滴中の循環動態作動薬（カテコラミン、ナトリウム、カリウム又はクロール、降圧剤、糖質輸液又は電解質輸液、利尿剤）の投与量の調整に必要な知識・臨床判断やその調整方法を修得する。また、実施に伴うリスクの予測と対処法を修得する。関係法規を理解し、専門職として看護師が診療の補助において実施すべき範囲を見極め、応用、実践する能力を養う。学びを統合して臨床で実践する。

### 授業内容

- ・循環動態に作用する薬物療法が必要となる主要疾患の症状と病態生理、検査、診断基準、治療、フィジカルアセスメント
- ・循環動態作動薬（カテコラミン、ナトリウム、カリウム又はクロール、降圧剤、糖質輸液又は電解質輸液、利尿剤）の投与量の調整とその方法

## 授業計画表

### 循環動態に係る薬剤投与関連

第1回	担当教員	北川 裕利 ガイダンス
	項目	
	内容	
第2回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第2-3回 <講義> ・循環器系の解剖生理、病態生理、疾患・症状、検査・治療、フィジカルアセスメント
第4回	担当教員	北川 裕利
	項目	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整
	内容	第4-7回 <講義> ・薬剤の適応と禁忌、種類、副作用 ・特定行為実施に必要となる臨床判断、リスク、検査 ・薬剤投与量の調整の方法、トラブルシューティング
第8回	担当教員	北川 裕利
	項目	持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整
	内容	第8-11回 <講義> ・薬剤の適応と禁忌、種類、副作用 ・特定行為実施に必要となる臨床判断、リスク、検査 ・薬剤投与量の調整の手順、トラブルシューティング
第11回	担当教員	北川 裕利
	項目	実習オリエンテーション
	内容	
第12回	担当教員	北川 裕利
	項目	持続点滴中の降圧剤の投与量の調整
	内容	第12-15回 <講義> ・薬剤の適応と禁忌、種類、副作用 ・特定行為実施に必要となる臨床判断、リスク、検査 ・薬剤投与量の調整の手順、トラブルシューティング
第16回	担当教員	北川 裕利

	<b>項目</b>	持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整
	<b>内容</b>	第16-19回 <講義> ・薬剤の適応と禁忌、種類、副作用 ・特定行為実施に必要なとなる臨床判断、リスク、検査 ・薬剤投与量の調整の手順、トラブルシューティング
第20回	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	持続点滴中の利尿剤の投与量の調整
	<b>内容</b>	第20-23回 <講義> ・薬剤の適応と禁忌、種類、副作用 ・特定行為実施に必要なとなる臨床判断、リスク、検査 ・薬剤投与量の調整の手順、トラブルシューティング
第24回	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	
	<b>内容</b>	第24回 特定行為と高度実践
第25回	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	
	<b>内容</b>	第25-27回 <実習> 手順書・実習計画の作成
第28回	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	
	<b>内容</b>	第28回 <学内実習> 実習オリエンテーション
第29回	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	
	<b>内容</b>	第29回 学内実習
第30回	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整
	<b>内容</b>	第30-40回 臨地実習、実習評価、カンファレンス
第41回	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整
	<b>内容</b>	第41-50回 臨地実習、実習評価、カンファレンス

第51回

	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	持続点滴中の降圧剤の投与量の調整
	<b>内容</b>	第51-60回 臨地実習、実習評価、カンファレンス
<b>第61回</b>	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整
	<b>内容</b>	第61-70回 臨地実習、実習評価、カンファレンス
<b>第71回</b>	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	持続点滴中の利尿剤の投与量の調整
	<b>内容</b>	第71-79回 臨地実習、実習評価、カンファレンス

#### 授業形式・授業形態

一部e-learningあり。  
筆記試験に合格後に実習となる。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

筆記試験、実習の観察評価を重視し、その他（提出物、出席状況、演習などでの授業に取り組む姿勢など）を加味し、総合的に評価します。

#### 参考文献等

ICU実践ハンドブック―病態ごとの治療・管理の進め方 羊土社（2009）

#### オフィスアワー(授業相談)

tokutei@bell.shiga-med.ac.jp  
077-548-3573

#### 学生へのメッセージ

高度実践コース（特定行為領域）の院生を対象とする。

講義コード	5470210	
講義名	外科管理学実習 I	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	2	
時間	60.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	北川 裕利	麻酔学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
Evidence Based Medicine (EBM) に基づき 1) 対象の治療方針を理解し、胸腔ドレーンの管理ができる。 2) 手順書により、身体所見及び検査結果等が指示された病状の範囲にあることを確認し、安全安楽に腹腔ドレーンの抜去ができる。 3) 対象の病状にあった吸引圧の設定と変更ができる。 4) 抜去に必要な抜糸、縫合又は結紮閉鎖などの外科的基本手技ができる。 5) 対象の状況から看護師が包括的指示で実施可能な範囲を見極め、応用、実践できる。 6) 手順書案を作成し、再評価、修正できる。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
胸腔ドレーン挿入中の患者管理や低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定や変更、胸腔ドレーン抜去を特定行為として安全安楽に行うために必要な知識、判断、確実な手技を習得し、実践する。		
<b>授業内容</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・胸腔ドレナージに関する局所解剖、主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント</li> <li>・胸腔ドレナージの目的、適応と禁忌、ドレナージに伴うリスク（有害事象とその対策等）</li> <li>・腹腔ドレーンの抜去の適応と禁忌、ドレーン抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等）、安全な抜去の方法と手技</li> </ul>		

- ・低圧胸腔内持続吸引の適応と禁忌、持続吸引に伴うリスク（有害事象とその対策等）
- ・低圧胸腔内持続吸引器の構造、吸引圧の設定及びその変更方法

※胸腔ドレーン管理関連

- ・低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更
- ・胸腔ドレーンの抜去

## 授業計画表

### 授業形式・授業形態

一部e-learningあり。  
筆記試験に合格後に実習となる。

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

筆記試験、実習の観察評価を重視し、その他（提出物、出席状況、演習など授業に取り組む姿勢など、）を加味し、総合的に評価します。

### テキスト（教科書等）

資料は配布する。

### 参考文献等

診察と手技が見えるVol.1 第2版 メディックメディア 2015  
プロシージャーズ・コンサルト日本版（臨床手技データベース） エルゼビア・ジャパン株式会社  
Procedures Consult：「結紮（両手法）・（片手法）・（器械結び）」、「縫合」

### オフィスアワー(授業相談)

tokutei@belle.shiga-med.ac.jp  
077-548-3573

### 学生へのメッセージ

高度実践コース（特定行為領域）の院生を対象とする。

講義コード	5470220							
講義名	外科管理学実習Ⅱ							
Lecture name	博士前期							
代表ナンバリングコード								
講義開講時期	通年							
講義区分	実習							
基準単位数	2							
時間	60.00							
代表曜日								
代表時限								
ナンバリングコード								
<table border="1"> <tr> <td>所属名称</td> <td>ナンバリングコード</td> </tr> </table>			所属名称	ナンバリングコード				
所属名称	ナンバリングコード							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教授</td> <td>喜多 伸幸</td> <td>臨床看護学講座</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座
職種	氏名	所属						
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座						
<b>学修目標(到達目標)</b>								
<p>・医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、腹腔ドレーンの抜去ができるようになる。・手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。・医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。・実施、報告の一連の流れが適切に行える。</p>								
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>								
<p>腹腔ドレーンの必要性やその特徴を理解し、腹腔ドレーンの抜去を実践できる。</p> <p>・医師の指示の下、手順書により、身体所見（排液の性状や量、腹痛の程度、挿入部の状態等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、腹腔内に挿入・留置されているドレーン又は穿刺針を抜去する。抜去部は、縫合、結紮閉鎖又は閉塞性ドレッシング剤の貼付を行う。縫合糸で固定されている場合は抜糸を行うことができる。</p>								
<b>授業内容</b>								
<p>特定行為区分共通して学ぶ事項 1. 腹腔ドレナージに関する局所解剖2. 腹腔ドレナージを要する主要疾患の病態生理3. 腹腔ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメント4. 腹腔ドレナージの目的5. 腹腔ドレナージの適応と禁忌6. 腹腔ドレナージに伴うリスク（有害事象とその対策等）</p> <p>特定行為ごとに学ぶ事項 1. 腹腔ドレーンの抜去の適応と禁忌2. 腹腔ドレーンの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等） 3. 腹腔ドレーンの抜去の方法と手技</p>								

<b>授業計画表</b>
<b>授業形式・授業形態</b>
スクーリングとe-ラーニングによる講義。実習前にはシミュレーションを実施する。筆記試験あり。患者に対して行う臨地実習は、これを合格した者が実施できる。
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
筆記試験、実習の観察評価を重視し、その他（提出物、出席状況、演習など授業に取り組む姿勢など、）を加味し、総合的に評価します。 全日病S-QE看護師特定行為研修e-ラーニングの授業は、コマ毎に確認テストがあります。
<b>学生へのメッセージ</b>
事前学習をしているものとして講義はすすめます。レポートなど提出物は、指定日時を守ること。

講義コード	5470230	
講義名	外科管理学実習Ⅲ	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<p>創部ドレナージに関する局所解剖が理解できる。創部ドレナージを要する主要疾患の病態生理が理解できる。創部ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメントを行うことができる。創部ドレナージの目的について説明できる。創部ドレナの抜去の適応と禁忌について説明できる。創部ドレナの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等）について説明できる。創部ドレナの抜去の方法と手技を理解できる。</p>		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
<p>皮下組織の解剖生理と、創傷の治癒過程、ドレナージが必要な病態、ドレナージによる影響、ドレナの構造や種類・機能、ドレナ留置による合併症についての正しい理解と、ドレナを抜去する、合併症発生時に対応する技術、創傷管理を行う医療チームの一員として協働する姿勢を養うこと。</p>		
<b>授業内容</b>		
<p>特定行為区分共通して学ぶ事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 創部ドレナージに関する局所解剖</li> <li>2) 創部ドレナージを要する主要疾患の病態生理</li> <li>3) 創部ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメント</li> <li>4) 創部ドレナージの目的</li> <li>5) 創部ドレナージの適応と禁忌</li> </ol>		

6) 創部ドレナージに伴うリスク (有害事象とその対策等)

特定行為ごとに学ぶ事項

- (1) 創部ドレーンの抜去の適応と禁忌
- (2) 創部ドレーンの抜去に伴うリスク (有害事象とその対策等)
- (3) 創部ドレーンの抜去の方法と手技

**授業計画表**

**授業形式・授業形態**

スクーリングによる講義、実習。実習前にはシミュレーションを実施する。筆記試験あり、患者に対して行う臨地実習は、これを合格した者が実施できる。

**学生へのメッセージ**

事前学習しているものとして講義はすすめます。レポートなど提出物は、指定日時を守ること。

モデルを使った実習時間内だけでの手技の習得は困難です。事前に参考図書・センターの教材を利用し練習しておくこと。

講義コード	5470240	
講義名	外科管理学実習Ⅳ	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	2	
時間	60.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	北川 裕利	麻酔学講座
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
心嚢ドレーン挿入中の患者管理や心嚢ドレーン抜去を特定行為として安全に行うために必要な知識、判断、確実な手技を習得し、実践する。		
<b>授業内容</b>		
※心嚢ドレーン管理関連		
<b>授業計画表</b>		
<b>授業形式・授業形態</b>		
一部e-learningあり。 筆記試験に合格後に実習となる。 所属施設での実習。		
<b>成績評価方法(成績評価基準を含む)</b>		
筆記試験、実習の観察評価を重視し、その他(提出物、出席状況、演習など授業に取り組む姿勢など、)を加味し、総合的に評価します。		

講義コード	5470310	
講義名	栄養管理学実習 I	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	2	
時間	60.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
高血糖、低血糖の病態を正しく理解し、血糖コントロールを適切におこなうために必要な臨床判断力や実践力を身につける。また、血糖管理における合併症と看護ケアに関する知識とスキルを習得する。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
高血糖、低血糖の病態について学ぶ。 各種糖質輸液、電解質輸液の種類と特徴について学ぶ。 各種糖質輸液、電解質輸液の適応と使用方法について学ぶ。 病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整方法について学ぶ。		
<b>授業内容</b>		
高血糖、低血糖の病態。 各種糖質輸液、電解質輸液の種類と特徴 各種糖質輸液、電解質輸液の適応と使用方法 病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整方法 糖質輸液、電解質輸液の合併症と対策		

<b>授業計画表</b>
特定行為研修のカリキュラムにそってe-learningと講義、実習をおこなう
<b>授業形式・授業形態</b>
スクリーニングによる講義と実習。
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
筆記試験、レポートなど
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
毎週金曜日の12:00～13:00、電話、メールなどで事前に主担当教員にアポイントを取ること。
<b>学生へのメッセージ</b>
必ず出席をしてください。万が一、欠席される際には事前に必ずWebClassより欠席の連絡を入れてください。

講義コード	5470320
講義名	栄養管理学実習Ⅱ
Lecture name	博士前期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	3
時間	90.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座

### 学修目標(到達目標)

- ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうの交換に関する局所解剖が理解できる。
- ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうを有する患者の病態整理が理解できる。
- ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうを有する患者のフィジカルアセスメントが実施できる。
- ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうの交換の目的について理解できる。
- ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうの交換の適応と禁忌について理解できる。
- ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうの交換に伴うリスクについて理解できる。
- ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうの交換の方法と手技を理解できる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

- ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうの交換に関する局所解剖。
- ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうを有する患者の病態生理。
- ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうを有する患者のフィジカルアセスメント
- ・胃ろうカテーテル、胃ろうボタン、腸ろうカテーテル、膀胱ろうカテーテルの種類と特徴
- ・胃ろう、腸ろう、膀胱ろうの交換について
  - 目的
  - 適応と禁忌
  - 手技
  - 合併症

<b>授業内容</b>
スクリーニングによる講義と実習。筆記試験とOSCEあり。患者に対する臨地実習は、これらを合格した者が実施できる。
<b>授業計画表</b>
特定行為研修のカリキュラムにそってe-learningと講義、実習をおこなう
<b>授業形式・授業形態</b>
スクリーニングによる講義、実習。
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
筆記試験、OSCE、実習の観察評価を重視し、出席状況やレポートなども加味して総合的に評価する。
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
毎週金曜日の12:00～13:00、電話、メールなどで事前に主担当教員にアポイントを取ること。
<b>学生へのメッセージ</b>
必ず出席をしてください。万が一、欠席される際には事前に必ずWebClassより欠席の連絡を入れてください。

講義コード	5470330
講義名	栄養管理学実習Ⅲ
Lecture name	博士前期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	1
時間	30.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座

### 学修目標(到達目標)

- ・ 中心静脈カテーテル管理のための局所解剖が理解できる。
- ・ 中心静脈カテーテルを有する患者の病態整理が理解できる。
- ・ 中心静脈カテーテルを有する患者のフィジカルアセスメントが実施できる。
- ・ 中心静脈栄養の目的について理解できる。
- ・ 中心静脈栄養の適応と禁忌について理解できる。
- ・ 中心静脈栄養に関する合併症と対策について理解する。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

中心静脈カテーテルを用いた栄養管理に必要な知識と技術を理解し、患者に対し安全に特定行為を実施することができる。

### 授業内容

- ・ 中心静脈カテーテル管理に関する局所解剖。
- ・ 中心静脈カテーテルを有する患者の病態生理。
- ・ 中心静脈カテーテルを有する患者のフィジカルアセスメント
- ・ 中心静脈カテーテルの種類と特徴

- ・ 中心静脈カテーテル挿入と抜去の手技について
- ・ 中心静脈栄養の適応と禁忌について
- ・ 中心静脈栄養の合併症と対策について

#### **授業計画表**

特定行為研修のカリキュラムにそってe-learningと講義、実習をおこなう

#### **授業形式・授業形態**

スクリーニングによる講義と実習。筆記試験を実施する。

#### **成績評価方法（成績評価基準を含む）**

筆記試験、OSCE、実習の観察評価を重視し、出席状況やレポートなども加味して総合的に評価する。

#### **オフィスアワー(授業相談)**

毎週金曜日の12:00～13:00、電話、メールなどで事前に主担当教員にアポイントを取ること。

#### **学生へのメッセージ**

必ず出席をしてください。万が一、欠席される際には事前に必ずWebClassより欠席の連絡を入れてください。

講義コード	5470340	
講義名	栄養管理学実習Ⅳ	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	2	
時間	60.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
所属名称	ナンバリングコード	
担当教員		
職種	氏名	所属
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PICC挿入・管理のための局所解剖が理解できる。</li> <li>・ PICCを有する患者の病態整理が理解できる。</li> <li>・ PICCを有する患者のフィジカルアセスメントが実施できる。</li> <li>・ PICCを挿入する目的について理解できる。</li> <li>・ PICCを挿入する適応と禁忌について理解できる。</li> <li>・ PICCを挿入するリスクについて理解できる。</li> <li>・ PICC挿入に関する合併症と対策について理解する。</li> </ul>		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 末梢型中心静脈カテーテル (PICC)管理に必要な知識とスキルを習得する。</li> <li>・ 手順書に基づき、特定行為の対象となる患者の病態の範囲から、PICCを挿入・管理するスキルを学ぶ。</li> </ul>		
<b>授業内容</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PICC挿入に関する局所解剖。</li> <li>・ PICCを有する患者の病態生理。</li> <li>・ PICCを有する患者のフィジカルアセスメント</li> <li>・ PICCの種類と特徴</li> <li>・ PICC挿入の手技について</li> </ul>		

- ・ PICC挿入の適応と禁忌について
- ・ PICCの合併症と対策について

#### **授業計画表**

特定行為研修のカリキュラムにそってe-learningと講義、実習をおこなう

#### **授業形式・授業形態**

スクリーニングによる講義と実習。筆記試験とOSCEあり。患者に対する臨地実習は、これらを合格した者が実施できる。

#### **成績評価方法（成績評価基準を含む）**

筆記試験、OSCE、実習の観察評価を重視し、出席状況やレポートなども加味して総合的に評価する。

#### **オフィスアワー(授業相談)**

毎週金曜日の12:00～13:00、電話、メールなどで事前に主担当教員にアポイントを取ること。

#### **学生へのメッセージ**

必ず出席をしてください。万が一、欠席される際には事前に必ずWebClassより欠席の連絡を入れてください。

講義コード	5470350	
講義名	栄養管理学実習V	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	3	
時間	90.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・水・電解質バランスの必要性について理解する。</li> <li>・水・電解質の補給の適応と禁忌について理解する。</li> <li>・栄養管理に必要な高カロリー輸液の適応と禁忌について理解する。</li> <li>・高カロリー輸液患者の病態を理解し、高カロリー輸液の投与量の調整ができる。</li> <li>・脱水症状の患者に対して、安全に輸液による補正ができる。</li> </ul>		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養・水分管理に係る薬剤投与に必要な知識とスキルを習得する。</li> <li>・手順書に基づき、特定行為の対象となる患者の病態の範囲から、患者に安全に持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整、脱水症状に対する輸液による補正ができるスキルを習得する。</li> </ul>		
<b>授業内容</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・輸液療法の管理 局所解剖、フィジカルアセスメント、輸液療法の種類と特徴など</li> <li>・高カロリー輸液の調整 低栄養状態の病態生理、フィジカルアセスメントなど</li> <li>・脱水症状に対する輸液の補正 病態生理、フィジカルアセスメントなど</li> </ul>		

<b>授業計画表</b>
特定行為研修のカリキュラムにそつてe-learningと講義、実習をおこなう
<b>授業形式・授業形態</b>
e-ラーニングによる講師、およびスクリーニングによる講義と実習。
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
筆記試験、実習の観察評価を重視し、レポートや出席状況なども加味して総合的に評価する。
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
毎週金曜日の12:00～13:00、電話、メールなどで事前に主担当教員にアポイントを取ること。
<b>学生へのメッセージ</b>
必ず出席をしてください。万が一、欠席される際には事前に必ずWebClassより欠席の連絡を入れてください。

講義コード	5470410							
講義名	創傷管理学実習 I							
Lecture name	博士前期							
代表ナンバリングコード								
講義開講時期	通年							
講義区分	実習							
基準単位数	2							
時間	60.00							
代表曜日								
代表時限								
ナンバリングコード								
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;"><b>所属名称</b></td> <td><b>ナンバリングコード</b></td> </tr> </table>			<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>				
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>							
担当教員								
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">職種</th> <th style="width: 45%;">氏名</th> <th style="width: 40%;">所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教授</td> <td>喜多 伸幸</td> <td>臨床看護学講座</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座
職種	氏名	所属						
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座						
<b>学修目標(到達目標)</b>								
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 皮膚、皮下組織（骨を含む）に関する局所解剖について説明できる。</li> <li>2) 主要な基礎疾患の管理について説明できる。</li> <li>3) 全身・局所のフィジカルアセスメントができる。</li> <li>4) 慢性創傷の種類と病態について説明できる。</li> <li>5) 褥瘡の分類、アセスメント・評価ができる。</li> <li>6) 治癒のアセスメントとモニタリング（創傷治癒過程、TIME理論等）ができる。</li> <li>7) リスクアセスメントができる。</li> <li>8) 褥瘡及び創傷治癒と栄養管理について説明できる。</li> <li>9) 褥瘡及び創傷治癒と体圧分散について説明できる。</li> <li>10) 褥瘡及び創傷治癒と排泄管理について説明できる。</li> </ol>								
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>								
<p>表皮・皮下組織の解剖生理及び、褥瘡・慢性創傷の治癒過程、褥瘡・慢性創傷の要因となる疾患、褥瘡・慢性創傷の全身への影響、褥瘡・慢性創傷の治療方法及び予防方法についての理解を養うこと。褥瘡発生の予防が行える技術を養うこと。創傷管理を行う医療チームの一員としての姿勢を養うこと。</p>								
<b>授業内容</b>								

- 1) 皮膚、皮下組織（骨を含む）に関する局所解剖
- 2) 主要な基礎疾患の管理
- 3) 全身・局所のフィジカルアセスメント
- 4) 慢性創傷の種類と病態
- 5) 褥瘡の分類、アセスメント・評価
- 6) 治癒のアセスメントとモニタリング（創傷治癒過程、TIME理論等）
- 7) リスクアセスメント
- 8) 褥瘡及び創傷治癒と栄養管理
- 9) 褥瘡及び創傷治癒と体圧分散
- 10) 褥瘡及び創傷治癒と排泄管理
- 11) DESIGN-Rに基づいた治療指針
- 12) 褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム
- 13) 感染のアセスメント
- 14) 褥瘡の治癒のステージ別局所療法
- 15) 下肢創傷のアセスメント
- 16) 下肢創傷の病態別治療
- 17) 創部哆開創のアセスメントと治療

#### **授業計画表**

#### **授業形式・授業形態**

スクーリングによる講義、実習。

#### **成績評価方法（成績評価基準を含む）**

筆記試験、その他（提出物、出席状況、授業に取り組む姿勢など）を加味し、総合的に評価します。

#### **学生へのメッセージ**

事前学習しているものとして講義はすすめます。レポートなど提出物は、指定日時を守ること。

講義コード	5470420	
講義名	創傷管理学実習Ⅱ	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
所属名称		ナンバリングコード
担当教員		
職種	氏名	所属
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<p>1)多様な場面において胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換を安全に実践するための技術を習得する。2)多様な場面において膀胱ろうカテーテルの交換を安全に実施するための技術を習得する。</p> <p>3)手順書を作成・改良することができる。</p> <p>4) 手順書によって実施の判断・実施・評価・報告する一連のケアプロセス構造を理解し、実践する能力を身に付ける。</p>		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
<p>チーム医療の中で特定行為を含めたろう孔管理を実践・応用・展開する能力を養う。手順書により対象の病態を正確に捉え、胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換、膀胱ろうカテーテルの交換の実施の判断、及び、安全安楽に実施する技術を習得する。また、手順書の作成・評価・改良をしながら実践する。また、専門職として看護師が包括的指示で行うべき範囲を見極め、これらを特定行為として看護師が行う意義を考察する。</p>		
<b>授業内容</b>		
<p>特定行為区分：「ろう孔管理関連」</p> <p>特定行為：胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換、膀胱ろうカテーテルの交換</p> <p>【特定行為区分に共通して学ぶべき事項】</p>		

<p>「ろう孔管理関連」</p> <p>胃ろう、腸ろう及び膀胱ろうの管理</p> <p>1) 局所解剖、2) 胃ろう、腸ろう及び膀胱ろうを要する主要疾患の病態生理、3) 主要疾患のフィジカルアセスメント、4) カテーテル留置と患者のQOL、5) カテーテルの感染管理、6) カテーテル留置に必要なスキンケア</p> <p>【特定行為ごとに学ぶ事項】</p> <p>&lt;胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換&gt;</p> <p>1) 胃ろう及び腸ろうの目的、2) 胃ろう及び腸ろうの適応と禁忌、3) 胃ろう及び腸ろうに伴うリスク（有害事象とその対策等）、4) 栄養に関する評価、5) 胃ろう造設の意思決定ガイドライン、6) 胃ろう及び腸ろう造設術の種類、7) 胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの種類と特徴</p> <p>8) 交換の時期、9) 交換の方法</p> <p>&lt;膀胱ろうカテーテルの交換&gt;</p> <p>1) 膀胱ろうの目的、2) 膀胱ろうの適応と禁忌、3) 膀胱ろうに伴うリスク（有害事象とその対策等）、4) 膀胱ろう造設術、5) 膀胱ろうカテーテルの種類と特徴、6) 交換の時期、7) 交換の方法</p> <p>【詳細】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創傷管理論Ⅰ筆記試験と客観的臨床能力試験（OSCE）を合格した者が実習を行うことができる。</li> <li>・指導医（者）の指導のもと、実習として見学及び実施を行う。</li> <li>・実習では、患者に特定行為を実施する。特定行為ごとに5症例以上を経験すること。</li> </ul> <p>特定行為の実施のほか、OSCE、オリエンテーション、シミュレーション実習、包括的指示により気道確保や長期呼吸療法を実践するためのフィールドワーク（ニーズや課題の把握）、実習に必要な環境の調整、患者情報収集、医療面接、身体診察、フィジカルアセスメント、インフォームドコンセント、診療科・部門カンファレンスやチーム医療カンファレンスの参加、指導医（者）とのディスカッション、手順書の作成・改良、特定行為実践における診療録、症例検討、実習カンファレンス、実習記録、事前・事後学習、及び課題レポート作成、プレゼン型グループディスカッションも含む</p>
<b>授業計画表</b>
<b>授業形式・授業形態</b>
客観的臨床能力試験（OSCE）合格後、所属施設での実習となる。スクーリングあり。
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
実習は実習評価表により、指導医（者）による観察評価を行う。ケア実践、実習記録、実習評価表（症例経験含む）、出席状況、ディスカッションへの積極性を以て判断する。
<b>学生へのメッセージ</b>
創傷管理論Ⅱと合わせて履修すること。

講義コード	5470500	
講義名	感染管理学実習	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	3	
時間	90.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	北川 裕利	麻酔学講座
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
感染管理と治療の基本を学び、感染徴候を有する人に対して薬剤の臨時投与を特定行為としてタイムリーに行うために必要な知識、判断、技術を習得し、実践する。		
<b>授業内容</b>		
※感染に係る薬剤投与関連		
<b>授業計画表</b>		
<b>授業形式・授業形態</b>		
一部e-learningあり。 筆記試験に合格後に実習となる。 所属施設での実習。		
<b>成績評価方法(成績評価基準を含む)</b>		
筆記試験、実習の観察評価を重視し、その他(提出物、出席状況、演習など授業に取り組む姿勢など、)を加味し、総合的に評価します。		

講義コード	5470600	
講義名	精神疾患管理学実習	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	2	
時間	60.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	北川 裕利	麻酔学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
Evidence Based Medicine (EBM) に基づき		
1) 精神及び神経系に作用する薬剤が必要な疾患や症候の病態生理を説明できる。		
2) 主要な薬剤(抗けいれん薬、抗精神薬、抗不安薬)の薬理作用と使用方法を説明できる。		
3) 投与の判断に必要なフィジカルアセスメントができる。		
4) 対象の状況から看護師が包括的指示で実施可能な範囲を見極め、応用、実践できる。		
5) 手順書案を作成し、再評価、修正できる。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
精神及び神経薬(抗けいれん薬、抗精神薬、抗不安薬)の臨時投与を適切な判断により行なうために知識、技術を習得し、実践する。		
<b>授業内容</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神・神経系の局所解剖</li> <li>・神経学的、精神医学的主要症候</li> <li>・主要な精神疾患、神経疾患の病態生理、フィジカルアセスメント、面接所見</li> <li>・神経学的検査、心理・精神機能検査</li> <li>・精神・神経系の臨床薬理(副作用、耐性と依存性を含む)</li> </ul>		
<b>授業計画表</b>		
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連		

第1回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	ガイダンス
第2回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第2-3回 <講義> ・精神・神経系の解剖生理、病態生理、疾患・症状、検査・治療、フィジカルアセスメント
第4回	担当教員	北川 裕利
	項目	抗けいれん剤の臨時の投与
	内容	第4-7回 <講義> ・薬剤の適応と禁忌、種類、副作用 ・特定行為実施に必要となる臨床判断、リスク、検査 ・薬剤投与量の調整の方法、トラブルシューティング
第8回	担当教員	北川 裕利
	項目	抗精神病薬の臨時の投与
	内容	第8-11回 <講義> ・薬剤の適応と禁忌、種類、副作用 ・特定行為実施に必要となる臨床判断、リスク、検査 ・薬剤投与量の調整の方法、トラブルシューティング
第12回	担当教員	北川 裕利
	項目	抗不安薬の臨時の投与
	内容	第12-15回 <講義> ・薬剤の適応と禁忌、種類、副作用 ・特定行為実施に必要となる臨床判断、リスク、検査 ・薬剤投与量の調整の方法、トラブルシューティング
第16回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	特定行為と高度実践看護
第17回	担当教員	北川 裕利
	項目	

	<b>内容</b>	第17-18回 <学内実習> 手順書・実習計画の作成
第19回	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	
	<b>内容</b>	第19回 学内実習・オリエンテーション
第20回	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	
	<b>内容</b>	第20-26回 <講義> 抗けいれん剤の臨時の投与 臨地実習
第27回	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	
	<b>内容</b>	第27-32回 抗精神病薬の臨時の投与 臨地実習
第34回	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	
	<b>内容</b>	第34-39回 抗不安薬の臨時の投与 臨地実習
第40回	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	
	<b>内容</b>	総括、実習評価、カンファレンス

#### 授業形式・授業形態

一部e-learningあり。  
筆記試験に合格後に実習となる。  
所属施設での実習。  
講義、実習での事前課題あり。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

筆記試験、実習の観察評価を重視し、その他（提出物、出席状況、授業に取り組む姿勢など）を加味し、総合的に評価します。

#### オフィスアワー(授業相談)

tokutei@bell.shiga-med.ac.jp  
077-548-3573

#### 学生へのメッセージ

高度実践コース（特定行為領域）の院生を対象とする。

講義コード	5470700	
講義名	疼痛管理学実習	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	2	
時間	60.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	北川 裕利	麻酔学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
1) 硬膜外麻酔の作用秩序と特徴について説明できる 2) 調整の判断に必要なフィジカルアセスメントができる。 3) 病態に応じた硬膜外麻酔薬の選択と投与量の調整を安全に実践できる。 4) 硬膜外麻酔に伴うリスク（有害事象とその対策等）を理解し、予測される有害事象と異常時の対応ができる。 5) 手順書案を作成し、再評価、修正できる。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
術後疼痛管理の基本を学ぶ。特に手術直後の不安定な全身状態での鎮痛剤の使用であることを強く意識し、安全で確実な鎮痛処置を行うための知識、判断、技術を習修得する。		
<b>授業内容</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 術後疼痛管理の総論</li> <li>・ 硬膜外麻酔に関する局所解剖、作用機序と特徴</li> <li>・ 硬膜外麻酔を必要とする主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント</li> <li>・ 硬膜外麻酔の適応と禁忌</li> <li>・ 硬膜外麻酔薬の選択と投与量の調整の判断基準</li> </ul>		
<b>授業計画表</b>		
術後疼痛管理関連		

第1回	担当教員	北川 裕利
	項目	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整
	内容	ガイダンス
第2回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第2-8回 <講義> ・硬膜外麻酔に関する局所解剖、病態生理、疾患・治療、フィジカルアセスメント ・硬膜外麻酔の目的、適応と禁忌、リスク（有害事象とその対策等）、困難事例とトラブルシューティング
第9回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第9回 <講義> 疼痛管理のトピックス
第10回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第10回 <講義> 特定行為と高度実践看護
第11回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第11-12回 <学内実習>手順書・実習計画の作成
第13回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	学内実習・オリエンテーション
第14回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第14-22回 臨地実習
第23回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	第23回 実習カンファレンス
第24回	担当教員	北川 裕利

	<b>項目</b>	
	<b>内容</b>	第24-39回 臨地実習
<b>第40回</b>	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	
	<b>内容</b>	第40回 実習評価、カンファレンス

#### 授業形式・授業形態

一部e-learningあり。  
筆記試験に合格後に実習となる。  
所属施設での実習。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

筆記試験、実習の観察評価を重視し、その他（提出物、出席状況、授業に取り組む姿勢など）を加味し、総合的に評価します。

#### オフィスアワー(授業相談)

tokutei@bell.shiga-med.ac.jp  
077-548-3573

#### 学生へのメッセージ

高度実践コース（特定行為領域）の院生を対象とする。

講義コード	5470810	
講義名	スキルズラボ演習 I	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	演習	
基準単位数	2	
時間	60.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	北川 裕利	麻酔学講座
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
1) 医学の思考プロセスを学び、看護過程で行う臨床判断や特定行為に応用し、展開できる。 2) 安全に配慮した手順で特定行為を実践できる。 3) 自身の臨床的思考過程を整理し、他者に論理的に伝えることができる。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
高度な看護実践（特定行為）を行うのに必要な臨床判断を身に付けるため、事例検討やシミュレーター、動画教材を使用したトレーニングを行う。また、グループディスカッションにより思考過程を整理し、適切な判断や対処法を習得する。		
<b>授業内容</b>		
呼吸器（気道確保）関連 呼吸器（人工呼吸療法）関連 呼吸器（長期呼吸療法）関連 循環器関連 胸腔ドレーン管理関連 腹腔ドレーン管理関連 ろう孔管理関連 栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連		

栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連  
創傷管理関連  
創部ドレーン管理関連  
動脈血液ガス分析関連  
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

#### **授業計画表**

#### **授業形式・授業形態**

看護師特定行為研修センター演習室で実施する。

#### **成績評価方法（成績評価基準を含む）**

トレーニングへの取り組み、討論への参加度、成果物、出席状況により評価します。

#### **オフィスアワー(授業相談)**

tokutei@bell.shiga-med.ac.jp  
077-548-3573

#### **学生へのメッセージ**

高度実践コース（特定行為領域）の院生を対象とする。

講義コード	5470820	
講義名	スキルズラボ演習Ⅱ	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	演習	
基準単位数	2	
時間	60.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	北川 裕利	麻酔学講座
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<p>1) 医学の思考プロセスを学び、看護過程で行う臨床判断や特定行為の手技・手順に応用し、展開できる。</p> <p>2) 安全に配慮した手順で特定行為を安楽に実践できる。</p> <p>3) 自身の臨床的思考過程を整理し、他者に論理的に伝えることができる。</p>		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
<p>高度な看護実践（特定行為）において必要な手技を習得する。難易度の高い特定行為を安全安楽に実施するために、外科的基本手技やデバイスの交換など、シミュレーターを使用した手技練習や動画教材を用いたトレーニングを行う。</p>		
<b>授業内容</b>		
<p>呼吸器（気道確保）関連  呼吸器（長期呼吸療法）関連  循環器関連  胸腔ドレーン管理関連  腹腔ドレーン管理関連  ろう孔管理関連  栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連</p>		

創傷管理関連 創部ドレーン管理関連 動脈血液ガス分析関連
<b>授業計画表</b>
<b>授業形式・授業形態</b>
看護師特定行為研修センター演習室、附属病院内スキルズラボにて実施する。
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
トレーニングへの取り組み、討論への参加度、成果物、出席状況により評価します。
<b>参考文献等</b>
診察と手技が見えるVol.2 第2版 メディックメディア 2016、
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
tokutei@bell.shiga-med.ac.jp 077-548-3573
<b>学生へのメッセージ</b>
高度実践コース（特定行為領域）の院生を対象とする。

講義コード	5470900
講義名	看護実践演習（特定行為実践）
Lecture name	博士前期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	6
時間	180.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北川 裕利	麻酔学講座
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座

### 学修目標(到達目標)

- 1) 特定行為に必要な基本的技術（医療面接、身体診察手技、非侵襲的検査、心肺蘇生法）を実践できる。
- 2) 特定行為の実践に必要な組織マネジメント遂行能力や環境調整能力を身に付ける。
- 3) 特定行為を実践する上での課題を整理し、活動計画を立案する。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

特定行為実践に必要な基本的技術（身体診察手技や医療面接技法、急変時シミュレーションなど）を事例検討やロールプレイにより習得する。また、実践フィールドを看護管理の視点から分析し、特定行為実践の活動計画の立案と基盤整備のためのフィールドワークを行う。PBL学習で取り組み、改良を加えたその成果についてプレゼンテーションを行う。

### 授業内容

解剖見学、薬理演習、身体診察手技、医療面接技法、各種検査、急変時シミュレーションなどを行う。  
組織分析、問題解決技法を用いた特定行為実践の活動計画、グループワークやクループディスカッションにより改良を加え、成果を発表する。

### 授業計画表

第1回	担当教員	北川 裕利
	項目	特定行為実践
	内容	1回 ガイダンス
第2回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	2-3回 特定行為研修修了者の現状と課題
第4回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	4-5回 特定行為研修修了者の役割と多職種協働
第6回	担当教員	北川 裕利
	項目	臨床病態生理学
	内容	6-11回 顕微鏡、解剖見学、文献講読
第12回	担当教員	北川 裕利
	項目	臨床推論
	内容	12-16回 症候学ケーススタディ
第17回	担当教員	北川 裕利
	項目	臨床推論
	内容	17-29回 IVR,超音波検査の見方と手技、単純X線検査、CT、MRIの見方
第30回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	30-31回 臨床疫学 事例演習
第32回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	32-36回 医療面接技法の基本技術演習
第37回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	37-40回 身体診察の基本技術（全身）
第41回		

	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	41-44回 超音波検査について（応用編）
第45回	担当教員	北川 裕利
	項目	臨床薬理学
	内容	45-52回 主要薬物の薬理作用、投与方法に関する演習（1）～（4）
第53回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	53-56回 主要薬物の薬理作用、投与方法に関する演習：実践編（5）
第57回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	57-60回 主要薬物の薬理作用、投与方法に関する課題：実践編（6）
第61回	担当教員	北川 裕利
	項目	疾病・臨床病態概論
	内容	61-65回 救急・初療におけるケーススタディ（1）（2）
第63回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	63-65回 救急・初療におけるシミュレーション（1）～（3）
第66回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	66-68回 在宅医療、訪問看護におけるケーススタディ（1）～（3）
第69回	担当教員	北川 裕利
	項目	医療安全学/特定行為実践
	内容	69-70回 特定行為研修制度と関連法規
第71回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	71-73回 医療安全と医療倫理の理解

第74回

	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	74-77回 安全と医療倫理の事例検討 (1) (2)
第78回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	78-79回 インフォームドコンセント (1) 、 (2)
第80回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	80回 チーム医療と多職種連携 (基礎編) 81-82回 チーム医療と多職種連携 (応用編)
第83回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	83-84回 特定行為の実践過程の構造 (基礎編)
第85回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	85-87回 特定行為の実践過程の構造 (手順書)
第88回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	88-90 特定行為の実践過程の構造 (手順書の改良)
第91回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	91-94回 特定行為の実践過程の構造 (アセスメント、評価)
第95回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	95-97回 特定行為の実践過程と構造 (インフォームドコンセント)
第98回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	98-110回 文献講読、症例・事例検討

第111回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	111-113回 医療安全学/特定行為実践 自己の看護実践のリフレクシオン
第114回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	114-118回 特定行為実践の介入モデルと解説と演習 急性期 (1) ~ (5)
第119回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	119-123回 特定行為実践の介入モデルと解説と演習 慢性期 (1) ~ (5)
第124回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	124-125回 高度実践看護師の看護実践 (1)、(2)
第126回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	126-133回 自己の特定行為実践の介入モデルの演習 (1) ~ (8)
第134回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	134-139回 高度な看護実践及び特定行為実践の教育指導方法の理解と演習 (1) ~ (6)
第140回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	140-159回 特定行為実践過程 プレゼンテーション I
第160回	担当教員	北川 裕利
	項目	
	内容	160-179回 特定行為実践過程 プレゼンテーション II
第180回	担当教員	北川 裕利

	<b>項目</b>	
	<b>内容</b>	総括
<b>授業形式・授業形態</b>		
予習、復習を行うこと。事前課題・事後課題あり。		
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>		
課題への取り組み、討論への参加度、成果物、出席状況により総合的に評価します。		
<b>テキスト（教科書等）</b>		
診察と手技が見えるVol.1 第2版 メディックメディア 2015		
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>		
tokutei@bell.shiga-med.ac.jp 077-548-3573		

講義コード	5441000							
講義名	特定行為看護特論							
Lecture name	修士							
代表ナンバリングコード								
講義開講時期	前期							
講義区分	講義							
基準単位数	2							
時間	30.00							
代表曜日								
代表時限								
ナンバリングコード								
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">所属名称</td> <td>ナンバリングコード</td> </tr> </table>			所属名称	ナンバリングコード				
所属名称	ナンバリングコード							
担当教員								
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">職種</th> <th style="width: 45%;">氏名</th> <th style="width: 40%;">所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教授</td> <td>北川 裕利</td> <td>麻酔学講座</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教授	北川 裕利	麻酔学講座
職種	氏名	所属						
教授	北川 裕利	麻酔学講座						
対象学科／学年								
学科		学年						
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程特定行為領域特定行為実践部門 ～ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程特定行為領域特定行為実践部門								
授業計画表								

講義コード	5441010	
講義名	特定行為看護演習 I	
Lecture name	修士	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学 年</b>
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程特定行為領域特定行為実践部門 ～ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程特定行為領域特定行為実践部門		
<b>授業計画表</b>		

講義コード	5441020	
講義名	特定行為看護演習Ⅱ	
Lecture name	修士	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
所属名称	ナンバリングコード	
対象学科／学年		
<b>学科</b>		<b>学年</b>
大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程特定行為領域特定行為実践部門 ～ 大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程特定行為領域特定行為実践部門		
<b>授業計画表</b>		

講義コード	5490000							
講義名	周麻酔期看護特論							
Lecture name	博士前期							
代表ナンバリングコード								
講義開講時期	通年							
講義区分	講義							
基準単位数	2							
時間	30.00							
代表曜日								
代表時限								
ナンバリングコード								
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">所属名称</td> <td>ナンバリングコード</td> </tr> </table>			所属名称	ナンバリングコード				
所属名称	ナンバリングコード							
担当教員								
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">職種</th> <th style="width: 50%;">氏名</th> <th style="width: 30%;">所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教授</td> <td>北川 裕利</td> <td>麻酔学講座</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教授	北川 裕利	麻酔学講座
職種	氏名	所属						
教授	北川 裕利	麻酔学講座						
<b>学修目標(到達目標)</b>								
<p>1) 周術期管理の基本を学ぶ。</p> <p>2) 重症疾患の全身管理を行うために病態把握のためのモニタリング、各臓器別の病態とそれらの治療法について学ぶ。</p>								
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>								
<p>周術期医療の動向を踏まえ、最新の麻酔科学を核として、周麻酔期看護に必要な最新の専門知識を習得する。</p>								
<b>授業内容</b>								
<p>滋賀医科大学医学部医学科4年次前期（5・6月）に開講される麻酔・緩和医療学の授業（1－13）、救急・家庭医療学（救急医療1-10、集中治療1－7）の計30講義中、15講義以上を選択する。</p>								
<b>授業計画表</b>								
麻酔学								
<b>第1回</b>								

	<b>担当 教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	麻酔学
	<b>内容</b>	麻酔学概論 麻酔の流れ、術前評価と麻酔計画
<b>第2回</b>	<b>担当 教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	麻酔学
	<b>内容</b>	脊椎クモ膜下麻酔、硬膜外麻酔、末梢神経ブロック、一般手術の麻酔管理
<b>第3回</b>	<b>担当 教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	麻酔学
	<b>内容</b>	術後管理、術後鎮痛、癌性疼痛
<b>第4回</b>	<b>担当 教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	麻酔学
	<b>内容</b>	麻酔と呼吸管理、酸塩基平衡
<b>第5回</b>	<b>担当 教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	麻酔学
	<b>内容</b>	麻酔中に使用するモニター
<b>第6回</b>	<b>担当 教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	麻酔学
	<b>内容</b>	ペインクリニック 痛みの病態生理/慢性疼痛と心理/慢性疼痛のオーバービュー・痛みと脳/慢性疼痛に対する運動療法/学際的治療
<b>第7回</b>	<b>担当 教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	麻酔学
	<b>内容</b>	麻酔時に使用する薬
<b>第8回</b>	<b>担当 教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	麻酔学
	<b>内容</b>	麻酔と循環、輸液、体液管理、気道管理、蘇生、ICUにおける重症患者管理

#### 救急医療

<b>第1回</b>	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	救急医療

	<b>内容</b>	救急医療総論・心肺蘇生法
<b>第2回</b>	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	救急医療
	<b>内容</b>	外傷初期診療 外相治療のための基本手技
<b>第3回</b>	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	救急医療
	<b>内容</b>	熱傷・環境異常
<b>第4回</b>	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	救急医療
	<b>内容</b>	胸腹部の外傷および救急疾患、頭頸部・顔面の外傷および救急疾患
<b>第5回</b>	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	救急医療
	<b>内容</b>	中毒
<b>第6回</b>	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	救急医療
	<b>内容</b>	災害と救急医療、病院前救急・ER、精神科救急

#### 集中治療

<b>第1回</b>	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	集中治療
	<b>内容</b>	呼吸・循環管理・全身管理
<b>第2回</b>	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	集中治療
	<b>内容</b>	意識障害、神経集中治療
<b>第3回</b>	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	集中治療
	<b>内容</b>	モニタリング
<b>第4回</b>	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>項目</b>	集中治療
	<b>内容</b>	周術期管理 敗血症性 脳低温療法

#### 授業形式・授業形態

講義への参加、プレゼンテーション、討論を行う。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

実習症例記録、実習の観察評価、実習への取り組みを重視し、その他（提出物、出席状況など）を加味し、総合的に評価します。

<b>テキスト（教科書等）</b>
1) 標準麻酔科学 第6版 医学書院 2011 2) 周術期管理チームテキスト第4版、公益社団法人日本麻酔科学会・周術期管理チーム委員会編、2020
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
オフィスアワー：9時～17時、ただし、不在時にはメール等で連絡してください。 北川裕利 hqanes@belle.shiga-med.ac.jp 電話077-548-2281

講義コード	5490010	
講義名	周麻酔期看護演習 I	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	北川 裕利	麻酔学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
1) 痛みの治療計画・評価方法・対象疾患と治療法について概説できる。 2) 麻酔時に必要な手技・治療について理解する。 3) 麻酔のシュミレーションを通じて麻酔管理を理解する。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
1) 痛み治療・手術麻酔に必要な知識と技術をシュミレーション教育の中より学ぶ。特に麻酔科医の思考回路を理解し、患者に寄り添える麻酔看護学を身につける。 さらに文献検討により最新の知見を得て、周麻酔期看護の役割と専門性、技術（開発）について探求する。		
<b>授業内容</b>		
1) 滋賀医科大学医学部医学科5年次に行われる麻酔科講義・実習に参加する。		
<b>授業計画表</b>		
ペインクリニック 講義		
<b>第1回</b>	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>内容</b>	疼痛学総論 ・痛みの分類 ・鎮痛剤の分類と作用機序

- ・神経障害性疼痛を生じる疾患
- ・痛みの評価法

### ペイクリニック 疼痛治療実習

第2回	担当教員	北川 裕利
	内容	疼痛治療実習（脊椎と含む筋・骨格性疼痛） 疾患：椎間板ヘルニア/脊柱管狭窄症/椎間関節症/筋膜性疼痛 神経ブロック：硬膜外ブロック/神経根ブロック/腕神経叢ブロック/椎間ブロックなど

### HPS実習

第3回	担当教員	北川 裕利
	内容	麻酔シュミレーション実習 附属病院のスキルラボⅡにおいて、麻酔のシュミレーションをマネキンを用いて行う。

第4回	担当教員	北川 裕利
	内容	麻酔シュミレーション実習 附属病院のスキルラボⅡにおいて、麻酔のシュミレーションをマネキンを用いて行う。

### シュミレーション実習

第5回	担当教員	北川 裕利
	内容	麻酔科の実技（中心静脈カテーテル挿入） マネキンまたは、シュミレーターを用いて体験する。

第6回	担当教員	北川 裕利
	内容	麻酔科の実技（脊椎くも膜下麻酔/硬膜外麻酔） マネキンまたは、シュミレーターを用いて体験する。

第7回	担当教員	北川 裕利
-----	------	-------

	<b>内容</b>	麻酔科の実技（気管支鏡） マネキンまたは、シュミレーターを用いて体験する。
<b>第8回</b>	<b>担当教員</b>	北川 裕利
	<b>内容</b>	麻酔科の実技（気道管理：マスク換気/気管挿管） マネキンまたは、シュミレーターを用いて体験する。
<b>授業形式・授業形態</b>		
講義、シュミレーション実習、プレゼンテーション、討論を行う。		
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>		
実習症例記録、実習の観察評価、実習への取り組みを重視し、その他（提出物、出席状況など）を加味し、総合的に評価します。		
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>		
オフィスアワー：9時～17時、ただし、不在時にはメール等で連絡してください。 北川裕利 hqanes@belle.shiga-med.ac.jp 電話077-548-2281		

講義コード	5490020	
講義名	周麻酔期看護演習Ⅱ	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
所属名称	ナンバリングコード	
担当教員		
職種	氏名	所属
教授	北川 裕利	麻酔学講座

### 学修目標(到達目標)

- 1) 各種手術麻酔方法について理解する。
  - ・対象の特性や手術を踏まえた麻酔管理法を理解できる。
  - ・麻酔や手術による生体侵襲から起こり得るリスクを捉え、モニタリングができる。
- 2) 手術麻酔、救急・集中治療、緩和ケア、ペインクリニックに拡げて、事例や文献検討から麻酔管理や麻酔看護の実際を理解する。様々な視点から、自己の関心あるテーマから研究デザインを明確化する。Evidence Based Medicine (EBM) や理論の成り立ちから症例検討の重要性が理解できる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

- 1) 各種手術麻酔方法を学び、特定行為研修を修了した看護師が周麻酔期看護を安全に行うために必要な臨床判断力や実践力を身につける。
- 2) 周麻酔期看護の動向やトピックスから、発展性のある臨床的な課題を抽出し、明確化する。またその中で、周麻酔期看護領域の関心のある研究課題の設定と研究方法について検討する。

### 授業内容

1) 各種手術麻酔方法を、滋賀医科大学医学部附属病院において、手術麻酔見学実習を行う。

2) 周麻酔期看護の動向・トピックスに関して、手術麻酔、救急・集中治療、緩和ケア、ペインクリニックについて、事例検討、先行研究レビューを元に抄読会を行う。

### 授業計画表

#### 手術室実習

第1回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術麻酔見学実習 精神科電気痙攣療法

第2回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術麻酔見学実習 脳外科開頭手術

第3回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術麻酔見学実習 心臓結果外科開心術

第4回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術麻酔見学実習（経鼻挿管症例） 口腔外科/耳鼻咽喉科・頭頸部外科手術

第5回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術麻酔見学実習 小児手術

第6回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術麻酔見学実習（分離肺換気症例） 呼吸器外科

第7回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術麻酔見学実習（TAVI:経カテーテル的大動脈弁置換術） 循環器内科/心臓血管外科手術

第8回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術麻酔見学実習（帝王切開術） 母子診療科

## 周麻酔期看護の動向・トピックス

第9回	担当教員	北川 裕利
	内容	周麻酔期看護に関する抄読会（1人、1回は抄読会を行う） 手術麻酔、周麻酔看護に関するEvidence Based Medicine（EBM） 手術麻酔に関する症例検討 症例検討の方法とプレゼンテーション技法 臨床麻酔、周麻酔期看護に関する文献の系統的レビュー

### 授業形式・授業形態

手術室実習、プレゼンテーション、討論を行う。

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

実習症例記録、実習の観察評価、実習への取り組みを重視し、その他（提出物、出席状況など）を加味し、総合的に評価します。

### オフィスアワー(授業相談)

オフィスアワー：9時～17時、ただし、不在時にはメール等で連絡してください。  
北川裕利 hqanes@belle.shiga-med.ac.jp 電話077-548-2281

講義コード	5490110	
講義名	周麻酔期看護実践 I	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	3	
時間	135.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
所属名称		
ナンバリングコード		
担当教員		
職種	氏名	所属
教授	北川 裕利	麻酔学講座

### 学修目標(到達目標)

- 1) 手順書により特定行為を安全で確実な手技で実施できる。
- 2) 対象の状況から看護師が包括的指示で実施可能な範囲を見極め、安全な特定行為を実践できる。
- 3) 手順書の評価・改良ができる。
- 4) 推論を活かし、指導者に系統立てて簡潔で的確な報告ができる。
- 5) 周麻酔期において特定看護師の実践のあり方について考察できる。
- 6) 臨床実践における課題や実践の評価について考察し、表現できる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

特定行為研修を修了した看護師が周麻酔期看護を安全に行うために必要な臨床判断力や実践力を身につける。また、合併症のない全身麻酔事例において、麻酔管理の流れと看護ケアに関する知識・技術を学び、麻酔科の指導のもとで実践し、周麻酔期看護を科学的で安全に実施する能力を培う。

臨床麻酔を踏まえた周麻酔期看護と医学的思考過程を参考にした特定行為実践を統合し、臨床で応用する。研究課題や評価方法を探索しながら実習を行う。

### 授業内容

手術室実習：10症例

術中麻酔管理領域の特定行為を含めた看護ケアの実践

## 授業計画表

### 手術室実習

第1回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術室実習（10症例） 自施設において、術前診察・術中管理・術後回診を麻酔科医をともに行う。

第2回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術室実習（10症例） 自施設において、術前診察・術中管理・術後回診を麻酔科医をともに行う。

第3回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術室実習（10症例） 自施設において、術前診察・術中管理・術後回診を麻酔科医をともに行う。

第4回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術室実習（10症例） 自施設において、術前診察・術中管理・術後回診を麻酔科医をともに行う。

第5回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術室実習（10症例） 自施設において、術前診察・術中管理・術後回診を麻酔科医をともに行う。

第6回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術室実習（10症例） 自施設において、術前診察・術中管理・術後回診を麻酔科医をともに行う。

第7回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術室実習（10症例） 自施設において、術前診察・術中管理・術後回診を麻酔科医をともに行う。

第8回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術室実習（10症例） 自施設において、術前診察・術中管理・術後回診を麻酔科医をともに行う。

第9回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術室実習（10症例） 自施設において、術前診察・術中管理・術後回診を麻酔科医をともに行う。

第10回	担当教員	北川 裕利
	内容	手術室実習（10症例） 自施設において、術前診察・術中管理・術後回診を麻酔科医をともに行う。

#### 授業形式・授業形態

実習、プレゼンテーション、討論を行う。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

実習症例記録、実習の観察評価、実習への取り組みを重視し、その他（提出物、出席状況など）を加味し、総合的に評価します。

#### テキスト（教科書等）

周術期管理チームテキスト第3版、公益社団法人日本麻酔科学会・周術期管理チーム委員会編、2016

#### オフィスアワー(授業相談)

オフィスアワー：9時～17時、ただし、不在時にはメール等で連絡してください。

北川裕利 hirotoshi@belle.shiga-med.ac.jp 電話077-548-2281

講義コード	5490120
講義名	周麻酔期看護実践Ⅱ
Lecture name	博士前期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	1
時間	45.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北川 裕利	麻酔学講座

### 学修目標(到達目標)

- 1) 領域の異なる対象に適した手順書に改良しながら、安全に特定行為が実施できる。
- 2) 各ユニットで異なる麻酔管理法、患者管理の違いが理解できる。
- 3) 麻酔領域と外科領域の特定行為を複合した看護実践の活用方法を見出すことができる。
- 4) 助言を受けながら、組織横断的活動をするために必要なマネジメントや仕組みを活用できる。
- 5) 周麻酔期看護の専門性を捉え、後進の育成に必要な教育、指導方法について考察できる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

さらに多様な臨床場面において実践者に必要なスキルを統合させたAdvanced実習とする。術前外来（術前評価）、術中管理、緩和ケア、ペインクリニック、Surgical ICU、外科等を周術期の流れとして理解し、シームレスな看護実践ができるよう必要な知識を習得し、実践できる。さらに、外科術後管理に関連のある特定行為を修得し、活用する。また、周麻酔期看護の専門性の確立に向けて、後進の指導により、周麻酔期看護の実践者教育（指導方法）について考察する。

### 授業内容

多様な臨床場面、多様な治療を受ける対象に対するAdvanced実習である。  
各領域における麻酔管理、患者管理  
術中麻酔管理領域、さらに麻酔外科術後管理の特定行為を含めた看護ケアの実践、看護継続性

<b>授業計画表</b>
<b>授業形式・授業形態</b>
附属病院内
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
実習記録、実習の観察評価、実習への取り組みを重視し、その他（提出物、出席状況など）を加味し、総合的に評価します。
<b>テキスト（教科書等）</b>
周術期管理チームテキスト第3版、公益社団法人日本麻酔科学会・周術期管理チーム委員会編、2016
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
オフィスアワー：9時～17時、ただし、不在時にはメール等で連絡してください。 北川裕利 hirotoshi@belle.shiga-med.ac.jp 電話077-548-2281
<b>学生へのメッセージ</b>
高度実践コース（特定行為領域） Advancedコースであり、周麻酔期看護実践 I を履修済、もしくは特定行為研修を術中麻酔管理領域の研修を修了した者で、これと同等であるとみなされる者。

講義コード	5490130
講義名	周麻酔期看護実践Ⅲ
Lecture name	博士前期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	1
時間	45.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	北川 裕利	麻酔学講座

### 学修目標(到達目標)

- 1) 領域の異なる対象に適した手順書に改良しながら、安全に特定行為が実施できる。
- 2) 各ユニットで異なる麻酔管理法、患者管理の違いが理解できる。
- 3) 麻酔領域と外科領域の特定行為を複合した看護実践の活用方法を見出すことができる。
- 4) 助言を受けながら、組織横断的活動をするために必要なマネジメントや仕組みを活用できる。
- 5) 周麻酔期看護の専門性を捉え、後進の育成に必要な教育、指導方法について考察できる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

さらに多様な臨床場面において実践者に必要なスキルを統合させたAdvanced実習とする。術前外来（術前評価）、術中管理、緩和ケア、ペインクリニック、Surgical ICU、外科等を周術期の流れとして理解し、シームレスな看護実践ができるよう必要な知識を習得し、実践できる。さらに、外科術後管理に関連のある特定行為を修得し、活用する。また、周麻酔期看護の専門性の確立に向けて、後進の指導により、周麻酔期看護の実践者教育（指導方法）について考察する。

### 授業内容

多様な臨床場面、多様な治療を受ける対象に対するAdvanced実習である。  
各領域における麻酔管理、患者管理  
術中麻酔管理領域、さらに麻酔外科術後管理の特定行為を含めた看護ケアの実践、看護継続性

<b>授業計画表</b>
<b>授業形式・授業形態</b>
附属病院内
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
実習記録、実習の観察評価、実習への取り組みを重視し、その他（提出物、出席状況など）を加味し、総合的に評価します。
<b>テキスト（教科書等）</b>
周術期管理チームテキスト第3版、公益社団法人日本麻酔科学会・周術期管理チーム委員会編、2016
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
オフィスアワー：9時～17時、ただし、不在時にはメール等で連絡してください。 北川裕利 hirotoshi@belle.shiga-med.ac.jp 電話077-548-2281
<b>学生へのメッセージ</b>
高度実践コース（特定行為領域） Advancedコースであり、周麻酔期看護実践 I を履修済、もしくは特定行為研修を術中麻酔管理領域の研修を修了した者で、これと同等であるとみなされる者。

講義コード	5440000	
講義名	看護管理特論	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	笠原 聡子	基礎看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
1. 看護管理学の研究を実践するために必要な諸理論について説明できる。 2. 看護管理学に関連した研究動向について述べるができる。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
【教育目的】 看護管理学領域の研究を実践するために必要な諸理論について理解を深め、当該領域に関連した国内外における最新の知見を学び、研究の動向を探る。 【準備学修・事後学修】 各回講義のトピックについて主体的に調べるなど予習・復習し、疑問を持って授業に備えることが求められる。(各回所要時間：1時間程度)		
<b>授業内容</b>		
授業内容は授業計画表に沿って進めるが、受講生の関心領域等により若干変更する場合がある。		
<b>授業計画表</b>		
<b>第1回</b>	<b>担当教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	ガイダンス、看護管理プロセス

	<b>内容</b>	科目の概要および第2回以降の内容について説明する。
<b>第2回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護の組織化・組織改革
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加し看護の組織化・組織改革に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第3回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	リーダーシップ
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加しリーダーシップに関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第4回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	人的資源管理
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加し人的資源管理に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第5回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	人事労務管理
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加し人事労務管理に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第6回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	ストレス管理
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加しストレス管理に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第7回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	物的資源管理
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加し物的資源管理に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第8回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護安全管理
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加し看護安全管理に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第9回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子

	<b>項目</b>	看護ケアの質管理
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加し看護ケアの質管理に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第10回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護ケアの経済的評価
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加し看護ケアの経済的評価に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第11回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	プロフェッショナル
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加しプロフェッショナルに関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第12回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	キャリアマネジメント
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加しキャリアマネジメントに関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第13回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護管理者のコンピテンシー
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加し看護管理者のコンピテンシーに関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第14回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	トップマネジメントと経営
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加しトップマネジメントと経営に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第15回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護政策の意思決定
	<b>内容</b>	領域のゼミナールに参加し看護政策の意思決定に関する研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。

#### 授業形式・授業形態

##### 【授業形式】

テキストおよび国内学の文献レビュー形式。

受講生は各テーマについて文献レビューの上、プレゼンテーションを行う。

原則対面での講義形式（zoom等でのオンライン講義も含む）

**【授業形態】**

- ・スライド等を使用

**成績評価方法（成績評価基準を含む）**

①総括的評価

- ・プレゼンテーション（50%）
- ・平常点（50%）：毎回の授業ごとの発言やコメント

上記について到達目標の達成度に基づき評価し、合計が60%以上を合格とする。

②形成的評価

- ・毎回の授業ごとの発言やコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

③態度評価

・授業での発言や課題へ取り組む姿勢から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

**テキスト（教科書等）**

講義の中で随時紹介する。

**オフィスアワー(授業相談)**

随時対応するが、電話やメール等で事前にアポイントを取ること。

**学生へのメッセージ**

課題学習および討論等、授業への積極的な参加を求める。

**授業用E-mail**

[kasahara@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:kasahara@belle.shiga-med.ac.jp)

講義コード	5440010	
講義名	看護管理演習 I	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
時間	30.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	笠原 聡子	基礎看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
1. 看護管理学の研究課題について説明できる。 2. 看護管理学に関連した研究課題を解決するための適切な研究方法について説明できる。 3. 自身の研究課題および研究方法について探求し、意見を述べることができる。		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
【教育目的】 看護管理学領域の国内外の先行研究レビューやクリティークをもとに討論することで、課題解決のために用いられている多様な研究方法についての理解を深める。そのうえで、受講者自身の研究課題および研究方法について探究する。 【準備学修・事後学修】 各回講義のトピックについて主体的に調べるなど予習・復習し、疑問を持って授業に備えることが求められる。(各回所要時間：1時間程度)		
<b>授業内容</b>		
授業内容は授業計画表に沿って進めるが、受講生の関心領域等により若干変更する場合がある。		
<b>授業計画表</b>		
<b>第1回</b>	<b>担当教員</b>	笠原 聡子

	<b>項目</b>	ガイダンス
	<b>内容</b>	科目の概要および第2回以降の内容について説明する。
<b>第2回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護管理学領域の研究①
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し看護管理学領域の研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第3回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護管理学領域の研究②
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し看護管理学領域の研究について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第4回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護管理学領域の研究における分析方法①
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し看護管理学領域の研究における分析方法について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第5回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護管理学領域の研究における分析方法②
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し看護管理学領域の研究における分析方法について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第6回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護管理学領域の先行研究のレビュー①
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し看護管理学領域の先行研究レビューについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第7回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護管理学領域の先行研究のレビュー②
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し看護管理学領域の先行研究レビューについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第8回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護管理学領域の先行研究のレビュー③
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し看護管理学領域の先行研究レビューについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第9回</b>		

	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護管理学領域の先行研究のクリティーク①
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し看護管理学領域の先行研究クリティークについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第10回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護管理学領域の先行研究のクリティーク②
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し看護管理学領域の先行研究クリティークについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第11回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	看護管理学領域の先行研究のクリティーク③
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し看護管理学領域の先行研究クリティークについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第12回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	自身の研究課題に関連した先行研究のレビュー①
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究レビューについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第13回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	自身の研究課題に関連した先行研究のレビュー②
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究レビューについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第14回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	自身の研究課題に関連した先行研究のクリティーク①
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究クリティークについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第15回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	自身の研究課題に関連した先行研究のクリティーク②
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究クリティークについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>授業形式・授業形態</b>		

<p><b>【授業形式】</b>          テキストおよび国内学の文献レビュー形式。          受講生は各テーマについて文献レビューの上、プレゼンテーションを行う。          原則対面での講義形式（zoom等でのオンライン講義も含む）</p> <p><b>【授業形態】</b>          ・スライド等を使用</p>
<p><b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b></p> <p>①総括的評価          ・プレゼンテーション（50%）          ・平常点（50%）：毎回の授業ごとの発言やコメント          上記について到達目標の達成度に基づき評価し、合計が60%以上を合格とする。</p> <p>②形成的評価          ・毎回の授業ごとの発言やコメントについて、都度のフィードバックを実施する。</p> <p>③態度評価          ・授業での発言や課題へ取り組む姿勢から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。</p>
<p><b>テキスト（教科書等）</b></p> <p>講義の中で随時紹介する。</p>
<p><b>オフィスアワー(授業相談)</b></p> <p>随時対応するが、電話やメール等で事前にアポイントを取ること。</p>
<p><b>学生へのメッセージ</b></p> <p>課題学習および討論等、授業への積極的な参加を求める。</p>
<p><b>授業用E-mail</b></p> <p><a href="mailto:kasahara@belle.shiga-med.ac.jp">kasahara@belle.shiga-med.ac.jp</a></p>

講義コード	5440020							
講義名	看護管理演習Ⅱ							
Lecture name	博士前期							
代表ナンバリングコード								
講義開講時期	前期							
講義区分	演習							
基準単位数	1							
時間	30.00							
代表曜日								
代表時限								
ナンバリングコード								
<table border="1"> <tr> <td>所属名称</td> <td>ナンバリングコード</td> </tr> </table>			所属名称	ナンバリングコード				
所属名称	ナンバリングコード							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教授</td> <td>笠原 聡子</td> <td>基礎看護学講座</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教授	笠原 聡子	基礎看護学講座
職種	氏名	所属						
教授	笠原 聡子	基礎看護学講座						
<b>学修目標(到達目標)</b>								
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理学の研究方法について説明できる。</li> <li>2. 研究を行う際の効果的な手法や留意点について説明できる。</li> <li>3. 自身の研究課題における研究計画と遂行に関する意見を述べることができる。</li> <li>4. 論文執筆の際の報告すべき項目と留意点について説明できる。</li> <li>5. 自身の分析手法に関連した実験機器や解析ソフトについて説明できる。</li> </ol>								
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>								
<p>【教育目的】 看護管理学領域の国内外の先行研究レビューやクリティークをもとに討論することで、課題解決のために用いられている研究方法についての理解を深める。そのうえで、受講者自身の研究計画の立案と遂行に必要な知識を修得する。さらに、研究報告の際に含まれるべき情報や論文執筆における留意点についての理解も深める。また、自身の分析手法に関連した実験機器や解析ソフトの選定と使用方法についても検討する。</p> <p>【準備学修・事後学修】 各回講義のトピックについて主体的に調べるなど予習・復習し、疑問を持って授業に備えることが求められる。(各回所要時間：1時間程度)</p>								
<b>授業内容</b>								

授業内容は授業計画表に沿って進めるが、受講生の関心領域等により若干変更する場合がある。

### 授業計画表

第1回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	ガイダンス
	内容	科目の概要および第2回以降の内容について説明する。
第2回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	看護管理学領域の研究方法
	内容	領域全体のゼミナールに参加し看護管理学領域の研究方法について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第3回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	看護管理学領域の研究における分析方法
	内容	領域全体のゼミナールに参加し看護管理学領域の研究における分析方法について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第4回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	看護管理学領域の先行研究のレビュー
	内容	領域全体のゼミナールに参加し看護管理学領域の先行研究レビューについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第5回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	看護管理学領域の先行研究のクリティーク
	内容	領域全体のゼミナールに参加し看護管理学領域の先行研究クリティークについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第6回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	自身の研究課題に関連した先行研究のレビュー①
	内容	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究レビューについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
第7回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	自身の研究課題に関連した先行研究のレビュー②
	内容	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究レビューについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。

第8回

	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	自身の研究課題に関連した先行研究のクリティーク①
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究クリティークについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第9回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	自身の研究課題に関連した先行研究のクリティーク②
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究課題に関連した先行研究クリティークについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第10回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	自身の研究デザインに関連した研究報告ガイドライン①
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究デザインに関連した研究報告ガイドラインについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第11回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	自身の研究デザインに関連した研究報告ガイドライン②
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究デザインに関連した研究報告ガイドラインについて討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第12回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	自身の研究デザインに関連した研究報告ガイドラインに基づいた研究計画・論文執筆の留意点①
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究デザインに関連した研究報告ガイドラインに基づいた研究計画・論文執筆の留意点について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第13回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	自身の研究デザインに関連した研究報告ガイドラインに基づいた研究計画・論文執筆の留意点②
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の研究デザインに関連した研究報告ガイドラインに基づいた研究計画・論文執筆の留意点について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。
<b>第14回</b>	<b>担当 教員</b>	笠原 聡子
	<b>項目</b>	自身の分析手法に関連した実験機器や解析ソフトとデータ分析の検討①
	<b>内容</b>	領域全体のゼミナールに参加し自身の分析手法に関連した実験機器や解析ソフトとデータ分析の検討について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を

		述べる。
第15回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	自身の分析手法に関連した実験機器や解析ソフトとデータ分析の検討②
	内容	領域全体のゼミナールに参加し自身の分析手法に関連した実験機器や解析ソフトとデータ分析の検討について討論する。研究内容をレポートし自分の意見を述べる。

### 授業形式・授業形態

#### 【授業形式】

テキストおよび国内学の文献レビュー形式。

受講生は各テーマについて文献レビューの上、プレゼンテーションを行う。

原則対面での講義形式（zoom等でのオンライン講義も含む）

#### 【授業形態】

- ・スライド等を使用

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

#### ①総括的評価

- ・プレゼンテーション（50%）
- ・平常点（50%）：毎回の授業ごとの発言やコメント

上記について到達目標の達成度に基づき評価し、合計が60%以上を合格とする。

#### ②形成的評価

- ・毎回の授業ごとの発言やコメントについて、都度のフィードバックを実施する。

#### ③態度評価

・授業での発言や課題へ取り組む姿勢から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。

### テキスト（教科書等）

講義の中で随時紹介する。

### オフィスアワー(授業相談)

随時対応するが、電話やメール等で事前にアポイントを取ること。

### 学生へのメッセージ

課題学習および討論等、授業への積極的な参加を求める。

### 授業用E-mail

[kasahara@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:kasahara@belle.shiga-med.ac.jp)

講義コード	5460000	
講義名	看護実践実習（看護管理実践）	
Lecture name	博士前期	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	6	
時間	270.00	
代表曜日		
代表時限		
ナンバリングコード		
<b>所属名称</b>	<b>ナンバリングコード</b>	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
教授	笠原 聡子	基礎看護学講座
<b>学修目標(到達目標)</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理実践に必要な基本的技術や能力（コンピテンシー）を身につけることができる。</li> <li>2. 看護管理を実践する上での課題を整理し、活動計画を立案できる。</li> <li>3. 看護管理実践の評価ができる。</li> </ol>		
<b>授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)</b>		
<p>【教育目的】</p> <p>保健医療福祉の場における看護管理に必要な基本的技術や能力を実践フィールドでの実習をとおして習得する。また、実践フィールドを看護管理の視点から分析し、課題を明確にした上で、それらに対する具体的な活動計画を立案し、実践・評価を行う。さらに、これら実践内容についてプレゼンテーションと討議を行う。実践フィールド（研修施設等）は受講者各自が選定する。</p> <p>【準備学修・事後学修】</p> <p>各回の課題について主体的に調べるなど予習・復習することが望まれる。（各回所要時間：1時間程度）</p>		
<b>授業内容</b>		
授業内容は以下のとおりであるが、受講生の関心領域等により若干変更する場合がある。		

1. 実践フィールドでの実習等（看護管理実践）
2. 実践内容についてのプレゼンテーションと討議

### 授業計画表

実習と実践内容についてのプレゼンテーション・討議

第1回	担当教員	笠原 聡子
	項目	オリエンテーション
	内容	科目の概要および第2回以降の内容について説明する。
第2回	担当教員	笠原 聡子
	項目	実習・研修・カンファレンス等
	内容	実習フィールドでの実習・研修・カンファレンス等 (以下、同様に複数回継続)
第3回	担当教員	笠原 聡子
	項目	面談・指導
	内容	個別面談と指導 (以下、同様に複数回継続)
第4回	担当教員	笠原 聡子
	項目	プレゼンテーション・討議
	内容	実践内容についてのプレゼンテーションと討議 (以下、同様に複数回継続)
第5回	担当教員	笠原 聡子
	項目	まとめ
	内容	統括とまとめを通して、看護管理実践に関する理解を深めるとともにあり方について検討する。

### 授業形式・授業形態

#### 【授業形式】

実習、プレゼンテーション、討議

原則対面での講義形式（zoom等でのオンライン講義も含む）

#### 【授業形態】

- ・スライド等を使用

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

#### ①総括的評価

- ・レポート（30%）
- ・プレゼンテーション（40%）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点（30%）：ディスカッションなどの発言内容</li> </ul> <p>上記について到達目標の達成度に基づき評価し、合計が60%以上を合格とする。</p> <p>②形成的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で提示する課題についてはその都度フィードバックを行う。</li> </ul> <p>③態度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での発言や課題へ取り組む姿勢から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。</li> </ul>
<b>テキスト（教科書等）</b>
講義の中で随時紹介する。
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
随時対応するが、電話やメール等で事前にアポイントを取ること。
<b>学生へのメッセージ</b>
課題学習および討論等、授業への積極的な参加を求める。
<b>授業用E-mail</b>
<a href="mailto:kasahara@belle.shiga-med.ac.jp">kasahara@belle.shiga-med.ac.jp</a>

講義コード	5450000
講義名	看護学特別研究
Lecture name	修士
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	その他
基準単位数	10
時間	450.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	宮松 直美	臨床看護学講座
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座
教授	笠原 聡子	基礎看護学講座
教授	相見 良成	基礎看護学講座
教授	桑田 弘美	臨床看護学講座
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座
教授	辻村 真由子	公衆衛生看護学講座
教授	伊藤 美樹子	公衆衛生看護学講座
准教授	玉木 朋子	基礎看護学講座
准教授	荻田 美穂子	臨床看護学講座

### 学修目標(到達目標)

臨床家としての高度専門実践能力、あるいは研究者として求められる研究指導能力や、知識の提供に求められる能力の開発と、修了課題である修士論文の作成の過程として、倫理的規範の学習や研究方法の理解と文献検討をとおして、研究内容や結果、考察、将来的な研究課題について説明できる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

研究を進めるにあたり以下のことを教授する。

- 1) 問題関心について既存研究の特徴、課題や限界を明確化と整理

- 2) リサーチクエスションの明確化
- 3) 適切な研究方法を選択と適用
- 4) 研究の限界と課題の明確化
- 5) 研究実施（調査・実験等）
- 5) 研究成果の説明
- 6) 論文作成

### 授業計画表

第1回	担当教員	各担当教員
	項目	指導
第2回	担当教員	各担当教員
	項目	指導
第3回	担当教員	各担当教員
	項目	指導
第4回	担当教員	各担当教員
	項目	指導
第5回	担当教員	各担当教員
	項目	指導
第6回	担当教員	各担当教員
	項目	指導
第7回	担当教員	
	項目	指導
第8回	担当教員	各指導教員
	項目	指導

### 授業形式・授業形態

個人やグループのゼミ形式によるディスカッション等

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

総括的評価

研究計画書（50%）

研究成果（50%）

形成的評価

講義内容の主要テーマごとのコメントなどについて、都度のフィードバックを実施する

態度評価

授業での発言などから学習意欲を評価する

各授業時まで、検討資料の準備および疑問をもって備えることが求められる。

### テキスト（教科書等）

都度提示する

<b>参考文献等</b>
都度提示する
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
月 12:00-13:00 そのほか事前にメールなどの連絡により随時対応
<b>学生へのメッセージ</b>
積極的に参加してください。
<b>授業用E-mail</b>
<a href="mailto:namy@belle.shiga-med.ac.jp">namy@belle.shiga-med.ac.jp</a>

講義コード	5463000
講義名	看護実践課題研究（特定行為実践）
Lecture name	修士
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	その他
基準単位数	4
時間	180.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	宮松 直美	臨床看護学講座
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座
教授	辻村 真由子	公衆衛生看護学講座
教授	河村 奈美子	公衆衛生看護学講座
准教授	山口 亜希子	臨床看護学講座
准教授	荻田 美穂子	臨床看護学講座

### 学修目標(到達目標)

より高度かつ専門性の高い実践技術に基づく看護実践への貢献を目指すテーマに関して臨床家としての高度専門実践能力、あるいは研究者として求められる研究指導能力や、知識の提供に求められる能力の開発と、修了課題である修士論文の作成の過程として、倫理的規範の学習や研究方法の理解と文献検討能力の育成を図り、研究を遂行できる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

研究を進めるにあたり以下のことを学修する。

- 1) 問題関心について既存研究の特徴、課題や限界を明確化しながら整理する
- 2) リサーチクエスチョンを明確化する
- 3) 適切な研究方法を選択し適用できる
- 4) 研究の限界と課題を明確化できる
- 5) 研究成果を説明できる
- 6) 計画的・主体的に研究に取り組むことができる

各回の授業までに授業計画に応じた教材の該当科目や参考書を読み、疑問をもって授業に備えることが求められる

### 授業内容

以下の内容について、進捗状況に応じて教授する

- 1) 研究課題の設定
- 2) 文献検討
- 3) 研究方法論の検討
- 4) 研究計画書作成
- 5) 研究実施（調査・実験等）
- 6) 結果の検討
- 7) 論文作成

### 授業計画表

第1回	項目	オリエンテーション
第2回	項目	指導
第3回	項目	指導
第4回	項目	指導
第5回	項目	指導
第6回	項目	指導
第7回	項目	指導
第8回	項目	指導
第9回	項目	指導
第10回	項目	指導
第11回	項目	指導
第12回	項目	指導
第13回	項目	指導
第14回	項目	指導
第15回	項目	指導
第16回	項目	指導
第17回	項目	指導
第18回	項目	指導
第19回	項目	指導
第20回	項目	指導
第21回	項目	指導
第22回	項目	指導
第23回	項目	指導
第24回	項目	指導
第25回	項目	指導

第26回	項目	指導
第27回	項目	指導
第28回	項目	指導
第29回	項目	指導
第30回	項目	指導

#### 授業形式・授業形態

個人やグループのゼミ形式によるディスカッション等

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

研究計画書50%、研究成果50%

総括的評価

研究計画書（50%）

研究成果（50%）

形成的評価

講義内容におけるコメント等について都度のフィードバックを実施する

態度評価

授業での発言などから学習意欲を評価する

#### テキスト（教科書等）

都度提示する。

#### 参考文献等

都度提示する。

#### オフィスアワー(授業相談)

水曜 12:00-13:00 その他メール等の事前連絡により随時対応します。

#### 学生へのメッセージ

積極的に参加してください。

講義コード	5462000
講義名	看護実践課題研究（看護管理実践）
Lecture name	修士
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	その他
基準単位数	4
時間	180.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	笠原 聡子	基礎看護学講座

### 学修目標(到達目標)

研究を進めるにあたり以下のことを学修する。

1. クリニカルクエスションについて既存研究の特徴、課題や限界を明確化しながら整理する。
2. リサーチクエスションを明確化する。
3. 適切な研究方法を選択し適用できる。
4. 研究の限界と課題を明確化できる。
5. 研究成果を説明できる。
6. 計画的・主体的に研究に取り組むことができる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

#### 【教育目的】

看護管理をテーマとした臨床家としての高度専門実践能力、あるいは研究者として求められる研究指導能力や、知識の提供に求められる能力の開発と、修了課題である修士論文の作成の過程として、倫理的規範の学習や研究方法の理解と文献検討能力の育成を図り、研究遂行能力を養う。

#### 【準備学修・事後学修】

各回トピックについて主体的に課題に取り組むことが望まれる。（各回所要時間：2時間程度）

### 授業計画表

課題研究

第1回	担当教員	笠原 聡子
	項目	研究課題の設定
	内容	研究課題の設定についての指導と討議 (以下、同様に複数回継続)
第2回	担当教員	笠原 聡子
	項目	文献検討
	内容	文献検討についての指導と討議 (以下、同様に複数回継続)
第3回	担当教員	笠原 聡子
	項目	研究方法論の検討
	内容	研究方法論の検討についての指導と討議 (以下、同様に複数回継続)
第4回	担当教員	笠原 聡子
	項目	研究計画書作成
	内容	研究計画書作成についての指導と討議 (以下、同様に複数回継続)
第5回	担当教員	笠原 聡子
	項目	研究実施 (調査・実験等)
	内容	研究実施 (調査・実験等) についての指導と討議 (以下、同様に複数回継続)
第6回	担当教員	笠原 聡子
	項目	結果の検討
	内容	結果の検討についての指導と討議 (以下、同様に複数回継続)
第7回	担当教員	笠原 聡子
	項目	論文作成
	内容	論文作成についての指導と討議 (以下、同様に複数回継続)

授業形式・授業形態

【授業形式】

個人や集団のゼミ形式によるディスカッション等

【授業形態】

・スライド等を使用

成績評価方法 (成績評価基準を含む)

①総括的評価

・研究計画書 (40%)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果（40%）</li> <li>・平常点（20%）：ディスカッションなどの発言内容</li> </ul> <p>上記について到達目標の達成度に基づき評価し、合計が60%以上を合格とする。</p> <p>②形成的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での課題や討議についてはその都度フィードバックを行う。</li> </ul> <p>③態度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での発言や課題へ取り組む姿勢から学修意欲を評価する。学修意欲が良好な学生は平常点に加味することがある。</li> </ul>
<b>テキスト（教科書等）</b>
随時紹介する。
<b>参考文献等</b>
随時紹介する。
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
随時対応するが、電話やメール等で事前にアポイントを取ること。
<b>学生へのメッセージ</b>
課題学習および討論等、授業への積極的な参加を求める。
<b>授業用E-mail</b>
<a href="mailto:kasahara@belle.shiga-med.ac.jp">kasahara@belle.shiga-med.ac.jp</a>